

特集1 宇都宮共和大学シティライフ学シンポジウム(2024年7月2日)

「MICE都市」の創造に向けて
—産官学民による誘致戦略を考える—

特集2 宇都宮共和大学シティライフ学シンポジウム(2025年2月7日)

「大谷石文化」の魅力発信を考える
—フランク・ロイド・ライトがとちぎに残したもの—

都市経済研究センター年報

宇都宮共和大学

第25号
May. 2025

都市経済研究センター

軍艦島(端島炭鉱)(明治日本の産業革命遺産)

(撮影 高丸圭一)

宇都宮共和大学の地域社会連携・地域貢献ポリシー

宇都宮共和大学は、須賀学園の教育理念を踏まえ、大学の目的として、「時代の潮流と社会の要請を見極め、常に知識と能力を向上させるとともに大学を地域社会における知的交流の場とし、さらに経済、教育、文化の振興と社会の向上に貢献できる人材を育成することを目的とする」（学則第1条）と定めている。

宇都宮共和大学は、栃木県内に3つのキャンパスと活動拠点を有しており、学園の100年を超える伝統を生かしながら、絶えず「まち」、「ひと」に視点を当て栃木県央を中心とする北関東圏の「地域社会」の経済、教育、文化の向上と発展のために貢献することを目的とする大学である。

この目的を達成するために、本学は、「社会連携・社会貢献に関する方針」を次の通り定める。

1. 目的と使命

本学は、地域社会と連携し、時代の要請に応え、将来地元で地域社会の発展に貢献し、活躍できる人材を養成することに努める。

2. 産学官の連携

本学は、企業、自治体、各種団体・組織、市民等と積極的に連携し、地域社会の発展に貢献できるように努める。

3. 地域活動の拠点

本学は、本学の有する教育・研究資源を積極的に地域社会へ提供し、地域の教育・文化活動の拠点となるよう努める。

4. 地域貢献活動への支援

本学は、教職員・学生が、研究・教育の成果を地域社会に発信する活動及び教職員・学生が地域の活動や行政施策の助言者等として参画することを積極的に支援する。教職員は、「宇都宮共和大学コンプライアンス規程」の重要性を認識し、高い倫理観を持って行動する。

■特集 1

宇都宮共和大学シティライフ学シンポジウム（2024 年 7 月 2 日（火）実施）	
テーマ：「MICE 都市」の創造に向けて一産官学民による誘致戦略を考えるー	1

■特集 2

宇都宮共和大学シティライフ学シンポジウム（2025 年 2 月 7 日（金）実施）	
テーマ：「大谷石文化」の魅力発信を考える	
ーフランク・ロイド・ライトがとちぎに残したものー	45

■論稿・研究ノート

(1) 【論稿】「宇都宮都市圏」の社会的・経済的な特徴の実態に関する基礎的研究	
三浦 魁斗	96
(2) 【研究ノート】	
宇都宮共和大学まちまちサークルの設立までの経緯と 2024 年度の活動内容的研究	
坂口 豪	106

■学生による地域連携活動 116

■学生提案成果報告 大学生によるまちづくり提案発表会 2024

(1) 田川を起点としたにぎわい復興～ FROM TAGAWA TO THE FUTURE ～	
宇都宮共和大学シティライフ学部 まちまちサークル	122
(2) 「宮 Chil（ミヤチル）」育成プロジェクト	
宇都宮共和大学シティライフ学部 三浦ゼミ 2 年	128
(3) 宮リンピックによる共創の輪の創造～コミュニティ立脚型スポレクの展開～	
宇都宮共和大学シティライフ学部 陣内ゼミ 2 年	133
(4) まちづくりゲーム TENMIYA の提案～新たな宇都宮の価値の創造を！～	
宇都宮共和大学シティライフ学部 陣内ゼミ 3 年	139
(5) 私たちのまち宇都宮の新たな商店街の創造を目指して～戦略的商店街への挑戦～	
宇都宮共和大学シティライフ学部 内藤マーケティング論ゼミ	146

■宇都宮共和大学都市経済研究センターの主な活動報告 150

■専任教員の社会貢献活動一覧 154

シティライフ学シンポジウム
「MICE都市」の創造に向けて—産官学民による誘致戦略を考える—



1. テーマ 「MICE都市」の創造に向けて一産官学民による誘致戦略を考えるー
2. 日 時 2024年7月2日（火）14：00～16：45
3. 会 場 宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス
4. 次 第

- 西川 洋子 氏

(3) パネルディスカッション

「各都市に学ぶMICE誘致戦略」

パネリスト

宇都宮市魅力創造部長	安納 正和 氏
(前 掲)	西川 洋子 氏
(前 掲)	木村 勇一 氏
(前 掲)	鈴木 孝美 氏
(前 掲)	正木 章子 氏

司 会

宇都宮共和大学 学長・宇都宮まちづくり推進機構 理事長 須賀 英之

主 催 | 宇都宮共和大学都市経済研究センター

共 催 | 宇都宮まちづくり推進機構・宇都宮市創造都市研究センター

後 援 | 栃木県・宇都宮市・栃木県経済同友会・宇都宮商工会議所・栃木県まちなか元
気会議・大学コンソーシアムとちぎ・宇都宮観光コンベンション協会・栃木県
宅地建物取引業協会・宇都宮市大谷石文化推進協議会・下野新聞社・とちぎテ
レビ・栃木放送・エフエム栃木

■司会

それでは開催に当たり、初めに主催者を代表しまして宇都宮共和大学学長の須賀英之より開会のあいさつを申し上げます。

■須賀

宇都宮共和大学シティライフ学シンポジウムによるこそお越しくございました。今日は「『MICE 都市』の創造に向けて」と題して行います。私は学長の須賀英之と申します。どうぞよろしくお願い致します。

2022 年の 12 月になりますけれども、JR 宇都宮駅東口にライトキューブ宇都宮が開業しました。今日はパンフレットをお配りしてありますが、会議や展示会等が大変にぎやかに行われているようです。また、一昨年 2023 年の 8 月には東側に LRT が開業しました。それと相まって、新しいまちづくりの旗手として大変話題を呼んでいます。

これが一過性の開業人気とならないように、宇都宮市では MICE 戦略というものを策定し、マーケティングに基づいた、持続的な MICE の誘致を目指しておられます。

本日のシンポジウムは有識者の方々が大勢おみえです。先進地域の取り組みに学び、そしてまた国際会議を含めた MICE 誘致を実現し地域活性化の起爆剤とするために、その戦略を考えていきたいと思っています。



しかしそのためには、広域のアフターコンベンションの魅力創造あるいは誘致や運営のための組織、人材、財源、そして産官学民の連携ネットワークなどが必要になってきます。今日はこうした課題解決のために、ぜひお集まりの皆さまとご一緒に検討していきたいと思います。

最初に、横浜市の正木さまから基調講演をいただきまして、その後に新潟、宇都宮、そして運営者側の立場ということでコンベックス、以上のお三方からお話を頂きます。その後、宇都宮市魅力創造部長の安納さまにも加わっていただいて、そして正木さまにもコメントを頂き、5時前には終了になります。基調講演の後には一度休憩を取って、そして場面転換をしたいと思っています。

資料2にそれぞれの皆さまのプロフィールを書いてありますので、詳しくはこれをご覧いただきたいと思います。正木さまはもともと横浜市に入庁し、その後、観光コンベンション関係やパシフィコ横浜の運営管理などに当たられている、先進地域の先生でいらっしゃいます。

そして宇都宮市の、魅力創造部というのはあまり聞きなれない言葉かと思いますが、今年の4月に、一体的に文化とスポーツ、また産業のコンベンションなどの振興をするということでつくられた部です。そちらの部の、安納部長です。

西川専務さまはコンベックスの専務ということで、運営の立場で国際会議の運営などをされています。利用者側から見た望ましいコンベンションの運営の在り方ということで、今日お話をいただけるのではないかと思います。

木村副理事長は新潟の観光コンベンション協会の副理事長さまです。もともと新潟市の方でして、新潟市の副市長なども務め、幅広いご見識をお持ちです。

そして、宇都宮観光コンベンション協会の鈴木常務です。鈴木常務も宇都宮市で総合政策部の部長などを務められ、市政全般に貢献していらっしゃいましたが、一昨年より、まさに宇都宮市の非常に重要な政策である観光コンベンションのお仕事をしていらっしゃいます。そういった皆さまでするので、どうぞご期待いただきたいと思います。

最後になりましたけれども、本日の開催に当たりましては、宇都宮市まちづくり推進機構や創造都市研究センター、また栃木県宇都宮市、そして今日会長もおみえですが、宇都宮市の商工会議所をはじめとする関係団体の皆さまに大変お世話になりまして、あらためて感謝を申し上げます。

それでは、皆さまにとって有意義な時間となることを期待しています。本日は誠にありがとうございます。

■司会

ありがとうございました。それでは、基調講演をお願いします。ご講演は、横浜市にぎわいスポーツ文化局観光 MICE 振興部長の正木章子さまです。それでは正木さまから、「MICE 誘致のための都市づくり」と題しまして、お話をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

基調講演

「MICE 誘致のための都市づくり」



横浜市 にぎわいスポーツ文化局 観光MICE振興部長

正木 章子 氏

「MICE 誘致のための都市づくり」ということで今回テーマを頂きましたので登壇させていただきます、横浜市にぎわいスポーツ文化局観光 MICE 振興部長の正木と申します。どうぞよろしくお願いします。

■グローバルMICE都市 横浜

横浜の上位計画の位置付けをまず共有したいと思います。「グローバル MICE 都市横浜」として、平成 25 年の 6 月にグローバル MICE 戦略・強化都市に、東京都、横浜市、京都市、神戸市、福岡市、大阪府・大阪市、名古屋市・愛知県が選定されています。平成 27 年の 6 月にグローバル強化都市として、札幌市、仙台市、千葉県・千葉市、広島市、北九州市の 5 都市が選定されています。

日本国内を見てみますと、いろいろな都市でグローバル MICE 都市として切磋琢磨^{せつさたくま}しながら頑張っていこうということで、横浜も選定いただいています。[スライド 1.3]

また、「グローバル MICE 都市横浜」として、横浜市中期計画、上位計画の政策の一つとして観光 MICE 振興を位置付けています。こちらに観光入り込み客数などのグラフが書かれています。コロナの時に減ってしまったのですが、入り込み客数は昨年²⁰²²年の調査、2023 年ベースですと 3,600 万人です。消費額は 3,667 億円ということで、コロナ以降、2019 年のベースに戻ってきています。また、その下になりますが、パシフィコ横浜の国際会議の開催件数についても目標値を設定しています。こちらにつきましてもコロナ禍ではかなり苦戦しましたがけれども、徐々に回復の兆しがあります。[スライド 1.4]

横浜の強みの一つとしてアクセスのよさがあります。宇都宮市さんの施設を午前中に見せていただきました。駅直結で LRT もあり、また東京駅から新幹線で 50 分と、非常にアクセスがよいと感じました。

横浜は東京駅から 25 分、最寄り駅の横浜駅から 1 駅乗るか、歩いて 10 分ちょっとで、アクセスの良さはメリットです。羽田空港からも 25 分弱ですし、渋谷駅からもその程度です。新横浜駅も新幹線が止まり、そちらから 8 分と、非常にアクセスがよいです。[スライド 1.5]

皆さんに横浜をイメージしていただいた時に、みなとみらいやウオーターフロントの美しい景色を思い出していただけるかと思いますが、開放的なウオーターフロントで、5 キロぐらいで歩

いて回ることができます。

また、ホテルや商業施設、観光施設、そして企業・研究機能が集積しています。ホテルは集積が進んでいまして、横浜市内ですと直近の数字で 145 軒、2 万 3,250 室数あり、みなとみらい地区にもかなりの数のホテルが集積しています。

大規模イベントによるにぎわいとして、Kアリーナという 2 万人収容規模のアリーナ施設がオープンしました。また、ぴあアリーナなどの音楽系の施設も集積が進んでいます。

そして、豊富な MICE 開催実績ということで、横浜市が取り組んできた実績があります。そこに強みがあります。

こちらはデータです。横浜市の国際会議の開催状況について、2022 年はコロナの影響があるので 2019 年を見ていただきますと、開催件数は 277 件です。東京が 561 件、京都が 383 件、福岡が 313 件、神戸市が 438 件など、件数としては他都市が多いという状況です。

一方で、開催状況ということで参加者数を見ていただきますと東京に次ぐ 2 番目ということで、東京都が 30 万 8,000 余、横浜市は 30 万 3,700 位で、開催件数に比して参加者数が多いということになっています。

国際会議の開催実績について、直近のもので見ていきたいと思います。アフリカ開発会議については第 5 回の後に第 7 回が開催され、次も予定されています。参加者規模が多いもののがかなり開催されています。JCI の世界会議横浜大会ですと 1 万 7,306 人で、こちらは国際青年会議所の世界会議ですが、大規模なものも開催いただいています。[スライド 1.6]

「横浜 MICE に欠かせぬ存在、パシフィコ横浜」と書いています。パシフィコ横浜の開催件数は 30 件で参加者数は 5 万 700 件、外国人がその 3.3% ぐらいということで、国内の MICE 施設での開催件数としては 20 年連続で 1 位となっています。

パシフィコ横浜は民設民営の施設です。当初は横浜市や県や経済界の方々が出資をした、第 3 セクターということで株式会社横浜国際平和会議場という形になっているのですが、横浜市の公共的な施設として位置付け、しっかりとまちと一緒に連携してやっていかなければいけないという根拠にもなっていると思います。

ちなみに 2023 年度ですと、パシフィコ横浜の利用件数が 930 件で、来場者数が 363 万人です。仮に、人口規模と比べると、横浜市の人口は大体 380 万を切るぐらいなので、来場者数 363 万人は同じぐらいです。屋外には臨港パークという、ウオーターフロント側に港湾局が持っている公園のような緑地があり、そこでの利用も含めると 464 万人の方が来てくださっているということで、かなり多くの方に来ていただいています。

■パシフィコ横浜とともに歩んだ横浜 MICE

「パシフィコ横浜とともに歩んだ横浜 MICE」ということで、6 大事業の一つである都心部強化事業を受けてスタートした、みなとみらい 21 事業の中の一つなのですが、横浜も順風満帆ではなかったということで、横浜の歴史に触れたいと思います。

横浜が開港したのが 1859 年で、その 3 年後に生麦事件が起きました。島津久光のご一行が生

麦で行列している時に行列を遮ったイギリス人を、薩摩藩士が切りつけた事件ですけれども、その後廃藩置県が起これ、その後 1889 年、開港から 30 年後に市制が敷かれています。

その後、日清戦争や日露戦争、第一次世界大戦が起きました。そして関東大震災が 1923 年にありまして、横浜は多大な被害を受けました。その時の瓦礫^{がれき}で山下公園を埋め立てたという歴史もあります。

その後ですけれども、第二次世界大戦の後、横浜は日本最大の港湾都市だったということもあり、工業地帯の横浜も、度重なる空襲を受けまして、焦土と化したということです。

その後、ポツダム宣言を受託した後に進駐軍の接收が行われました。山下公園や競馬場など、中心部がほとんど接收され、全国の土地接收面積の 62% を横浜が占めたということで、横浜はかなり接收されたようです。

その後、高度成長期などを受け人口が急増したということもあり、東京のベッドタウン化をしていきました。人口急増により課題が出てきました。

人口の話をしてみると、最初、横浜市政が敷かれた時が 12 万人だったのですが、約 20 年後には 30 万人増えて 42 万人になりました。さらに 30 年後には 100 万人になり、さらに 27 年後には 200 万人になり、18 年後には 300 万人になりということで、100 万人オーダーでどんどん人口が増えました。

また、横浜市の市域面積もどんどん拡張し、市制が施行された時は 5.4 平方キロメートルだったのですが、今は 439 平方キロメートルと 70 倍以上の地域面積になっています。

こういった歴史や人口増加、地域の拡大などもありまして、横浜市では五重苦と言っているのですが、震災、経済恐慌、戦災、接收、人口急増に悩み苦難を乗り越えてきたということです。

この五重苦で、接收によって都市機能の整備が遅れたということがあります。また、人口急増によって東京のベッドタウン化し、人口急増により、学校の不足や計画的でない開発など、いろいろな課題が起こってきました。

このような中で、6 大事業を 1965 年に発表しました。このうちの一つがみなとみらいの 21 事業につながる都心部強化事業です。ちなみに 6 大事業には、ベイブリッジの建設や高速道路網の建設や地下鉄、あと金沢地先といいまして、工場団地などが集積しているエリアの埋め立て、あとは港北ニュータウンとあって、住宅地を計画的につくっていく建設事業などがあります。

こちらのポンチ絵は、都心部強化事業として、横浜駅の周辺地区と関内・伊勢佐木町地区の間をしっかりとつないで、中心地区をつくってこうと計画されました。この事業によって埋め立てなどが進んでくるのです。[スライド 1.7]

今の全体像としては JR がありまして、みなとみらい線という新交通が走っています。ここにみなとみらい 21 地区という、都心部強化事業で埋め立てた地区があるのですけれども……。横浜駅がこちらにあって、中心市街地、こちらに関内地区というところがあります。この旧市街地を一体化していくという事業です。

年表でお伝えしたいと思うのですが、1965 年に、横浜市が 6 大事業の一つとして都心部強化事業を発表しました。それを実現化するために委員会を立ち上げ、基本構想を報告いただき、基

本構想を主として決定し、地区組織をつくり、名称を作り、というような流れで、埋め立てをして区画整理をしていくということで、昭和 58 年に事業着工をしました。

徐々に取り組んでいきますが、埋め立て中央地区という第 1 工区が完了して、それとほぼ同時期に株式会社横浜国際平和会議場が設立されました。同じ年に、みなとみらい 21 地区に国立横浜国際会議場を建設ということで、西の京都と東の横浜の国立ということで、閣議で国立大ホール建設の了承を頂きました。

あとは、この横浜国際平和会議場に対して、国が民活法適用対象施設として会議施設を認定しました。民活法は、今は廃止されているのですが、こちらの対象施設には支援が設けられていました。

その後に、YES'89 という横浜博覧会が 1989 年に行われるのですが、この同時期に地域冷暖房、DHC と言っているものが竣工しました。あとは公園系ができていきました。またこの時点で、施設では横浜美術館がオープンしました。

その後 1991 年に、ホテルオープン、展示ホール竣工ということで、パシフィコ横浜の 1 期が竣工しました。その時の写真を見ていただきますと、着工前にはこのような形だったのが、徐々に土地もできていって、埋め立てと区画整理が進んでいます。

この後 1993 年に、横浜市は国から業務核都市基本構想の承認を受けました。各都市で首都機能を担っていくことと、セットで行政機関等を自治体などに移転するというものでした。この中にもパシフィコ横浜の整備を位置付けています。これに位置付けることで税制優遇も受けるなど制度も活用しています。

当初は横浜美術館と、パシフィコ横浜の 1 期部分だけがありました。パシフィコ横浜は駅から離れたところにあります。こちらが横浜駅で、こちらが桜木町駅で、パシフィコ横浜がここに、国際会議場、国立大ホール、展示ホールがあります。こちらに臨港パークという、港湾の緑地があります。

また、横浜美術館の他はほとんどできていなくて、当初はここら辺の建物もない中で、まずコンベンション施設から計画的に取り組んだということです。

1991 年の状況ですが、この半円形のものがインターコンチネンタルホテルで、その横にあるのが展示ホール、その間にあるのが国際会議場と国立大ホールです。周辺にはランドマークタワーがあるのですが、そちらはまだできていない状態の中で、こちらが竣工したということです。まずパシフィコ横浜ができて、周辺にどんどんまちづくりが進んできました。

右に書いてあるのですが、第 10 回国際エイズ会議ということで、数年前から横浜市と横浜コンベンション・ビューロー、当時のビューローと共に誘致活動を行い、アジアでの初開催が実現した会議です。感染者の受け入れや差別撤廃で、開催前から話題となりました。横浜市は受け入れに当たり、周辺の関連団体に向けて研修会を開催し、正しい知識の普及と教育啓発を積極的に行い、アジア、そして日本におけるエイズ教育の布石となった、大変貴重な会議を誘致したということです。

次に左になりますが、2002 年の FIFA ワールドカップのコリア／ジャパンの国際メディアセ

ンターとして使われました。パシフィコ横浜の展示ホールに報道拠点、国際メディアセンターを設置し、また、大会の前年の2001年には展示ホールをそれまでの2倍の2万平方メートルに増床をしています。平たいのが3つ、長方形に見えるのですが、それを倍にして、メディアセンターにする前年度に拡張をしています。

あとは、APECの首脳会議を2010年に開催しています。APECの日本開催は、1995年の大阪以来の2回目ということで、21の国と地域から1万600人の方に来ていただきました。APECの首脳会議の誘致実現については、アフリカ開発会議に続く大型の国際会議の開催となり、横浜の国際コンベンション都市としての地位を一層高めるとともに、横浜が開港150周年後の次の50年に向けて、国際都市として踏み出す重要な一歩となったと考えています。

次です。アフリカ開発会議は、日本政府が主導し、国連開発計画、アフリカ連合委員会、そして世界銀行と共同で開催する、アフリカ開発をテーマとした国際会議です。横浜市は2008年、2013年、2019年の第4回、第5回、第7回の開催地となりました。第7回のアフリカ開発会議では42名の首脳級を含むアフリカの53カ国のほか、国内外から1万人以上に参加いただき、わが国が主催する最大規模の国際会議となりました。次回の第9回は、2025年に横浜で開催予定となっています。

あと、右側ですけれども、ポケモンのワールドチャンピオンシップが開催されました。ポケモンのゲームとカードゲームの世界大会で、カードゲーム部門、ゲーム部門、ポケモンユナイト部門、ポケモンGO部門の4部門で構成されるものです。毎年世界中から各地域の国の激戦を勝ち抜いたプレーヤーの方が参加され、世界チャンピオンを巡って熱いバトルが繰り広げられます。ポケモンワールドチャンピオンシップ2023は、日本で初めて、さらにアジアで初めて開催されたということで、世界中から1,000人を超えるプレーヤーのほか、多くのポケモンファンの皆さまが横浜に集まりました。ポケモンワールドチャンピオンシップの時はまちもポケモン一色になっていました。こちらは、会場の外にもかなり出てきた取り組みです。

次です。パシフィコ横浜の機能強化ですが、パシフィコ設置の経緯も含め、横浜の大事な公共的な施設、MICE施設として整備をしてきました。施設整備の変遷ですが、1991年に会議センターとホテル棟が竣工、展示ホールが1期ということで、2万平米の半分が竣工しました。

その後94年に、国立横浜国際会議場、国立大ホールと言っている、5,000席の大ホールが完成しています。展示ホールの2期が先ほどのFIFAワールドカップのメディアセンターの前の年に竣工したのですけれども、2万平米の半分の左側、そちらが竣工しています。

その後さらに、左側にノースと書いてありますけれども、パシフィコ横浜ノースを開業しました。建物により事業手法も違いまして、その時代、時代で最適な事業手法を採ってきたかと思います。

パシフィコ横浜ノースについてはPFI事業で市の施設として整備しました。PFI法でコンセッション事業者運営に運営権を渡してやっていただくため、指定管理よりも裁量がある運営をしていたと事業スキームを採っています。

パシフィコ横浜は、オールインワン施設と言っているのですけれども、大ホール、展示ホール、

ホテル、そして会議室もあるという複合施設で、大きな展示セットの会場にも選んでいただいた実績もありますが、大きな展示会と会議がセットで開催される主催者の方から「この規模なら横浜ではできません」と毎年言われるという話を、パシフィコ横浜からも聞いていました。

展示ホールを広げないといけないし、1,000 人ぐらいのバンケットができるといい。横浜の大事な MICE 施設としてしっかりと機能強化していかなければいけないということになりました。

敷地の半分はホテルが立地しており、オールインワンというのがやはり強みなのかなと感じています。[スライド 1.8]

みなとみらいは、どんどん集積が進んできて、来街者の需要に応じてホテルや商業施設、また観光施設が集積をしてきています。横浜市内ですとホテルが2万室以上あるのですけれども、みなとみらい地区においても6,200 室ぐらいのホテルがあり、ホテルの集積も進んでいます。

ホテルの開業という意味でいいますと、直近ですと2023年に三井ガーデンホテルやヒルトン、2022年にはウェスティン、そして2020年にはカハラやニューオータニイン、そういった形で、2000年以降もホテルが開業しています。

そして商業施設ですと、ランドマークプラザやクイーンズスクエア、ワールドポーターズ、コレットマーレ、マークイズみなとみらいといったような複数の施設があります。観光施設ですと、観覧車があるところにコスモワールドという遊園地があったり、カップヌードルミュージアムという体験型のミュージアムがあったり、アンパンマンこどもミュージアムがあります。[スライド 1.9]

次です。これは見ていただけたらと思います。パシフィコ開業時のみなとみらいを見ていただきますと、パシフィコの会議センターと、半円形のものがインターコンチネンタルホテル、それと左のほうにちょっと入っているのが横浜美術館で、本当にそれだけですが、今ですとかなり集積が進んでいます。

みなとみらい地区の現在ということで、高水準のインフラ整備や景観を生かした街並みの形成、快適なビジネス環境の整備などを進めまして、街区開発の進捗状況^{しんちよく}としては94%が開発済みになっています。暫定利用を入れますと99%で、未利用地が1%という形になっています。

みなとみらいの来街者数もどんどん増えていまして、就業者数も13万4,000人ということです。当初は19万人を目指していたのでまだこれからというところもあるかと思いますが、徐々に伸びてきています。

みなとみらいや、都心部といわれるところ、左右のところについては、交通関係もしっかりやらなければならないということで、スライドがなくて恐縮ですが、分かりますか。ヨコハマ・エア・キャビンという都市の巡回型ロープウエーを設置しています。上空40メートルから見ながら移動できるという、全長600メートルちょっとのロープウエーがあったり、連結バスを走らせて回遊をしていただいたり、そういったこともしています。

今日のテーマが「産学官民による」ということですが、横浜市は、都心部において多彩な交通をしっかりと進めていこうということで、民間事業者の方々に、都心部で交通回遊性を向上させるためにできることを提案いただいて、その提案を実現するための協議により実現しています。

みなとみらい 21 地区の開発や事業活動がもたらす波及効果の推計です。こちらは産業連関表の公表の時期に合わせてやっているものです。波及効果もしっかりと出しながら、市民の方々にも理解をいただくことを目指して進めています。

建設投資による市内の波及効果ということで、累計額が3兆5,000億円程度で、年稼働による市内の経済波及効果は2兆846億円と出しています。[スライド 1.10]

話はちょっとずれてしまいますけれども、今、横浜市観光協会という、観光と MICE をやっているビューローがあるのですけれども。そこも横浜 DMO になりまして、データを活用したマーケットインでの施策をやっていくという取り組みをしています。しっかりとデータを示してきちんと KPI も設定する中で、何を効果的にやっていくかということが大事になっています。こういった経済波及効果などもしっかりやりながら、皆さんの理解を得られるよう取り組んでいます。

■これからの横浜 MICE

みなとみらい地区の開発についてもハード面はほぼ完了してしまっていて、残りは1%です。横浜駅や関内駅の周辺や、みなとみらいの都心部強化事業のものとあったエリアのところで、市街地整備事業なども計画されています。みなとみらいについては、ハード面はほぼ完了なので、地域の経済効果の最大化を目指しています。

市民や企業団体と共にまちが一体となって MICE 来街者をお迎えする環境づくり、ソフト面をやっていくということで、どんどん質を上げていくことと、市内事業者の方々と力を合わせて、市民の方々と力を合わせてやっていくというフェーズに移ってきているかと思っています。[スライド 1.11]

MICE の戦略的誘致の加速というところで、ターゲットとしては経済効果の高い中・大型の国際会議や医学会議やビジネスイベントなどを狙っていくということです。やはり日本最大級のオールインワンの複合 MICE 施設でありますパシフィコ横浜や、開催実績の蓄積、アクセス環境など、まちの特徴を生かしながらやっていこうと思っています。

これは、IEEE というものの、ICRA の会議の写真なのですが、ロボット工学とオートメーションに関する国際会議の時の資料になっています。こちらについては新しいノースの施設も含めて全館を利用いただきました。そこにガンダムの頭があるのですけれども、港湾のほうにガンダムがあったのをこちらに展示したりと、そういうこともしながらやっています。[スライド 1.12]

次です。MICE 参加者の回遊性向上と受け入れ環境整備ということで、アフターコンベンションの充実等によって経済効果を最大化していくということもあります。ユニークベニューと書いてあります。その左の写真は山下公園ですが、Park-PFI という手法を使ってレストランを設置しています。その屋外に足湯があるのですが、そこを使っていただくユニークベニューを開発しています。また、みなとみらいには企業がかなり集積をしまして、立地する際に「企業ミュージアムの設置」「アートの設置」をしています。

そういう拠点の集積を生かしたもののやテクニカルビジットの充実、あとは、アフターコンベンションで、ちょっと歩いたところに行きますと、立ち飲みができるような野毛という面白い地区

もありますので、まちぐるみで MICE 参加者に、回遊いただくような仕組みを構築していきたいと思っています。

ちょっと右のほうにお寺があります。そこで座禅体験をしていただいています。ここはお寺の方が英語も堪能ということで、参加された方にも非常に喜ばれているということもありますので、こういった日本的なものも取り入れながらと思っています。[スライド 1.13]

あとは社会的効果の拡大ということで、ビジネス機会やイノベーションを創出していきたいと思っています。市内の企業や大学、研究機関等との MICE 参加者と出展者とのマッチング、市内事業者の受注機会拡大、MICE 開催を契機としたビジネス機会の創出拡大に、今取り組んでいこうと思います。展示会をする時に横浜市観光協会ブースを一個借りまして、市内事業者の方に出席していただくようなこともやっています。

また、MICE を契機にして、最先端の技術情報や、あと研究者と子ども、若者が触れ合う機会を提供する次世代育成プログラムなどを行っています。6 月 30 日はちょうど AI の関係で次世代育成事業をやらせていただいたのですけれども、本当に最先端の研究をしている先生から子どもたちが直接お話を聞き、それで自分たちで考えるという事業を実施しました。引き続きやっていきたいと思っています。[スライド 1.14]

次世代育成事業は MICE に取り組み続けるからこそできることで、iPS 細胞の山中伸弥先生が参加される学会が 10 年以上前にあったのですが、その時にも先生に授業をしていただきました。お子さんたちが今どこで、その影響を受けてどうしているのだろうということをととても楽しみにすることで、そういう取り組みを積み重ねていきたいと思っています。

また、国際会議の参加者の方々に本当に短時間で、40 分しゃべって 10 分ディスカッション、40 分で 10 分ディスカッションというような市民公開講座もやっていただきました。本当に、興味関心の高い方々が参加しており、英語で直接やりとりするところも見て「MICE 開催の可能性は大きい」と実感しました。

そういうことに刺激を受けながら、社会的効果というところで、市民の方の感動や知的好奇心といったものにも貢献できたらいいなと思っています。ちなみにその写真の右側にありますが、小学生向けのプログラミング教室をやっていただきました。そういうものもやらせていただいています。

「結びに」というところです。グローバル MICE 都市ということ、そして中期計画の中での位置付けなどに加えまして、去年の 12 月に横浜市観光・MICE 戦略を作りまして。MICE の戦略的誘致や受け入れ環境整備、社会的効果の拡大などに向けてしっかりと取り組んでいこうということで、政策も含めてやらせていただいています。[スライド 1.15]

横浜ではまたアフリカ開発会議や国際会議、あとは今、観光関係ですと IP 連携という言い方をしているのですけれども、国内外のアーティストさんとの連携もやっています。しっかりと MICE というところもやっていき、社会的効果の最大のところを推進していこうと、一生懸命やっています。

あとは、横浜は 2027 年に GREEN × EXPO2027 が開催されます。会場は上瀬谷で、都心部か

ら少し離れている郊外部です。接收されていた上瀬谷通信基地が接收解除を受けまして、現在、都市計画や区画整理が進められています。

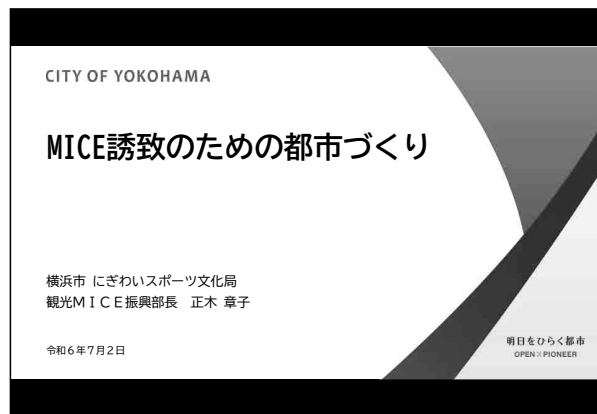
横浜市の取り組みを振り返ってみますと、上位計画があって、都市計画や個々の建築計画などのハードと、ソフト系をセットで考えてくる中で、相乗効果でやってきたのかなということです。引き続き取り組んでいきたいと思っています。

本当に、宇都宮市さんも駅前にできた施設も LRT も素晴らしいと思いました。私たちもしっかりとやっていきたいと思っているところです。

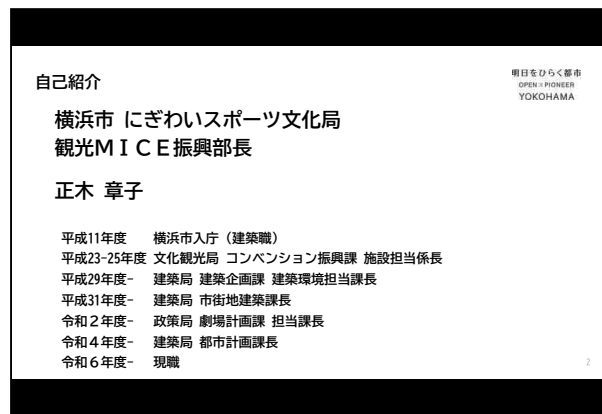
拙い説明だったかと思いますが、また事例紹介の中でも、ディスカッションでも加わりたいと思います。ご清聴いただきましてありがとうございます。

■司会

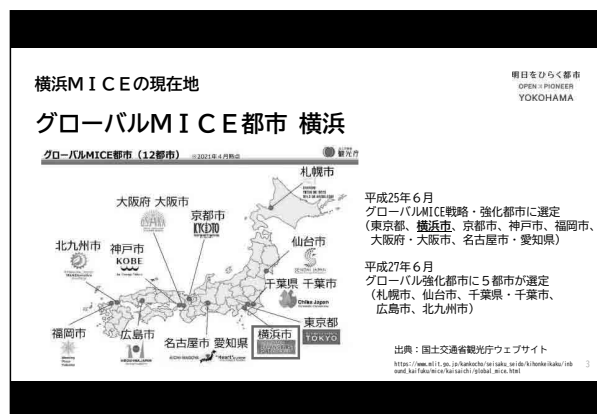
正木さま、どうもありがとうございました。



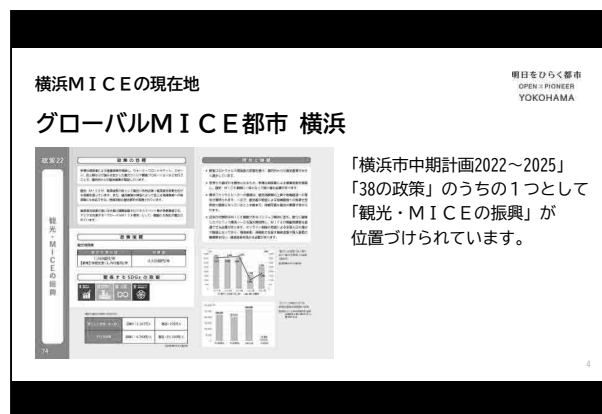
(1.1)



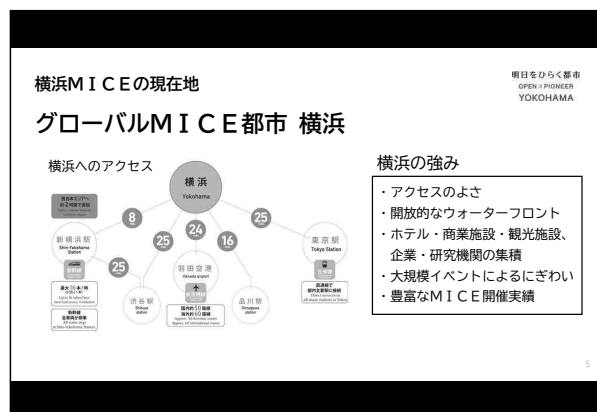
(1.2)



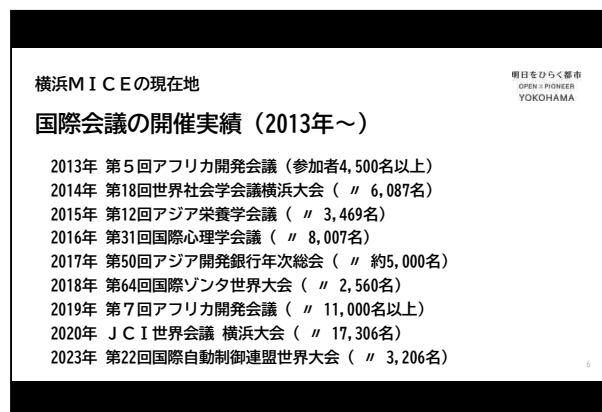
(1.3)



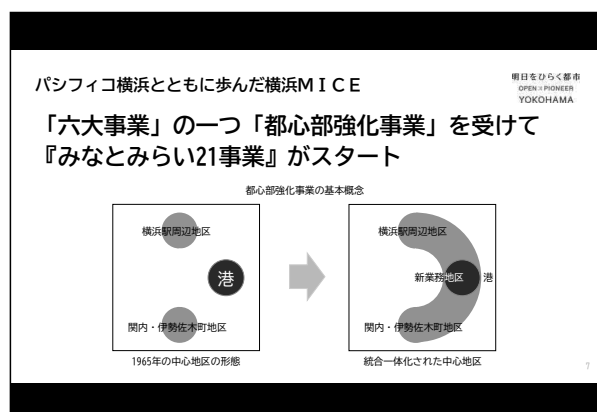
(1.4)



(1.5)



(1.6)



(1.7)



(1.8)

明日をひらく都市
OPEN・PIONEER
YOKOHAMA

パシフィコ横浜とともに歩んだ横浜MICE

MICE参加者をはじめとする来街者の需要に応じて
ホテルや商業施設、観光施設が集積



みなとみらい地区の
ホテル室数
6,193室(R6.6末現在)

9

(1.9)

明日をひらく都市
OPEN・PIONEER
YOKOHAMA

パシフィコ横浜とともに歩んだ横浜MICE

みなとみらい地区の現在地

みなとみらい21地区の開発や事業活動がもたらす
横浜市内への経済波及効果を推計しました！

みなとみらい21地区の経済波及効果は、横浜市長選連関表の公表に合わせて概ね5年ごとに推計しています。

このたび、令和3年度の産業連関表の公表を踏まえ、経済波及効果の推計結果をとりまとめました。

地区内における地区開発の進捗とともに建設投資や都市機能も進展に期待し、市内経済へも大きく寄与していることが伺えます。

◆建設投資による市内への経済波及効果
事業費手（昭和56年）からの増立や道路・公園等のインフラ整備、横浜ランドマークタワーをはじめとした建物建設など、建設投資による市内への経済波及効果の累計額は、約3兆4,968億円になります。

◆都市機能による市内への経済波及効果
令和2年の1年間に飲食・サービスなどの個人による消費（消費増進効果）や、企業の生産活動に伴う消費（製造増進効果）及びレジャー消費でのMICE客による消費など、都市機能による市内への経済波及効果は、約2兆846億円になります。

出典：横浜市記者発表資料（令和4年5月20日）抜粋

10

(1.10)

明日をひらく都市
OPEN・PIONEER
YOKOHAMA

これからの横浜MICE

みなとみらい地区の開発(ハード面)はほぼ完了

次のフェーズ

市域の経済波及効果の最大化を目指して
市民や企業・団体とともに、まちが一体となって
MICE来街者をお迎えする環境づくり(ソフト面)

11

(1.11)

明日をひらく都市
OPEN・PIONEER
YOKOHAMA

これからの横浜MICE

MICEの戦略的誘致の加速

ターゲットは、経済効果の高い中大型の国際会議
や医学会議、ビジネスイベント



12

(1.12)

明日をひらく都市
OPEN・PIONEER
YOKOHAMA

これからの横浜MICE

MICE参加者の回遊性向上と受入環境整備
アフターコンベンションの充実等により
経済効果の最大化



ユニークベニュー

体験型ツアー

13

(1.13)

明日をひらく都市
OPEN・PIONEER
YOKOHAMA

これからの横浜MICE

MICE開催による社会的効果の拡大
ビジネス機会やイノベーション創出



市内企業の出展支援

次世代育成事業

14

(1.14)

明日をひらく都市
OPEN・PIONEER
YOKOHAMA

これからの横浜MICE

結びに

2023年12月策定の横浜市観光・MICE戦略に基づき

- ・MICEの戦略的誘致
- ・MICEの受入環境整備
- ・MICE開催による社会的効果の拡大

を推進していきます



横浜市観光・MICE戦略
Strategy for Yokohama City Tourism and MICE

15

(1.15)

明日をひらく都市
OPEN・PIONEER
YOKOHAMA

ご清聴ありがとうございました

16

(1.16)

事例紹介

①

「新潟市における MICE の現状について」

公益財団法人新潟観光コンベンション協会副理事長

木村 勇一 氏

新潟観光コンベンション協会の木村と申します。本日はこのような機会を頂きまして誠にありがとうございます。

ようやく宇都宮市に来ることができました。前職で新潟市役所に勤務していた際、3回ほど宇都宮市さんに出張する機会がありました。ところが不思議なことに、直前になるといつもトラブルが発生して、代理に行ってもらおうということで、宇都宮市さんとはあまり縁がないのかなと思っていました。今回こういう機会を頂き、すぐに手を挙げさせていただきました。



ぜひとも宇都宮市さんの経済活性化の一助になりたいと思い、日帰り予定のところ1泊していくと決めました。今回はジャズと餃子はもとより、新たな宇都宮の魅力を発見して帰りたと思っています。

それでは、時間の都合もありますので、早速新潟市の MICE の現状について、目次のとおり4点、簡潔にご説明します。[スライド 2.2]

まずは新潟市の MICE 開催状況についてです。本市には、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターという県内最大級のコンベンション施設があります。この朱鷺メッセは新潟市の中心部にあり、新潟駅から車で5～6分、徒歩でも20分程度に位置しており、信濃川の河口に面しています。

展示ホールや大小13の会議室、そしてホテルが一体化した複合型コンベンション施設です。先ほど横浜市さんのパシフィコ横浜の話を聞き、大人と子どもぐらいの差があると思いましたが、日本海側では有数のホテル一体型のホールとなっています。主な収容可能人員は、展示ホールで最大1万人、メインホールで1,000人、国際会議室で540人などとなっています。

各ホールの稼働率は良好で、大規模会議はもとより、有名アーティストのコンサートや屋内スポーツの大会などで活用されています。ピーク時には2日間で約14万人の来場があった「にいがた酒の陣」も、こちらで開催されています。また昨年5月には、G7財務大臣中央銀行総裁会議を開催したほか、G20やAPECなど政府レベルの国際会議の開催実績もあります。

また、朱鷺メッセの隣には、約1,500人収容可能な万代島多目的広場があります。新潟では通称「大かま」と呼んでいますが、かまぼこ形をした旧魚市場で、朱鷺メッセと併用利用し、港の風景とマッチしたイベント開催が可能となっています。[スライド 2.3]

そして本市には、朱鷺メッセ以外にも大規模な MICE を開催できる施設が幾つかあります。新潟市民芸術文化会館は通称「りゅーとぴあ」とも呼ばれており、2,000 人収容のコンサートホール、900 人収容の劇場、またユニークベニユーとしても利用される約 400 人収容の能楽堂などがあります。この施設も複数の会議室を持ち合わせていて、本格的な音楽イベントから、MICE などの各種大会や会議の会場として、幅広い用途で利用されています。また、新潟市産業振興センターは最大 5,500 人収容可能で、本格的な展示会や見本市、集会などで利用されています。この他にも内容や規模に応じて多種多様な MICE に対応できるコンベンション施設を備えています。

なお、市内中心部には 43 施設、約 7,500 室の宿泊施設があり、約 1 万 1,000 人の収容能力があります。数千人クラスの大規模な MICE にも対応可能となりますが、コンサートやスポーツなど他の大規模なイベントと重なった時には宿泊施設の確保が難しく、ご不便をかけていますので、もう少し宿泊施設が欲しいところです。[スライド 2.4]

次に、MICE の開催実績についてです。スライドのグラフは県外から参加者のある学会、大会・会議、競技会などの開催状況となっています。コロナ前の 2018 年度には、過去最高の 250 件の開催がありましたが、新型コロナウイルスの影響により、2020 年度から 2022 年度は大きな落ち込みがありました。しかしながら、昨年 5 月の 5 類移行により、徐々に回復してきており、今年度の開催件数は約 200 件、総参加者数は 10 万人に達すると予測しています。また、参加者数が 3,000 人以上の大規模なコンベンションにつきましては、表に赤字で表記した通り、例年 5～6 件となっています。

大規模コンベンションの開催時は朱鷺メッセ全館を貸し切り利用する必要がありますが、各ホールや会議室の稼働率が高く、MICE 開催シーズンである春や秋などは 2～3 年前には予約が埋まるため、会場確保や他の施設への振替などが課題となっています。[スライド 2.5]

次に経済効果についてです。毎年 MICE 参加者からアンケートをとっておりまして、昨年度は 2,000 人以上のサンプルを徴収しました。その結果、1 開催につき 1 人当たりの平均消費単価は約 4 万 2,000 円で、昨年度開催されたコンベンションの総参加者数 9 万 5,652 人に消費単価の 4 万 2,025 円を乗じて算出すると、新潟市内には約 40 億 2,000 万円の直接消費経済効果があつたものと推定をしていますが、これが例年ベースまで回復すれば、約 50 億円の経済効果を上げられると思われます。[スライド 2.6]

このように MICE の開催は地域に大きな経済効果をもたらしますが、施設数は決まっており、また新たな施設の確保は難しく、参加者数の増加も限界がある中、今後は平均消費単価を上げること、および滞在日数を増やしていただくことが重要であると考えています。

次に誘致体制についてです。当協会の MICE 誘致推進部には現在 7 人の職員が在籍していますが、新潟県および新潟市の MICE 担当セクション、朱鷺メッセの誘致担当セクションと合わせて、4 者で情報を共有しながら連携して MICE 誘致活動を行っています。そのほか、PCO や宿泊事業者、旅行業者などで組織されている「新潟 MICE サポート」という民間組織とも連携を取って取り組んでいます。

また MICE のみならず、文化・スポーツイベントや合宿誘致・支援に取り組む「新潟市文化・

スポーツコミッション」の業務も行っています。他都市でもスポーツコミッションは多く組織されていますが、文化を含めたコミッションは数少なく、ロンドンオリンピックの際、文化プログラムの取り組みを見た当協会が国内で最初に設立をしました。現在は当協会と金沢市さんに文化・スポーツコミッションがあります。

MICE および文化・スポーツコミッションのセールス活動につきましては、地元の大学や同業種組合をはじめ、首都圏での主催者セールスを数多く行っています。首都圏には、MICE で年間約 150 件、文化・スポーツコミッションで約 100 件、合計約 250 件のセールスを毎年行っています。また、宇都宮観光コンベンション協会さんをはじめ、他の地方都市と連携した誘致セミナーや商談会などにも積極的に参加しています。[スライド 2.7]

次に MICE の開催支援についてです。コンベンション補助金につきましては、新潟県と新潟市の両方に補助金制度があります。国際会議の場合、新潟県で最大 850 万円、新潟市で最大 350 万円、合計で最大 1,200 万円まで併用しての利用が可能です。詳細につきましては、後ほど当協会ウェブサイトでご確認いただければと思います。[スライド 2.8]

次に、MICE 開催における補助金以外の支援につきましてご説明いたします。1 番目のアトラクション助成制度は、コンベンション開催時に本市の伝統芸能などを活用していただく際の助成金です。またエキスカッション助成制度は、開催中および前後に、団体で観光する際のバスや水上バスなどの助成金です。

次に歓迎メッセージですが、今年 3 月の新潟駅リニューアルに合わせ、当協会で運営している観光案内センターを新幹線および在来線の改札口正面に移転しました。当センターの入口上部にウエルカムボードとして、デジタルサイネージによる歓迎メッセージを多言語も含めて掲載しています。

この観光案内センターには 3 面 LED サイネージをはじめ、ムービングプロジェクターなど最新のサイネージを多用しており、観光案内センター閉店時にも新潟の四季やイベントの PR を行っています。また、新潟空港では約 160 インチの大型デジタルサイネージにて参加者の皆さまに向けた歓迎メッセージでお出迎えをしています。

このほか、コロナ禍に貸し出し用として購入したサーマルカメラや大型モニターなどの備品も無償貸し出しをしていますし、にいがた観光親善大使の無償派遣、観光パンフレット・コングレスバッグの無償提供なども行っています。[スライド 2.9]

次に新潟市文化・スポーツコミッションについてです。業務としては、文化・スポーツなどの競技大会や合宿、イベントなどの誘致支援活動を中心に行っています。目的は「交流人口の拡大による地域経済の活性化」で、MICE 誘致と同様の取り組みです。

2013 年 10 月に新潟市文化・スポーツコミッションを設立し、これまで多くの誘致支援実績を上げていますが、中でも 6 月 27 日から 30 日にデンカビッグスワンスタジアムで行われた「日本陸上競技選手権大会」は、今回で 3 回目の開催を迎え、今年はパリオリンピックの予選も兼ねていたため非常に盛り上がり、多くのメディアにも取り上げられました。

また、現在は「新潟県 e スポーツ連合（仮称）」の立ち上げに際し、新潟市文化・スポーツコミッ

ションとして支援をしています。今後はeスポーツの国内はもとより、国際大会の開催に向けて関係機関と連携をより強化していきたいと考えています。[スライド 2.10]

最後の課題については、SWOT 分析をしました。

まず、内部環境の強みは、朱鷺メッセの存在、補助金制度の充実、また空港・駅・高速道路など交通結節点としての首都圏や全国主要都市からの交通利便性、食・酒・伝統文化を活用したアフターコンベンションの開催などが新潟の強みであると考えています。

逆に弱みとしては、朱鷺メッセの稼働率が高く予約が取り難いこと、新潟駅から朱鷺メッセへのアクセス環境が弱いこと、また外資系などのグローバルブランドのホテルや知名度の高い観光スポットがないことなどが挙げられると思います。

外部環境による機会については、G 7 や APEC、G20 などの政府レベルの国際会議を多数経験していますので、そのノウハウを持っていること、ハイレベルな会合の開催による知名度が高いこと、また今年の春にリニューアルした JR 新潟駅高架化と改修に伴う利便性の向上などが挙げられるのではないかと思います。

最後に脅威としましては、宇都宮市さんをはじめ、国内に新たなコンベンション施設が複数完成し競争が激化していること、また他都市でも本県・本市以上の補助金を制度化しているところもあり、補助金額だけの競争になって欲しくはないという想いもあります。また横浜市さんをはじめとした「グローバル MICE 都市」への政府による重点的な支援も気になるところです。[スライド 2.11]

以上のように、強みや機会を活かし、課題解決に向けて努力をしながら、地元にあるコンベンション施設等と連携し、食や酒、みなとまち文化が織りなす新潟ならではのおもてなしで、今後も新潟市における MICE 開催の推進と地域経済の活性化に尽力していきたいと考えています。

◆須賀

ありがとうございました。さすがに宇都宮より 20 年先輩ですので、いろいろな取り組みをされていて大変勉強になりました。

「MICE都市」の創造に向けて
一 産官学民による誘致戦略を考える 一

新潟市における MICEの現状について

2024年 7月2日

公益財団法人新潟観光コンベンション協会 副理事長 木村勇一

(2.1)

- 1 新潟市のMICE開催環境
- 2 開催実績
- 3 誘致体制
- 4 課題（SWOT分析）

(2.2)

新潟市のMICE開催環境

〇朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

ホテル日航新潟

展示ホール(最大10,000人)

朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)

国際会議室 (最大540人)

【隣接施設】 万代島多目的広場(大かま)

・屋内面積 2,470㎡
・最大収容 約1500人

メインホール (最大1,000人)

(2.3)

新潟市のMICE開催環境

〇新潟市民芸術文化会館(りゅーとびあ)

劇場(最大900人)

コンサートホール (最大2,000人)

能楽堂(最大387人)

〇新潟市産業振興センター

展示ホール(最大5,500人)

宿泊施設(市内中心部)

・宿泊施設数:43施設
・客室数:約7,500室
・収容人数:約11,000人

(2.4)

開催実績

コンベンション開催件数の推移

新潟市内で開催された県外から参加者のある「学会、大会・会議、競技会など」の件数

※参考 「2023年度朱鷺メッセ稼働率」
〇展示ホール : 約64%
〇メインホール : 約76%
〇国際会議室 : 約59%

年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
開催件数(件)	240	250	182	18	52	132	172
(P3,000人以上)	[5]	[6]	[4]	[0]	[0]	[5]	[5]
総参加者数(人)	111,591	131,464	91,213	9,152	19,234	64,434	95,652

(2.5)

開催実績(経済効果)

コンベンション参加者による直接経済効果

2023年度開催コンベンション総参加者数 : 95,652人

1人当たりの平均消費単価 (アンケートより) : 42,025円/人

※平均消費単価の項目

- ・宿泊費 : 16,707円
- ・現地交通費 : 4,100円
- ・飲食費 : 11,608円
- ・土産、買物費 : 5,630円
- ・遊興、娯楽費 : 1,263円

参加者(95,652人)による直接消費経済効果
約40億2千万円

※2023年度当協会によるMICE参加者からのアンケート結果より(サンプル数:2,116人)

(2.6)

誘致体制

【体制】(公財)新潟観光コンベンション協会

MICE誘致推進部 7人

※新潟市文化・スポーツコミッションも兼務

他に...

- 〇「新潟県」及び「新潟市」MICE担当セクション
- 〇「朱鷺メッセ」誘致担当セクション

目的は同じ!!

上記4者で情報を共有しながら誘致・支援活動

【主なMICE誘致事業】

- (1) 地元の大学、各種同業種組合などへのセールス活動(随時)
- (2) 首都圏など学会系・大会系本部へのセールス活動(年:約150件)
- (3) 誘致セミナー、商談会等の開催によるプレゼンテーション(年:5回)

(2.7)

誘致体制(支援制度)

MICE開催支援制度

新潟県及び新潟市の「コンベンション補助金制度」

新潟県コンベンション開催費補助金制度 (窓口)新潟観光企画課 上限850万円

新潟市コンベンション開催補助金制度 (窓口)(公財)新潟観光コンベンション協会 上限350万円

新潟県、新潟市の補助金は併用可能
併用することにより最大1,200万円までの補助が可能

(2.8)

誘致体制(支援制度)

その他の支援制度

- (1) アトラクション助成制度 (伝統芸能等の出演料の1/2、上限20万円)
- (2) エキスカーション助成制度 (バス、水上バス等の借上料の1/2、上限20万円)
- (3) 新潟駅、新潟空港のデジタルサイネージへ歓迎メッセージの掲出
- (4) サーマルカメラ、デジタルサイネージ等備品の無償貸出
- (5) 「にいがた観光親善大使」の派遣 (1開催1名まで無償)
- (6) 観光パンフレット、コンgresバッグの無償提供




新潟駅内 観光案内センター サイネージ

新潟空港 サイネージ

(2.9)

新潟市文化・スポーツコミッションの活動

○文化、スポーツなど各種競技大会や合宿を誘致・支援する活動
○文化的なイベントを誘致・支援する活動

スポーツ大会や合宿、文化的なイベント開催による 交流人口の拡大、地域経済の活性化

誘致・支援実績

《大会》 ● 世界ゲートボール選手権大会 (20カ国・地域)
● 日本陸上競技選手権大会
● 日米大学野球選手権大会
● 日中韓学生卓球交流戦
● 全日本選抜選抜軟式野球大会

《合宿》 ● スケートショートトラック日本代表合宿
● フィギュアスケートロシア代表平昌五輪直前合宿
● 侍ジャパン女子野球日本代表合宿

《文化イベント》 ● 新潟国際アニメーション映画祭




※「新潟県eスポーツ連合(仮称)」の立ち上げを支援
eスポーツ大会の開催に向けて関係機関との連携を強化していく

(2.10)

課題(SWOT分析)

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	強み(Strengths) ○ホテルが隣接する複合型コンベンション施設・朱鷺メッセの存在 ○全国トップクラスの補助金制度 ○首都圏及び主要都市からの交通の利便性(上越新幹線、新潟空港、各高速自動車道) ○新潟県、朱鷺メッセとの連携・情報交換 ○医療系の大学が市内に複数存在 ○食・酒・文化(古町芸妓等)をアフターコンベンションに活用できる	弱み(Weaknesses) ○朱鷺メッセの稼働率が比較的高くMICEシーズンの春、秋は予約が取り難い ○新潟駅から朱鷺メッセのアクセス環境が弱い ○外資系などグローバルブランドのホテルが無い ○知名度の高い観光地(施設)が無い ○ユニークベニューとして利用する会場が少ない
外部環境	機会(Opportunities) ○ハイレベル国際会議(APEC、G7、G20等)の開催実績による知名度アップ ○国を挙げてMICE・国際会議誘致の積極的な推進 ○JRN新潟駅高架化、改修に伴う利便性のアップ ○隣接都市にあるコンベンションセンターの大規模改修による休館	脅威(Threats) ○国内における新たなコンベンション施設完成による更なる競争激化(宇都宮、高崎、長崎等) ○コンベンション補助金の補助金額の高騰 ○グローバルMICE都市など観光庁による主要都市への重点的な支援 ※グローバルMICE都市(12都市) 東京・横浜・京都・神戸・福岡・名古屋・大阪・札幌・仙台・千葉・広島・北九州

(2.11)

事例紹介

②

「宇都宮市におけるMICEの実績、誘致等体制、課題」

一般社団法人宇都宮観光コンベンション協会常務理事

鈴木 孝美 氏

皆さん、こんにちは。宇都宮観光コンベンション協会の鈴木です。それでは時間の関係もありますので、早速説明に入らせていただきます。

まず2ページです。MICE 推進に係る宇都宮のこれまでの取り組み経過です。まず、背景としましては1つ目の矢印にありますように、少子・超高齢化社会、それと人口減少時代の到来があります。人口減少が消費活動の減少を招く、あるいは生産年齢人口の減少が都市の生産力の低下を招くということで、経済規模の縮小が、都市の活力低下の悪循環を生み出すことが想定されます。こういったことを避けて持続的経済成長を図るための取り組みとして、今回MICEが始まりました。



MICE に取り組む目的としては主に2点あります。まず1つ目は、経済・消費活動の裾野が広く、大きな経済波及効果が期待できるということです。2つ目は、交流人口の拡大により、新たなビジネス・イノベーション機会の創出等が期待されるということです。

こうした背景あるいは目的の下、これまでの取り組みの経過としましては、1つ目に、令和4年の3月に「宇都宮市 MICE 戦略」を策定しました。2つ目ですが、そのために令和4年度4月から、宇都宮市と観光コンベンション協会に MICE の専任組織を設置しました。そして5つ目のポチにありますように、官民一体となった MICE 推進を図るために「宇都宮 MICE ネットワーク」を設置したといった状況にあります。[スライド 3.2]

続いて3ページ目です。こちらは宇都宮市の MICE 戦略についてです。MICE 戦略はこの図にありますように、市民や教育機関、民間組織などの地域のさまざまなステークホルダーがオール宇都宮で MICE を連携して推進することで、一番上にありますが、魅力と交流を創出し続ける都市、「MICE 交流未来都市・うつのみや」を実現しようというものです。[スライド 3.3]

4 ページです。先ほどの「目指す将来像」の実現に向け、ここに記載のとおり、基本施策の1の宇都宮の強みや特徴を生かした MICE の誘致から、基本施策の4のオール宇都宮による推進体制の構築まで、こういった4つの基本施策を掲げて取り組んでいます。詳細については後ほどご覧いただければと思います。[スライド 3.4]

続いて5ページ目です。宇都宮市における推進体制についてです。これは先ほどの、基本施策

の4のオール宇都宮での推進体制の部分ですが、この図の右側は市になります。市が主に企画立案、そして左側の観光コンベンション協会は現場の実施と、こういった役割を担いながら、一番下の MICE ネットワークの皆さま方と三位一体となって MICE の誘致あるいは支援に取り組む体制を構築し、現在取り組み中ということです。[スライド 3.5]

続いて6ページです。MICE ネットワークのイメージを記載したものです。このネットワークでは、経済や教育、金融、宿泊、交通、観光などの幅広い分野から 34 団体に参画をいただき、各団体の強みを生かし、互いに補完し合いながら、オール宇都宮で MICE を推進しています。ちなみにこちらの MICE ネットワークの会長に、須賀先生にご就任いただいています。[スライド 3.6]

7 ページです。その 34 団体の詳細です。記載のある 34 団体にご参画をいただき、一番下に令和5年度の取り組みを記載しています。年2回定例会を開催し、市や協会の取り組みの共有、また情報交換会での課題や事例の共有、MICE セミナーの開催などを行っています。また、具体的にお互いに連携をした取り組みということで、MICE 誘致のチラシを制作して大学で配布したり、あるいは商談会に MICE ネットワークの会員の方に同行いただいたりと、そういった連携をしています。[スライド 3.7]

続きまして8ページです。ここからは MICE 戦略に基づく実際の取り組みにつきまして、誘致と支援に分けてお話をさせていただきます。

まず誘致についてです。(1) にありますように MICE の誘致セールスでは、学会や団体、大学教授等に対して訪問セールスを実施しています。件数は記載のとおりです。特に首都圏を中心に、今、重点的にセールスをかけているところです。また(2)として商談会や学術大会への出展ということで、都内の催事主催者や旅行会社、PCO に向けた商談会や学術大会で PR ブースを出展し、MICE の開催決定権を持つ「キーパーソン」にセールスを実施しているという状況です。[スライド 3.8]

9 ページです。(3) にありますようにキーパーソン^{しょうへい}招聘事業ということで、年2回開催しています。これは開催地の決定権を持つキーパーソンや PCO の方に本市においていただき、本市での MICE の開催の魅力を PR している事業です。令和5年度は 31 名の方においていただき、うち4催事が本市で開催決定となりました。

また(4)としましては、官民が連携したセールス体制の構築です。市内の事業者の方々がキーパーソンへ誘致活動をする際の交通費や宿泊費の一部を助成する、ここに記載のような誘致促進補助金といったものを令和5年度に創設をして、活動をしているという状況です。制度の概要はそこに記載のとおりです。[スライド 3.9]

10 ページのその他の誘致事業です。5つほど書いてありますが、MICE 専門誌の『MICE JAPAN』というものがあります。そういったものへの広告の掲載、あるいは専門サイトや MICE プロモーション動画の作成・活用ということで、それぞれ英語版もありまして、それで PR をしています。QR コードも付いていますので、後ほどご覧いただければと思います。[スライド 3.10]

続きまして11ページです。こちらは MICE 支援に係る取り組みについてです。まず(1)とい

うことで、コンベンション開催支援補助金の交付をしています。国際コンベンションで最大 500 万円、そして国内コンベンションで最大 300 万円という補助制度を持っています。さらにそのほかの補助ということで、下にありますようにシャトルバスの運行補助金、エクスカッション補助金などがあります。また、令和 6 年度からケータリング支援補助金というものを創設し、こういったものもご活用いただくようにしました。[スライド 3.11]

また、12 ページは参加者の歓迎および開催サポート支援です。こちらは主催者の要望に応じて会場内へのお土産コーナーの設置あるいは懇親会等のアトラクションの手配、こちらに書かれたようなもので開催のサポートを実施しています。[スライド 3.12]

13 ページです。その他の支援事業ということで、記載のとおりコンベンションバッグの提供や、あとは歓迎サイネージ、これは JR 宇都宮駅の新幹線改札を出たところに設置します。その他、この写真にあるようなバナースクリーンの貸し出しをして、会場のにぎわいづくりなどに利用していただいている状況です。[スライド 3.13]

14 ページです。各種取り組みによる宇都宮市における MICE 実績についてです。令和 4 年の 11 月にライトキューブ宇都宮の供用開始により、開催件数・参加人数は想定を上回る伸びを見せています。令和 5 年度は 212 件が開催され、15 万人以上に参加いただきました。また、その右側にあります令和 5 年度の経済効果、これは直接効果ですが、15.7 億円と算出しました。ちなみに先ほどの MICE 戦略の中では、令和 8 年度に目標値として 220 件、そして経済効果は 22 億円を掲げてやっているとあります。

なお、件数の伸びに比べて経済効果が若干伸びていないのは、今回の令和 4 年度から令和 5 年度の伸びのほとんどをライトキューブの日帰りのイベントが占めているという状況だったからです。なかなか一人当たりの消費単価が、宿泊ありの学会や大会に比べてかなり落ちるということもあり、消費効果全体としてはちょっと伸びなかったということです。今後は宿泊を伴う学会や大会、あるいは国際 MICE を積極的に誘致していく必要があると考えています。[スライド 3.14]

続きまして 15 ページです。MICE を取り巻く課題です。現在の MICE の喫緊の課題としては、記載のように、国際 MICE の積極的誘致と官民一体となった誘致・受け入れ態勢の強化、これが大変重要と考えています。

国際 MICE の積極的誘致につきましては、やはり消費単価が一般の観光に比べましてかなり高いという状況もあります。先ほどの、MICE 戦略の目標値が 22 億円と、これを達成するためにも、経済効果の高い国際 MICE の獲得に向けて取り組む必要があると考えています。

また 2 つ目の、官民一体となった誘致・受け入れ態勢の強化につきましては、MICE ネットワークのメンバーも含めた市内の官民のさまざまなステークホルダーが、MICE 開催の意義や効果といったものを共通理解した上で、それぞれが強みを生かし、そして補完し合いながら、それぞれが自分たちのメリットを享受できるような形で取り組んでいく必要があると考えています。[スライド 3.15]

続いて 16 ページです。課題解決に向けた令和 6 年度の主な取り組みを記載しました。まず国際 MICE の積極的誘致につきましては、1 つ目が、国際会議の開催に向けた誘致セールスの強化

です。英語版の「コンベンションガイド」の活用、そして「Japan MICE EXPO」などの、数多くの海外のバイヤーや PCO が参加する商談会への出展を考えています。

また2点目で、海外プロモーション・セールス体制の整備ということで、今年の4月から協会内に英語対応ができる人材を配置しています。

また3つ目としましては、国際会議向けプロモーションツールや広域連携コンテンツの作成です。本市の魅力あるいは開催のメリットを盛り込んだ「セールスシート」を作り、商談会で活用していきたいと考えています。また、他都市との連携は大変重要と考えていますので、連携をしながらユニークメニューやエクスクーショのメニューを作っていきたいと考えています。

また4点目の、JNTO、日本政府観光局との連携も大変重要だと思います。JNTO や観光庁等とのネットワークを強化して、海外 MICE に関する情報収集・発信の強化や課題解決策の検討に取り組んでいきたいと考えているところです。

また、官民一体となった誘致・受け入れ態勢の強化につきましては、「コンベンションビューロー支援事業」、これは観光庁の事業で、地方都市を対象にコンサルティングの支援を頂けるということで、先月採択をされたところです。こういったものを活用しながら取り組んでいきたいと考えています。

また、そのほかにはやはり広域連携での受け入れ、協力体制の構築、さらには各種学会や大会・催事等に関する顧客データの蓄積とデータに基づく効果的・効率的な誘致、こういったものにも取り組んでいきたいと考えています。[スライド 3.16]

最後の 17 ページです。今後取り組むべき課題ということで、短期的、あるいは中長期的なものも入っています。

1つ目としましては、インバウンドも見据えた「食」の多様性への対応や、さらには、さらなる多言語化の推進ということで、「ハラール」や「コーシャ」、「ベジタリアン」、そういったものに対応できる飲食店情報を早急に集めたいと考えており、また、MICE 施設周辺の店舗等の案内の多言語化も必要だと思っています。

2点目としましては、MICE キーパーソンとの人的ネットワークの構築ということで、特に首都圏等の大学や企業等との「人的ネットワークの構築」をしていきたいと考えています。

また3つ目としましては、ナイトタイムコンテンツの強化・充実ということで、アフターコンベンションを楽しんでもらえるような情報提供の仕組みが必要かと思います。これは、泊まっていただく仕掛けということで、大変重要だと考えています。

また、そのほかには MICE 情報の発信強化や DX の推進というものもあります。さらに最後には、やはり「SDGs」の視点を取り入れた開催支援も必要と考えています。特に主催者に開催地として選んでいただくためには、「SDGs」の視点というのはやはり欠かせないということで、こういったものにも積極的に取り組みながら、主催者や参加者の満足度の向上に取り組んでいきたいと考えています。[スライド 3.17]

以上が宇都宮の事例紹介です。大変駆け足での説明で分かりにくいところもあったと思いますが、ご容赦いただければと思います。ご清聴ありがとうございました。

◆須賀

ありがとうございました。宇都宮も2年間ですけれども、矢継ぎ早にさまざまな政策を打ち出しています。ぜひ皆さまもご理解をいただければありがたいと思います。



(3.1)

1. MICE推進に係る宇都宮市の取組経過

【背景】

- 都市をめぐる社会展望として、少子・超高齢社会と人口減少時代の到来があげられる。
- 人口減少は消費活動の減少を招くとともに、生産年齢人口の減少は都市の生産力の低下を招き、経済規模の縮小や投資余力の低下が懸念される。
- 宇都宮市においては、約51.6万人の人口(2022年3月1日現在)が2050年までに約42万人減少することが見込まれている。
- 経済規模の縮小は、人々の集積や交流を通じたイノベーションを生じにくくし、成長力が低下するといった、都市の活力低下の悪循環を生み出すことが想定される。
- そのため、持続的経済成長を図るため、宇都宮市の強みを活かした経済の活性化に向けた取組が求められている。

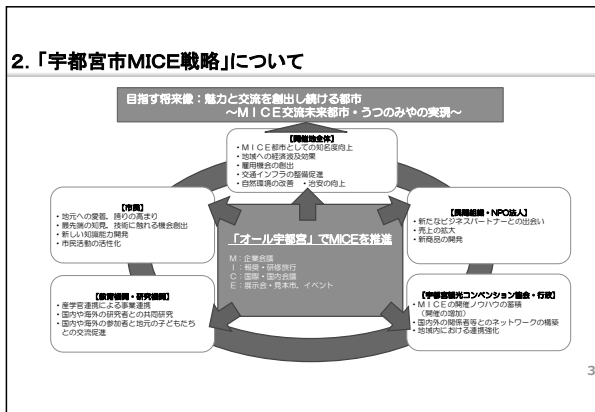
【MICEに取り組み目的】

- MICEは、会議開催、宿泊、飲食、観光など経済・消費活動の裾野が広く、大きな経済波及効果が期待される。
- 国内外からの交流人口の拡大により、新たなビジネス・イノベーション機会の創出が期待される。
- MICEを通じた人や情報の流通、ネットワーク構築の容易さなどは、都市の競争力やブランドイメージの向上につながることを期待される。

【これまでの取組経緯】

- 「宇都宮市MICE戦略」の策定(令和4年3月)
- 宇都宮市・宇都宮観光コンベンション協会への専任組織の設置(令和4年4月)
- 「ライトキューブ宇都宮」の供用開始(令和4年11月)
- 宇都宮市総合計画の施策等に「MICE推進」を位置付け(令和5年2月)
- 官民一体となったMICE推進を図る「宇都宮MICEネットワーク」の設置(令和5年3月)

(3.2)



(3.3)

2. 「宇都宮市MICE戦略」について

- 宇都宮市MICE推進における「目指す将来像」の実現に向け、以下の基本施策を掲げる。
- また、基本施策に基づく基本事業を設定し、これらに産官学が一体となり取り組む。

基本施策1 宇都宮の強みと特徴を活かしたMICEの誘致

マーケティングに基づく戦略的な誘致活動を展開するとともに、宇都宮市の魅力を訴求できるようプロモーションの強化に取り組むことで、多くのMICE獲得を目指す。

基本施策2 開催支援・プログラム内容の充実

主催者の問合せにワンストップで応える窓口の設立等のサポート内容の充実や宇都宮の資源を活用したユニークメニューの開発など、MICE開催支援・プログラム内容の充実を図ることで、多くのMICE獲得を目指す。

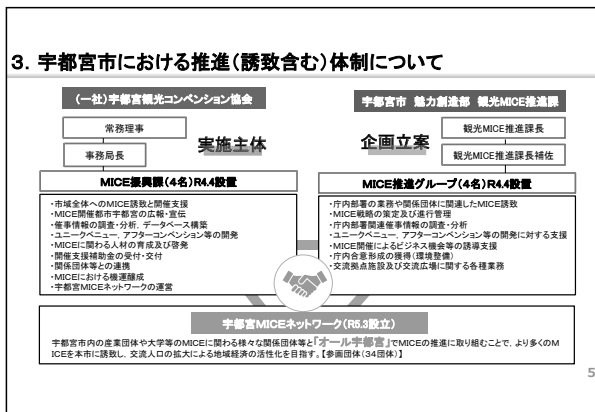
基本施策3 宇都宮ならではの強みと資源の有効活用

MICE開催を促進したビジネス機会の創出や地域産業の国内外へのPRに取り組むとともに、産業視察や工場見学等のテクニカルビジットの受入先の拡充を図ることで、MICE開催を通じた地域産業の活性化を目指す。

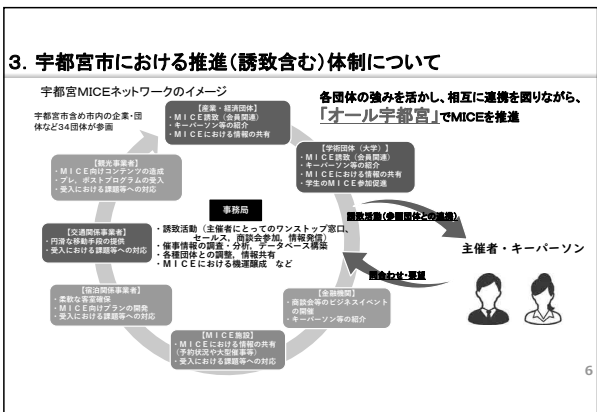
基本施策4 オール宇都宮による推進体制の構築

宇都宮としてMICEを実行するための体制を確立するとともに、MICEに関わる多様な人材の育成や地域の機運醸成など、MICEにおける推進体制の高度化を目指す。

(3.4)



(3.5)



(3.6)

3. 宇都宮市における推進(誘致含む)体制について

構成団体(34団体)		
1 うつのみや産業振興協議会	12 柳足利銀行	23 東日本旅客鉄道㈱
2 栃木県経済同友会	13 ㈱栃木銀行	24 東京鉄道㈱
3 宇都宮商工会議所	14 宇都宮駅東口交流拠点施設	25 宇都宮ライトレール㈱
4 宇都宮大学	15 宇都宮市文化会館	26 関東自動車㈱
5 宇都宮県立大学	16 栃木県総合文化センター	27 宇都宮タクシー協議会
6 作新学院大学・作新学院大学女子短期大学	17 栃木県立宇都宮産業展示館	28 宇都宮観光推進協議会
7 文星芸術大学	18 宇都宮市ホテル旅館協同組合	29 宇都宮市観光土産品協会
8 帝京大学宇都宮キャンパス	19 ㈱UTB宇都宮支店	30 株式会社下野新聞社
9 独仙医科大学	20 近畿日本ツーリスト㈱宇都宮支店	31 株式会社とらぎテレビ
10 自治医科大学	21 ㈱日本旅行宇都宮支店	32 株式会社フジム栃木
11 国際医療福祉大学	22 東武トップツアーズ㈱宇都宮支店	33 一社)宇都宮観光コンベンション協会
令和5年度の取組		34 宇都宮市観光MICE推進課

年2回定例会の開催

- 市や協会の取組の共有
- 情報交換会の開催
- MICEセクターの開催

連携した取組例

- MICE誘致チラシの制作
- 誘致チラシの大学内配布
- 大学教員や会員企業等への開催意向アンケート調査の実施
- MICE施設による協会セールス(商談会)への同行 等

(3.7)

4. MICE誘致に係る主な取組について(R4～5)

(1) MICE誘致セールス

⇒ 年間を通して、学会や団体、大学教授等に対して、本市開催の動機付けとなるよう市内コンベンション施設や開催支援補助費をまとめたガイドブックを活用しながら、訪問セールスを実施

セールス件数	R4年度	R5年度
うち官公庁等	300件	326件
うち県内	181件	257件
	119件	69件

(2) 商談会や学術大会への出展

⇒ 市内の催事主催者や旅行会社・PCO(会議専門会社)に向けた商談会や教授等が多く参加する学術大会にPRアースを出展し、MICE開催決定権を持つ「キーパーソン」に、セールスを実施

(3.8)

4. MICE誘致に係る主な取組について(R4～5)

(3) キーパーソン招請事業(年2回開催)

⇒ 開催地決定権を持つキーパーソンやPCO等を本市に招請し、会場や観光施設の見学、エキスカッションの体験(視察ツアー)をしていただく。本市でのMICE開催の魅力をPR



(4) 官民が連携したセールス体制の構築(補助制度の新設)

⇒ 官民が連携した誘致活動を展開するため、市内事業者等がキーパーソンへ誘致活動する際の交通費や宿泊費の一部を助成する「コンベンション誘致促進補助金」を創設(※活動前の交付申請が必要)

【制度概要】「コンベンション誘致促進補助金」

補助上限：1名あたり15,000円(税込み)

要件：開催規模が関東大会以上であるもの、会期が2日以上であるもの等

対象経費：交通費、宿泊費及び見学費

※当該補助金は、キーパーソンが本市へ視察する場合も補助対象としている。

9

(3.9)

4. MICE誘致に係る主な取組について(R4～5)

(5) その他の誘致事業

◇ 宇都宮MICEセミナーの開催

◇ MICE専門誌への広告掲載
専門誌「MICE JAPAN」

◇ MICE専門サイトの更新・管理

◇ MICEプロモーション動画の制作・活用

◇ ノベルティグッズの制作・配布 など



専門誌「MICE JAPAN」に広告掲載

10

(3.10)

5. MICE支援に係る主な取組について(R4～5)

(1) コンベンション開催支援補助金の交付

⇒ 本市でのMICE開催を促進するため、開催費用の一部を助成する「コンベンション開催支援補助金」を交付

① 国際コンベンション	② 国内コンベンション
補助上限額【最大500万円】	補助上限額【最大300万円】
交付要件	交付要件
① 会期が2日以上で宇都宮市域内(宇都宮市域内に限定するもの) ② 会場、会場周辺施設の活用による ③ コンベンションの開催に要する経費総額の30%以内	① 会期が2日以上で宇都宮市域内(宇都宮市域内に限定するもの) ② 会場、会場周辺施設の活用による ③ コンベンションの開催に要する経費総額の30%以内
補助方法	補助方法
国内参加者 × 5,000円 国外参加者 × 2,000円	国内参加者 × 5,000円 国外参加者 × 2,000円

② その他の補助金

シニア向け
旅行補助金
最大
【30万円】

エキスカッション
補助金
最大
【20万円】

コロナ対策
補助金
最大
【5万円】

※令和5年度
「マーケティング支援補助金」を新設
一定の条件を満たした懇親会等のケータリ
ング利用費の一部を助成【最大20万円】

11

(3.11)

5. MICE支援に係る主な取組について(R4～5)

(2) 参加者歓迎及び開催サポート支援

⇒ MICE主催者や参加者の満足度の向上させるため、主催者の要望に応じて、会場内にお土産コーナーの設置や、懇親会等のアトラクションを手配するなど、開催サポートを実施。

【お土産コーナー設置】

「県外参加者等に地元特産品を味わってほしい」

会場の一隅に宇都宮餃子や大谷石工芸品、地酒等の土産品コーナーを設置

【懇親会の盛り上げ提案】

「懇親会を盛り上げるパフォーマンスをしてほしい」

宇都宮ブルックスチアの「ブレイクシー」を手配し、会場は大盛り上がり

【県内伝統芸能の紹介】

「懇親会で樹木の文化芸術を楽しんでもらいたい」

「喜連川公方太鼓」を手配し、大迫力の演奏には参加者から大きな拍手が

【国際会議のおもてなし】

「外国人参加者に地酒を楽しんでもらいたい」

「地酒体験ブース」を設置。協会で英語表記のメニューを制作し、おもてなしを実施

12

(3.12)

5. MICE支援に係る主な取組について(R4～5)

(3) その他の支援事業

- ◇ 観光パンフレットの提供
- ◇ コンベンションバックの提供
- ◇ 歓迎サインージの設置
- ◇ 歓迎ビラの掲出
- ◇ パナースクリーンの貸出 など



会場内にパナースクリーン6本を無料貸出

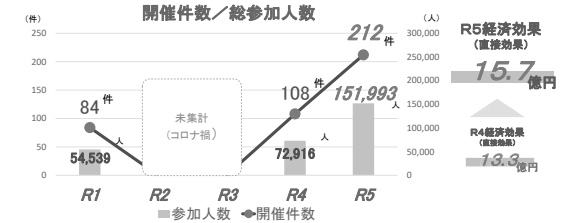
13

(3.13)

6. 宇都宮市におけるMICE実績

(1) MICE開催件数/総参加人数

⇒ 令和4年11月のライトキープ宇都宮の供用開始等により、開催件数・参加人数は想定を上回る伸びをみせ、令和5年度は212件が開催され、約15万人以上が参加している。



* 市内MICE施設の利用件数のうち、「学会」「総会・大会」「展示・商談会」「一般会議等(300名以上の会議・セミナー等)」に分類される催事より算出

14

(3.14)

7. 宇都宮市におけるMICEの課題

喫緊の課題

01

【国際MICEの積極的誘致】

国内MICEはもとより、経済効果・ブランディング効果の高い国際MICEの獲得に向け、計画的・継続的に取り組む必要がある。

02

【官民一体となった誘致・受入体制の強化】

「MICE」を重要産業の一つとして共通認識し、ステークホルダーが相互に連携しながら、各々がメリットを享受できるよう取り組む必要がある。

15

(3.15)

7. 宇都宮市におけるMICEの課題

課題解決に向けた令和6年度の主な取組

【国際MICEの積極的誘致】

- 国際会議の開催に向けた誘致セールスの強化
⇒ 英語版「コンベンションガイド」の作成・活用及び「Japan MICE EXPO」への出展 など
- 海外プロモーション・セールス体制の整備
⇒ R6. 4～英語対応できる人材を協会に配置
- 国際会議向けプロモーションツールや、広域連携コンテンツの作成
⇒ 本市の魅力や開催のメリット等を盛り込んだ「セールスシート」の作成・商談会等での活用
⇒ 他都市と連携したユニークベニューやエキスカッションメニューの造成
- JNTO(日本政府観光局)等との連携
⇒ JNTOや観光庁、その他観光関連企業・団体等とのネットワークを強化し、海外MICEに関する情報収集・発信の強化と課題解決策の検討などに取り組む。

【官民一体となった誘致・受入体制の強化】

- 「コンベンションビューロー支援事業※」への参画によるMICEネットワークメンバー間の連携強化
※ 観光庁が国際MICE誘致を目指している地方都市を対象にコンサルティング等の支援を行うもの。
- 広域連携(日光市等)による受入・協力体制の構築
- 顧客データの蓄積とデータに基づく効果的・効率的な誘致 など

16

(3.16)

7. 宇都宮市におけるMICEの課題

今後取り組むべき課題

- インバウンドも目覚めた「食」の多様性への対応や、更なる多言語化の推進
 - ⇒ 「ハラール」や「ベジタリアン」などに対応できる飲食店情報の収集等
 - ⇒ MICE施設周辺店舗、街中、名所等における案内の多言語化 など
- MICEキーパーソンとの人的ネットワークの構築・強化
 - ⇒ 首都圏等の大学や企業等との「人的ネットワークの構築」による情報収集・PR
 - ⇒ キーパーソン・招聘事業等の継続 など
- ナイトタイムコンテンツの強化・充実
 - ⇒ 参加者にわかりやすく、希望に応じて店舗情報が簡単に取得できるような仕組みの構築
 - ⇒ ナイトタイムツアーの造成 など
- MICE情報の整備・強化やDXの推進
 - ⇒ 情報の一元化やデジタルマーケティングによる効果的な情報の収集・分析・発信
 - ⇒ 様々なサービスのスマート化 など
- 「SDGe」の視点を取り入れた開催支援
 - ⇒ 主催者に開催地として選択してもらえるよう「SDGe」に資する視点を取り入れた開催支援 など



宇都宮ホテルFORDIN NIGHTS



17

(3.17)



(3.18)

事例紹介

③

「地方都市の MICE 戦略」

株式会社コンベックス 代表取締役専務

西川 洋子 氏

こんにちは。コンベックスの西川です。どうぞよろしくお願いします。

今、3名の方、それから横浜市のお話も伺いましたが、全体的に皆さん、いわゆる行政の視点からお話をしてくださっていたと思います。私はPCOとして三十数年この仕事をしています。また、先ほど来お話に出ています、東口のライトキューブ宇都宮の指定管理業務も、弊社は受けています。その観点からいろいろとお話をさせていただきたいと思っています。



まず、地方都市の MICE 戦略を PCO、会議運営をする側の立場から、では地方都市としてはどうあるべきなのか、それから開催地として選ばれるためには何をすべきかと、いうことを簡単にお話ししたいと思っています。

皆さんご存じだと思いますが、PCO (Professional Congress Organizer) というのは、主催者ではありません。主催者から依頼を受けて、開催地あるいは開催会場、場所を探すのもわれわれの一つの役目です。その中で、探す条件の優先順位、何を基準に探すかということ、以下の順番です。

まずは、開催すべき会場があるかどうかです。次に、参加者が泊まれるホテル、宴会ができるホテル、それからレストランがきちんと備わっているホテルがあるかどうかです。それから次に、会場でのケータリングパーティーや、お弁当を供給していただく、そういったものが整っているかどうかということです。

次にアクセスです。宇都宮に関しては東京から約 50 分ということで、大変アクセスもよく、会議をライトキューブで開催した参加者の先生からお話を伺いますと、学会の場合ですが、「近いですね。八王子に行くよりもしかしたら近いかもしれないですね」と、「同じ都内よりより近い」というお声もありました。そういう意味でのアクセスです。

それから、地元自治体の支援です。これはもう言うまでもなく、今までお話しいただいた皆さんが取り組んでおられることです。それから、アフターコンベンションも言葉として出てきましたが、これは正直申しまして、プライオリティーとしては一番低いです。

まず会場からお話しますと、収容人数です。これは学会でも国際会議でも企業イベントでも全てそうですが、参加者が何人いるか、ではそれが入るだけの器があるかどうかということが、まず大前提となります。

その中で会場数です。例えば分科会がある会場で 100 人のパラレルで行われる会場が 5 会場なければならないなど、いろいろな条件があります。その条件に合わせた会場数、規模、そういったものが探す先の地にあるかどうかということです。

それから次に、各部屋のサイズです。中には劇場形式、映画館のような椅子が入ったような、コンサートもできるようなホールが必ず欲しいという要望があったり、展示会も併設するので、フラットな、大規模な会場も欲しいという声があったり、そういったいろいろなニーズがありますので、それぞれの形状やキャパシティも検討することになります。

次に設備、インフラです。今、コロナになってからですが、配信がかなり当たり前のように行われます。その場合、インターネット環境があるかどうか、それから会場内に Wi-Fi が飛んでいるかどうか、それから映像、音響、照明、そういったものが備わっているかどうかということです。

次に受け入れ態勢、いわゆるサービス体制です。ライトキューブに関しましては弊社の社員が今、予約を受け付けてから開催前に関するサポートを 6 名態勢で行っています。そこから現場に下ろすというサービス体制を組んでいますが、そのような予約から当日までのサポートをきちんとしてくれるかどうかということも、選定条件の一つになります。

あともう一つ、これは正直申しまして宇都宮の各施設には一番不足している点ですが、語学対応です。要するに多言語対応です。恥ずかしながら、ライトキューブには英語ページがありません。今期中には、英語ページが出来る予定です。

やはり英語・中国語・韓国語といった多言語のホームページの構築が、宇都宮市の市内の施設は大変不足しています。そういったものがやはり必須になってくると思っています。もちろんスタッフも、英語が話せるということが最低限の条件だと思います。

次にホテルです。ホテルに関しては、やはりそこに参加する方たちが泊まれるだけの施設、それだけの部屋数が確保できるかということです。先ほど、横浜においてはその客室数の確保が十分だということも伺っていますが、やはり新潟は、そこは厳しいというお話もありました。そういった客室数というのも大事です。

それにルームタイプです。ツイン・シングル・ダブル・スイートといった、幾つかの種類が必要です。次にその広さなのですが、海外の方たちをお泊めする場合には、最低でも 40 平米前後が、ホテルの部屋としては望ましい広さです。40 平米ないと、体の大きな欧米の方たちには厳しいと思います。宇都宮には大変恐縮ながら、ライトキューブの周りにあるホテルは 20 平米前後と、やはりそこには不足している部分です。

そして料金です。これについても同様で、それに見合っただけの料金で提供してくれるかどうかということです。会議というのは予算がある中で行われますので、観光とは違います。そういう意味で、それに見合った予算で泊まれるかどうかということが大切です。

それから、ホスピタリティーレベルです。これも先ほど申し上げましたように、フロントで英語でのチェックインがなかなかハードルの高いホテルであっては、会議の受け入れとしては難しいということになります。

次に宴会場です。会議をやる場合にはどのような会議でも必ず、パーティーそれからそこでの

会食会というものがあります。宴会場で立食、着席、いろいろあると思いますが、その形式で何人収容できるか、それも大事な選定条件の一つになります。メニューも、和洋中といったバラエティーがあるのかどうか、それからそれに見合った料金であるかどうかというのも必要です。

サービスレベルも同様です。例えば100人、200人の着席のコースの場合、最初に出すメインテーブルから末席にいるテーブルまでの、サービス時間のタイムラグがどの程度あるかでしょうか。あまりにもあり過ぎるとサービスレベルとしては低いと言わざるを得ないと、そういったところもあります。

そして、レストランです。これは先ほどお話があったように、宇都宮市の周りには上場企業の研究所などもたくさんあります。その研究所の方たちのリクエストとしてわれわれも調査事業をした際にお話があったのですが、レストランがないということでした。個室のレストランがあるホテルが欲しいということでした。要するに、海外からのゲストをお泊めして、会食をする場所がないということです。それが必要です。

それから料理も、先ほど申し上げたように和洋中、フレンチなのか、イタリアンなのか、ある程度そろえておきたいということでした。料金、サービスレベルも先ほどと同様です。

それからケータリングについては、コンベンションの会場の中でパーティーを行う場合です。立食、着席、いろいろな形式がありますが、ライトキューブについては大変残念ながら、コース料理の提供はできません。ホテルが必要になってくるところは、ライトキューブの弱みではあります。立食のパーティーについては、市内のいろいろな協力企業からご提供いただけています。選定の際には、それに関して何食まで対応可能かというのはそれぞれの施設によって上限がありますので、そこもチェックする必要があります。メニューも同じです。料金も先ほどのホテルと同様です。

アクセスに関しては、国際会議の場合には羽田・成田・関空、そういった国際空港からどのようなアクセス方法があるかを中心に考えなくてははいけません。それから、駅からのアクセスです。ライトキューブの場合は歩いていけるといふ、これは全国、北から南までのコンベンション施設の中で、駅直結でここまで近いところは、私は例を見ていません。それだけは宇都宮の強みではないかと思っはいますが、そういったところも大事な点です。

それから先ほど来お話に出ていますが、これは言うまでもありませんが、自治体における支援の助成金ですね。うちも昨年に新潟で一つ学会を運営しましたが、新潟県からかなりの金額の助成金を頂いて、大変助かりました。宇都宮市も同様で、助成金でのご協力をいただいています。

そして、レストランや観光案内等のご提供、それからエンターテイメントです。例えば、熊本でやった場合はくまモンが来てくれます。徳島では阿波踊りが来てくれます。そういった地元のエンターテイメントのご提供も大変ありがたいことです。

先ほど申し上げましたように、最後のプライオリティーになるのが、皆さんコンベンション協会の方、地元の方は力を入れているアフターコンベンション、ユニークベニューです。正直に申しまして、会議を開く際の選ぶ条件のプライオリティーとしては最後になります。

宇都宮に来られた方は皆さん、懇親会が終わった後に「西川さん、どこの餃子おいしいです

か」と聞きます。そこで十分なのです。

やはりユニークベニュー、アフターコンベンションというのは、大変恐縮ながら最後のプライオリティーです。なぜかという、コンベンションに参加する方たちはビジネスが目的です。その場での意見交換それから情報収集、そういったものが一番の目的なので、MICE はイコール観光目的では一切ありません。なので、観光目的に来る方たちはもちろんいろいろな観光地を楽しみますけれども、コンベンションに来られる方たちはちょっと違うのではないかと思います。

それから、全体をまとめて、過去のいろいろな地での事例をお話しします。MICE 開催の必須条件ですが、やはり会場、ホテル、ケータリング、これがそろっていないと MICE は開催ができません。まちの顔となる MICE 施設とシティーホテル、これはビジネスホテルではなくてシティーホテルです。

先ほどお話がありましたが、例えばここに、グローバル MICE 都市である 12 都市の会場に隣接しているホテルを紹介しています。パシフィコ横浜さんの場合は横浜グランドインターコンチネンタルホテルです。これはグローバルチェーンのホテルです。サービスレベルもそれなりのものがあります。大阪の国際会議場はリーガロイヤルホテルです。これは大阪の地元の老舗のホテルです。京都はザ・プリンスホテル宝ヶ池です。ここに関してはプリンスホテルの中のトップブランドのホテルが隣接しています。

12 都市という意味でいえば、コンベンション業界に身を置く私としては、この 3 つはベンチマークとして考えている会場です。これらは地方都市と言うにはちょっと違うかとは思っています。

次に新潟の朱鷺メッセさんですが、この場合には日航が隣接しています。ソニックシティはパレスホテル、浜松のアクトシティもホテルオークラが付いています。出島メッセは、割と最近できたものですが、ヒルトンホテルがあります。こういった形で、やはり MICE を開催するためには、ビジネスホテルではなくシティーホテルが必須だということです。

残念ながら宇都宮は地方都市 MICE 施設ではあるのですが、今のところ誘致に成功していません。宇都宮としてはシティーホテルの誘致が喫緊の課題なのではないかと思っています。それと、多言語対応ですね。やはりこれをしていかなくはなりません。海外からの方たちが情報を得たくても得られないというところが、一番の問題だと思います。

最後になります。今回須賀先生から頂いた産官学民という言葉から、今度は須賀先生にお願いします。われわれコンベンション業界は、ある意味黒子で仕事をしています。こういう産業があることを世の中の人たちになかなか知られていません。なので、ぜひ大学でそういった学生さんをしっかり育てていただいて、われわれの業界に送り込んでいただきたいと思います。

やはり教育というのは、なかなかやろうと思ってできることではないのですが、それが今後の地方都市の創生、それからこの MICE 業界の成長にも十分役立っていく大切な部分だと思っています。

今回の必須条件に関しては、宇都宮の私たちも含めて頑張らなければいけないポイントはあるというところで、お話を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

◆須賀

ありがとうございました。「地方都市の MICE 戦略」ということで、PCO の大手でありますコンベックスの西川専務からお話をいただきました。

パネルディスカッション

「各都市に学ぶMICE誘致戦略」

パネリスト

宇都宮市魅力創造部長

安納 正和 氏

(前 掲)

西川 洋子 氏

(前 掲)

木村 勇一 氏

(前 掲)

鈴木 孝美 氏

(前 掲)

正木 章子 氏

司 会

宇都宮共和大学 学長・宇都宮まちづくり推進機構 理事長

須賀 英之

須賀

では、これから自由に意見交換をしたいと思います。宇都宮市魅力創造部長の安納さんから、感想も含めてお願いします。

◆安納氏

皆さま、こんにちは。パネルディスカッションから参加します、宇都宮市魅力創造部の安納と申します。どうぞよろしくお願いします。

宇都宮市の取り組みに関しましては、鈴木常務からのお話にありましたので私からは、「魅力創造部」という名前が結構珍しい名前だと思いますので、それについて一言だけお話ししたいと思います。

魅力創造部はこの4月に誕生した部です。宇都宮市としては12年ぶりの新部設置となります。都市ブランド戦略、スポーツ、文化行政、また観光MICE、この4つの業務を3部局から集め、新たな部を設置しました。一貫した都市ブランド戦略の下にスポーツ、文化、観光MICE、こういった多様な資源を活用し、人の活力の向上や都市の魅力の創造に取り組むことをコンセプトとしている部署です。

MICEに関しまして先ほど横浜市の正木部長から、パシフィコ横浜を核としたハード・ソフト両面からのMICEの取り組み、また新潟市の観光コンベンションの木村副理事長から、日本海側随一の朱鷺メッセを活用した戦略や、あとは県と市の併用可能な補助金、これは非常にうらやましいところでもあるのですが、そういったものを活用したMICEの誘致をされているというお話がありました。

またコンベックスの西川専務からはPCOの視点で、宇都宮市にとりましては非常に厳しいご意見を頂きましたけれども、あらためて、さまざまな課題を解決しないと、国内でもMICE都市

としての確立はなかなか難しいかと思いました。

鈴木常務からもありましたけれども、こういったさまざまなご意見を参考にしながら、今後、国際 MICE などの誘致にも積極的に取り組みながら、宇都宮市の地域経済の循環社会の実現などに取り組んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

◆須賀

木村さんからは、宇都宮の施設について、他都市との競合もあるということですが、外から見た宇都宮の特色をお聞かせいただければと思います。立地条件は良くとも、それ以外に新潟との比較でここが欠けているのではないかと、お話ししたいと思っています。

◆木村氏

今日、初めて宇都宮市さんのコンベンション施設を見せていただきました。交通アクセスは抜群で、全国的に見てもトップクラスだと思いました。しかし、逆にアクセスがいいから、なおさらそれがまた欠点にもなるのかなとも感じました。首都圏から 1 時間以内で来られるということは 1 時間以内で帰れるということなので、経済効果の面ではマイナス要因かと思いました。

また、国際会議については、海外から来た人は滞在日数が長いということと、消費単価が高いということなので、われわれも今年度以降、専門チームを組んで、国際会議に力を入れていきたいと思っています。

宇都宮市さんのコンベンション施設を見せていただいて、交通の利便性は素晴らしいとは思ったのですが、他施設と競合するには規模がちょっと小さいのではないかと思います。駅前には景観条例や高さ制限があるのかわかりませんが、せっかくあのような施設をつくったのであれば、宿泊施設を一体型としてつくることができなかったのかなという感じを持ちました。

◆須賀

高級ホテル用地が空いていて、MICE とはニワトリとタマゴで、稼働率がよくて収益が上がることになれば、いずれ投資家が付いて、オペレーションする人はいるでしょう、そこは課題です。

知事は、6 年後の G 7 大臣会合をぜひ宇都宮で開きたいということですが、西川さん、どうぞ。

◆西川氏

昨年、G 7 の男女参画・女性活躍担当大臣会合が日光でありましたね。日光で開催できたのはなぜかという、やはりトップブランドであるリッツカールトンというホテルがあったことが大きな要因だったと思います。

宇都宮の場合は、われわれがまた自分の首を絞めるようですが、ホテルの誘致が難しかったとか、コロナも重なって、そういう状況にあるのが大変大きかったと思います。

それから今、木村さんからも、もう少し規模の大きいものを立てられたのではないかというお話もありましたが、用地のことと、それから建設予算のことがありました。それと、やはり稼働

率を上げるのは簡単なことではなくて、今もそれなりの稼働率がありますが、大きな部屋ほど稼働率が低いのです。小さな部屋は毎日毎日、午前、午後で替わるほどの稼働率もあります。そういった点で考えると、もしあれ以上大きな施設を建てたら、数字の面でかなり大変になるのではないかということが、今の宇都宮の現状かと思っています。

ただ、国際会議を誘致することになった場合には、やはり市のみならず県全体で旗を振ることが官民両方で必要になると思いますので、そういった動きをしっかりとした上で、今後ホテルも誘致し、会合を開くということが大前提ではないかと思っています。

◆須賀

正木さん、宇都宮についてアドバイスがあればお願いします。

◆正木氏

アドバイスできるほどではないのですが、宇都宮市の施設は、コンパクトで、コンベンション施設としては使いやすいのではないかという印象を受けました。ただ、ニワトリタマゴという問題はあるとは思いますが、やはりホテルがないとなかなか厳しいかと思っています。

横浜の場合ですと、市内ホテルさまからコンベンションなどの MICE が開催されるとやはりホテルの稼働率に跳ね返ってくるということで、そこは実感されているようです。ぜひそういったことも情報提供しながら、ホテルの誘致につながると良いかと感じました。

◆須賀

西川専務から、観光や周辺施設についてはプライオリティーが低いというお話がありました。宇都宮駅に MICE 施設ができれば県全体が潤うことを考えています。そこから大谷や益子や日光、那須にも行ってほしいと思っています。そうすれば、次の会議をまた宇都宮でやりたいと思ってくれる人もいると思うのです。

米国オーランドには年間 7,000 万人が来ています。夫婦連れで、インセンティブも含めてコンベンションが行われるということで、アフターコンベンションも大事です。しかし日本はビジネス中心なので違うかなという感じもします。正木さんは、横浜の観光資源との関わりをどのようにお考えになっていますか。

◆正木氏

施設については、市内が元気になる装置でもあると捉えています。横浜での市内発注をしっかりとさせていただくことを前提として助成金を出すなど、そういう仕掛けをしています。

あとはアフターコンベンションにつきましても、先生方がおっしゃるように、国際会議や学会に来ている方はやはりビジネスや学会などで来ていますので、アフターコンベンションはあらかじめプログラムに入れておかなければ、突然参加するというのはなかなか難しいかと思っています。

ですので、誘致する段階から、横浜市はこのような魅力的なものがあるのでそれをプログラム

に入れて、ディナーや懇親会でこういうユニークベニューやアフターコンベンションをセットでご案内してくれませんか、ということも大事かと思います。

また、横浜に泊まっていただくということと、また横浜を起点にして、周辺には鎌倉などの魅力的な観光地がたくさんありますので、そういうところと連携していくことも大事だと思っています。

◆須賀

宇都宮市でも、さまざまなユニークベニューやレストランや観光地の紹介を、パンフレットにして訴求しています。

◆鈴木（孝）氏

資料の中にもありますが、宇都宮市におきましてもガイドブックを作りまして、その中でユニークベニューあるいはテクニカルビジットなど、そういったものを広く紹介しています。今現在も、こういったものができるのかに常に取り組みながら、宇都宮の魅力として商談会などでも PR しています。

◆須賀

成果は出てきていますか。

◆鈴木（孝）氏

今のところ、一番食い付いていただけるのは、「宇都宮は LRT がすごいね」ということです。ユニークベニューといいますか、とにかく LRT が開通したということで、そこが今のところは非常に売りになっていると思っています。

◆須賀

LRT に乗っても、Honda の工場正門前に行っても何にもなくて、トイレもないと、そのまま帰ってくるのです。フロアのほうからも、ご意見を頂きたいと思います。宇都宮が誇るユニークベニューの音羽先生、お願いします。どうぞ。

◆音羽氏

レストランをやっています、音羽と申します。私は、宇都宮市内に、よそからわざわざ来たる場所があまりにも少なすぎるかなと思っています。観光客などの場合にはいいのでしょうけれども、本当に大切な時間に大切な話をして、そのまま終わりですか、というのはすごく感じます。

また、工業団地もたくさんある中でいろいろな方が来た時に、先ほど西川先生がおっしゃったように、その後にきちんとした場があるといいと思います。密接な話をするにしても、ただみんながたくさん集まるのではなくて中身の濃い、そういう場面が非常に少ないと思います。

◆須賀

JTBの鹿野支店長、ご意見をお願いできますか。

◆鹿野

観光の立場からすると、アフターコンベンション、観光ユニークベニューの効果はそれなりにあるかと思っています。一次的な当日の効果、それから気付いていただいて、帰って、例えば特産品や食をお取り寄せしたり、関心を持ってまた行ってみようと思ったりと、副次的な効果もあるかと思っています。

会議の目的は恐らくどの場所でもきちんと果たされるかと思うので、プラスアルファで、その地域の魅力を一次・二次効果を目的としていかに伝えられるかということが大きいと思います。宇都宮の中では、回遊性や発信、あるいは継続的にその地に関わるような仕組みをこれからやるのではないかと思います。われわれ観光の立場で、微力ながらお手伝いできればとは思っています。

◆須賀

では、ライトキューブの指定管理者の代表企業の、五光の木内さん、現状の課題があれば教えてください。

◆木内氏

コンベックスの西川さんに言っていていただいて、そのとおりだと思っています。全体的に結果を出すためのロードマップを具体的に考えたほうが良いと思っています。

国際会議を一つとっても、富山や松江市は年間いくつかやっていたりするのです。では、どういった人数、規模の国際会議を取りにいくか。それには足りないハードもありますし、人材育成というものもありますので、いつまでにどのようにやっていくのか、宇都宮 MICE ネットワークおよび官民住民が一体となってやっていくべきと考えています。

◆須賀氏

餃子会の鈴木さんはいかがですか。

◆鈴木（章）氏

宇都宮餃子会の鈴木です。今 JTB さんがおっしゃったとおりだと、私も思っています。どこでも会議は、できるわけですね。宇都宮が選ばれるというのは、宇都宮を選びたい理由があると思います。そのブラッシュアップが必要だと思います。

国際会議の誘致に関しては、宇都宮市が積極的にトップセールスをかけていっています。国内コンベンションは、学会を含めさまざま誘致していますので、それに対する満足感を引き上げて

いくことと、整えていく、磨き上げをするということだと思っています。

ないものを望むよりは、現状の磨き上げをしていくことだと思います。外から来た方が「意外と餃子はニーズがあるのですね」と言いますが、餃子にニーズがあるから宇都宮を選んでいると、ただこれだけで終わってしまっただけではいけないので、全ての磨き上げが今必要だと思っています。以上です。

◆須賀

経済界からお願いしたいと思います。県央まちづくり協議会の佐瀬さん、お願いします。

◆佐瀬氏

選ばれるまちになるためにはどうするかという話をよく議論するのです。宇都宮でいえば、北関東で高崎、前橋、それから茨城県の水戸に比べて、宇都宮を選んでいただく理由をどうつくっていくかということが、大事です。

餃子も大きな武器であろうと思いますが、それ以外に宇都宮を選んでいただく理由をいろいろ知恵を絞りながら頑張っていけば、さらに宇都宮が脚光を浴びていくのではないかと、思います。

◆須賀

栃木銀行の黒本会長、経済界としてお願いします。

◆黒本氏

いろいろな形で MICE が宇都宮で開催されて、人が集まるということ、これ自体が市内の事業者の皆さまの発展につながっていくと思います。金融機関として少しでもお役に立てるように力を尽くしたいと思います。

◆須賀

このあと人材や財源や DMO について伺いたいと思います。DMO は各地で少しずつできてきていますし、また宿泊税導入などについての動きも出てきています。木村さん、新潟での議論はどのようなのでしょうか。独自の財源は、地方都市にとっては大事なことはないかと思っています。

◆木村氏

宿泊税に関しましては、MICE で市外、県外から来て経済効果を上げていただくのと同じように、直接お金が開催自治体に落ちるということではかなり魅力的です。そのため、4～5年前から新潟市への宿泊税導入の議論は行われてきました。その中で議員提案という形で、議員さんから宿泊税の提案を検討してもらっています。

それから新潟県をはじめ近隣市町村の中では、世界遺産に認定された佐渡市が宿泊税の導入を検討しています。宿泊税の利点・欠点は以前から議論されています。金沢市さんが先行しており、

様々な課題があることも承知していますが、まちづくりにも活用されていますので、宿泊税の導入というのは来訪者の利便性向上にも有効な手段になると思っています。

それから、先ほど会場から「選ばれる都市になるため」というお話がありましたが、国内では宇都宮市さんも新潟市も知らない人はいないと思うのですが、海外ではほとんど知られていないと思っています。今年の春に、シティー馬拉ソンの誘客で台湾に行ってきました。台湾で「新潟市から来ました」と言っても担当者は一人として、新潟市はどこにあるか、新潟市を理解している人はいませんでした。

とにかく知ってもらうことが先決だと思っています。そのため、インバウンドに関しては今後ターゲットになり得る、例えばタイやインドなどでよく見られる SNS に業者を通じて、そこでの露出度を増やすということをやっています。まずは認知してもらわなければいけないと考えていますので、海外から選ばれる都市になるにはそこからと考えています。

◆須賀

私は外国人と会って、「宇都宮」と言ってもなかなか分かってもらえないのですが、「ゲートシティオブ日光」と言えばすぐ分かってもらえます。財源、人材、DMO 等について、西川専務、お願いします。

◆西川氏

私は行政の立場ではないので税金のことはあまり詳しくはないのですが、今のお話を続けさせていただくと、私どものオフィスは、今日本一高いといわれている麻布台ヒルズの目の前にあります。日比谷線の神谷町が最寄り駅なのですが、歩いて3分ぐらいの間、朝の通勤時間以外は、すれ違う8割から9割が海外の方です。日本語が聞こえてこないような、そういった地域です。彼らはどこを目指すのかというと、東京タワーと麻布台ヒルズ、そういうランドマークです。ランドマークがあるということが、あそこの一番の強みではないかと思います。

では、宇都宮にそれを置き換えて考えると、そういったランドマークというものが残念ながら今の宇都宮にはありません。日光には東照宮など、そういったものがあります。今から、何かをつくってくださいと言うのは難しいのかもしれませんが、宇都宮に来ると何かが楽しめる。そういったものが発信できるのが、第一ということは確かだと思います。

それから先ほどの、開催地を選ぶお話の中で私もお説明をした一つとして、主催者が例えば、共和大学の先生方もそうですし、宇都宮大学、獨協大学、自治医科大学といった地元の先生方の場合、地元で開催をしたい気持ちが大きいです。ですから、地元の企業、地元の大学の方は、機会があれば必ず宇都宮で開催してください。

それ以外に、では全国の中からどこを選ぼうかと探した時に、沖縄・北海道はそれだけで皆さんが一つ行きたいところです。宇都宮には残念ながらランドマークはないけれども、では日光で会議をしたらどうかということになります。以前、日光で会議をやりたかったのですが、結局規模が小さくて、そういう施設がなくて開催ができなかったという事例もあります。その場合に、

では日光市と宇都宮市とでタイアップして、誘致活動は十分できるのではないのでしょうか。

宇都宮の駅を降りると、外国人の方は皆さん、改札を出ないで乗り換えます。どこへ行くかという日光です。だから、その方たちをいったん宇都宮に降りていただくような手法を考えて、ライトキューブの駅前で何かを企画する、そういった手法ではないのでしょうか。

日光に行く前にまずは宇都宮で、日光に行った帰りに宇都宮でという何かをつくっていったらいいなと思います。

◆須賀

安納さん、どうぞ。

◆安納氏

西川専務のお話の中で、宇都宮だけですとなかなかランドマーク、目的地となる場所がないということがありました。日光市、宇都宮市だけではそれぞれ足りないものがあるので、一緒にMICE 観光の受け皿として、協力できるところは協力しましょうという話し合いをまさに始めたところです。

なので、これからお互いが相互補完するようなイメージでやっていきたいと思います。栃木県全体であれば非常に魅力的な場所がたくさんあるので、その先には日光だけではなくて、ほかの自治体とも連携をして進めていければと思っています。

◆須賀

正木部長、ここまでのところでいかがでしょうか。

◆正木氏

財源・人材・DMO というお題で言いますと、宇都宮市さんは経済界そして事業者の皆さん、地域の皆さんが、MICE をきっかけに盛り上げていこうという意識がすごく高いところだということを感じました。

横浜市においては、MICE 人材の育成というのもやらせていただいています。市内の大学の学生さんに「MICE のプログラムに参加してくれたら単位をあげますよ」という形で、横浜市で開催される国際会議のアフターコンベンションを提案したり、「レセプションパーティーの時に盛り上げるものを考えられませんか」という話をしたりしています。

つい最近 MSEAS という会議があったのですが、その中では学生のみんが横浜の魅力的なところを自分たちで写真を撮ってきて、缶バッジを作ってガチャガチャで楽しんでもらって、皆さんはすごく喜んでくださっていました。MSEAS なので海に関係する魅力的なところを紹介したいというので、八景島シーパラダイスを紹介したりしていました。

そういうことを通じて学生さんも MICE に関わって、MICE の業界にしっかりと携わっていただくという人材育成も大事かと思っています。

◆須賀

これからのコンベンション協会の在り方についてアイデアをお願いします。

◆鈴木（孝）氏

いろいろ戦略的に進めていくのに、ポイントが5つあるかと考えています。1点目が、宇都宮で開催されるためには、やはり宇都宮で開催するとどういったメリットがあるのか、あるいはどのような体験や学びができるのか、そういったセールスポイントを掘り起こして、それを商談会等でPRしていくということを、まずしっかりやっていきたいということです。

それと、MICE ネットワークということで、今、官民一体でやろうという体制をつくりました。ただ、まだ始まって間もないということで、稼ぐということに対しては非常に分かりやすいのですが、それにあまり直接関係のない団体さんはどういうメリットがあるのかが、分かりづらい部分があるかと思っています。ですから、それについてはわれわれのミッションとして、大学あるいはこういう団体でもこのようなメリットがありますよという見える化をして、やはり MICE は非常にメリットがあると思っていただけるように、そして自分事化していただけるようにしていきたいと考えているのが2点目です。

3点目として、先ほど広域連携ということで西川さんから日光とタイアップという話がありましたが、また安納部長がおっしゃったように、日光とはそういったことがスタートしたところです。さらに益子町や、それと最近ではさくら市からもオファーを受けていますので、そういったところとしっかりとコネクションをつくりながら、広域のプログラムなどを作っていければと思っています。

4点目が、私の話の中でもありましたが、キーパーソンとの関係構築ということです。キーパーソンとの個人的なネットワークをいかに築けるか、そこがものすごく大切な気がしていますので、情報交換会や懇親会などそういったものを継続的に開きながら、関係をつくっていくことが必要かと思っています。

そして、5点目。これは人材育成的な部分にもなるかと思いますが、例えば宇都宮であれば「宇都宮市は誰々さんがいるから安心して任せられます」と、そういう人材を積極的につくっていくことが大事だと思います。それがやはり中長期的には、選ばれる都市にもつながっていくかと思っています。そういったところを戦略的にいろいろと取り組んでいければと思っています。

◆須賀

では最後に、一言ずつ宇都宮にエールを送っていただければありがたいです。

◆正木氏

今日は貴重な機会をありがとうございます。宇都宮の推進体制や施設などもいろいろと教えていただきまして、すごく参考になりました。

いろいろな個別の会議の誘致におきましては競合することもやはりあって、「今回は〇〇市さんに負けてしまいましたね」ということもないわけではないのですが、基本的には日本国内の MICE 施設がしっかりと連携をして盛り上げていくことが大事なのではないかと思っています。

せっかくこういう機会を頂きましたので、ぜひ情報交換をさせていただきながら、いい取り組みをいろいろなところでやっていけたらいいと思います。どうもありがとうございます。

◆西川氏

私は、今日は2つの立場で参加しています。ライトキューブの指定管理者という立場としては、ここにいらっしゃる地元の皆さんもぜひご利用いただきながら、利用率を上げていきたいと思っています。

それから、PCO という立場から申し上げますと、宇都宮の魅力が何なのかというのがなかなか見えにくい、正直、そういう都市であるのは確かだと思います。先ほど来申し上げているようないろいろな手法をもって、これから宇都宮で、G 7 なのか、あるいはほかの国際会議なのか、そういったものが誘致できるように、私もお協力をさせていただきながら進めていきたいと思っています。ありがとうございます。

◆須賀

また、木村副理事長からは、先輩としてのアドバイスや戦線布告など、何かありましたらお願いします。

◆木村氏

（新潟と宇都宮は MICE 誘致においては）お互いライバルでもありますが、ぜひとも互いに頑張っていきたいなと思っています。

ただ一点、ちょっと気になったのが、新潟市は割と、新潟県と一緒に連携しながら取り組んでいます。そういった意味では栃木県はどうなっているのか、ちょっと気になったところです。やはり都道府県レベルというのは大きな存在ですので、一体的な取組が重要だと思っています。

◆鈴木（孝）氏

皆さんがご存じのように、宇都宮はやはり餃子、ジャズ、カクテルなど、全国に誇れるものをたくさん持っていると思います。そういったものを当然生かしつつ、宇都宮というのは歴史的にも街道や水運など、非常にいろいろな情報や人、ものが行き交いながら、常にそういうものを吸収して発展してきたという地域性があるかと思っています。

そういう意味では、宇都宮は人と出会える、あるいは出会う機会が設けられる、そしてそこから新しいものを生む力を持っているかなと思います。いわゆる「まちぢから」と言う方もいらっしゃると思いますが、そういったものを宇都宮は持っていると思っていますので、そういったものを全

員で発揮しながら、オール宇都宮で MICE をしっかりと誘致・支援していければいいと思っています。

そしてまた、今日ご参加いただいた皆さんの中でも、このような MICE の案件を知っているというのがあれば、ぜひ協会あるいは市に情報提供をいただけると大変助かります。本日はありがとうございました。

◆安納氏

宇都宮には素晴らしい地域資源、餃子、ジャズ、カクテル、そして今はライトラインと、たくさんものがあります。餃子といえば宇都宮、宇都宮といえば餃子で、横浜市さんの前で言うのもおこがましいのですけれども、MICE と言えどということ、国内で国民的コンセンサスを得たものは、まだないのかなと思っています。

まだ間に合うのであれば、宇都宮の名前がその一つになればいいなと思っています。そういったプロダクトブランディングを磨くことで、最終的に宇都宮のコーポレートブランディングを高めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

◆須賀

どうもありがとうございました。やはり MICE はこの少子高齢化の時代に、地域にとって経済波及効果も大変大きく、また地域の魅力を磨くという意味でも効果があると思います。本日のテーマであります「『MICE 都市』の創造に向けて」、皆さまがそれぞれの立場で、ご支援、ご協力をいただければと思っています。

特集 2

シティライフ学シンポジウム

「大谷石文化」の魅力発信を考えるーフランク・ロイド・ライトがとちぎに残したものー



..... 要 綱
.....

1. テーマ 「大谷石文化」の魅力発信を考える
ーフランク・ロイド・ライトがとちぎに残したものー
2. 日 時 2025年2月7日（金）14：00～16：45
3. 会 場 宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス
4. 次 第
 - （1）基調講演「フランク・ロイド・ライトと日本 ーライトが大谷石に見ていたものー」
水上 優 氏（兵庫県立大学 環境人間学部 教授・建築史家）
 - （2）基調講演「フランク・ロイド・ライトがとちぎに残したもの」
榊田 倫之 氏（株新素材研究所 所長・建築家・宇都宮市公認 大谷石大使）
 - （3）パネルディスカッション
「大谷石文化の魅力発信を考える」
【パネリスト】
橋本 優子 氏（近代建築・デザイン史家）
中津 正修 氏（栃木県文化協会 会長）
三橋 伸夫 氏（宇都宮大学 名誉教授・宇都宮市市政研究センター 上席アドバイザー）

【コメンテーター】

水上 優 氏（前掲）

榊田 倫之 氏（前掲）

【司 会】

須賀 英之（宇都宮共和大学 学長・宇都宮まちづくり推進機構 理事長）

5. 主 催 宇都宮共和大学都市経済研究センター

共 催 宇都宮まちづくり推進機構・宇都宮市創造都市研究センター

後 援 栃木県・宇都宮市・栃木県経済同友会・宇都宮商工会議所・栃木県まちなか元気
会議・大学コンソーシアムとちぎ・宇都宮観光コンベンション協会・栃木県宅地
建物取引業協会・宇都宮市大谷石文化推進協議会・下野新聞社・とちぎテレビ・
栃木放送・エフエム栃木

■司会

開催に当たり、主催者を代表して、宇都宮共和大学学長・宇都宮まちづくり推進機構理事長、須賀英之よりご挨拶を申し上げます。

■須賀



皆さま、こんにちは。宇都宮共和大学のシティライフ学部シンポジウムによろしくお越しくできました。本日のテーマは『『大谷石文化』の魅力発信を考えるーフランク・ロイド・ライトがとちぎに残したものー』です。資料3に先生方のプロフィールが載っています。まず基調講演を建築史家の水上優先生、建築家の榊田倫之先生にお願いします。

パネルディスカッションは、お二人に加えてデザイン史家の橋本優子先生、栃木県文化協会の中津正修先生、宇都宮大学名誉教授の三橋伸夫先生にお願いします。

資料9は、栃木県が「文化と知の創造拠点」として、県体育館跡地に、他では例を見ない美術館・図書館・文書館の一体的な整備についてです。早ければ7年後の完成となりますが、県の中核的な文化施設に、ライトが広めた大谷石の建築文化を世界や全国に発信する、そのような展示館ができればという思いから、このシンポジウムを企画しました。

ご講演の中で、ライトの大谷石への取り組みや、また、そのお弟子さんたちの建築家が栃木県に残した足跡をたどり、日本遺産の大谷石文化の素晴らしさを改めてご理解いただき、栃木県の文化振興に、ぜひそれぞれのお立場でお力添えいただければ幸いです。

開催に当たりご協力いただいた栃木県・宇都宮市・宇都宮商工会議所・栃木県経済同友会をはじめ、多くの関係機関の皆さまにも感謝を申し上げます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

■司会

ありがとうございました。それでは基調講演をお願いします。兵庫県立大学環境人間学部教授、建築史家の水上優さんです。水上さまから、「フランク・ロイド・ライトーライトが大谷石に見ていたものー」と題して講演いただきます。それでは、よろしくお願いします。

基調講演

「フランク・ロイド・ライトと日本 ーライトが大谷石に見ていたものー」



兵庫県立大学 環境人間学部 教授・建築史家

みずかみ ゆたか
水上 優 氏

兵庫県立大学の環境人間学部の水上と申します。今日は「ライトがとちぎに残したもの」というテーマの中で、私からは、ライトと日本のつながりをざっと概観して、その後、ライトの思想の中で、大谷石がどのようなものとして捉えられていたのかということについてお話ししたいと思います。よろしくお願いします。

まず自己紹介させていただきますと、私の研究領域は、広くは建築史や建築論となるのですが、そのなかでも特にフランク・ロイド・ライトのことをずっと研究しています。もう30年ぐらいになります。これは出版された博士論文ですけれども、他にライトのガイドブックの翻訳や、つい最近では東京と豊田市と青森市で開催されたライトの展覧会の日本側の監修等もしています。これは青森展のフライヤーです。こちらからは東京が近いですので、もしかしたらご覧になった方もおられるかもしれません。図録等も監修、執筆しました。

さて、今日はライトの研究者として、3つの観点からお話ししたいと思っています。まず、ライトは7回来日したのですが、その来日の概要です。それから、日本でどのようなものを造ったのか、皆さんもよくご存じの帝国ホテルがありますが、それ以外にどのようなものを設計し、あるいは計画していたのかということ概観します。そして最後に、ライトの思想を少しひもときながら、その中で大谷石がどのようなものとしてライトに見られているのだろうということについて、考えてみたいと思います。

【7度の来日】

これはライトの年表ですが、簡単にいうとライトの生涯は、建築家のキャリアとしては大きく3期に分けて語られます。ご存知の方も多いと思いますが、1910年までの第1黄金時代、この時代は「プレイリーハウス」という住宅をたくさん設計していた時代です。それから第2黄金時代、これは非常に有名な落水荘、カウフマン邸がありますが、そこからスタートしたと捉えられています。この時は、アメリカの中産階級へ向けた簡素でクオリティの高い「ユースニアンハウス」という住宅を造っていました。この第1黄金時代と第2黄金時代には、実施作品が100件、200件とあるのですが、これに挟まれた期間というのが、実施作品が極端に少なく、いろいろ呼び方

はあるのですが、「失われた時代」、「苦難の時代」などと称される時代です。ライトは基本的にこの時期に日本にやって来て、いろいろな仕事をしていたという枠組みです。

ライトは何度も、計7回来日したのですが、初来日は1905年です。この時ライトはカメラを携帯していて、後年そのネガが発見されました。そこに写っている場所がどこなのかと、同定の研究もされてきました。これは出発時のバンクーバー港の写真です。エンプレス・オブ・チャイナという船に乗って初めて日本にやって来ました。

今でこそ飛行機で十数時間もあればアメリカに行けますけれども、この当時はまだ片道20日以上かかった船旅であったわけです。それで7回も来たということで、仕事ということもあるのですが、ライト自身日本がとても好きでありました。アルバムの中から幾つか紹介します。これは名古屋の東本願寺名古屋別院です。今から120年ぐらい前になりますけれども、着物などを見ると時代の雰囲気が伝わって参ります。

これは京都の知恩院経蔵の写真ですけれども、このアングルが日本の浮世絵の構図を思い起こさせます。ご存知の方も多いと思いますが、ライトは自ら、日本の浮世絵から非常に影響を受けたと言っているわけですが、こういうところにもそれが感じられます。

兵庫大仏、今は同じものはないですが、兵庫に来て、そして岡山の後樂園に行って、その後屋島に行っています。ルートはこのような感じで、横浜から入って、名古屋と関西を経て高松まで行って、その後関東に戻って日光にも行っています。日光の写真としては、華厳滝や裏見滝などがあるのですが、非常によく撮れています。これは研究者が指摘したのですが、実は絵はがきを写したものでした。

初来日時、最初の奥さんであるキャサリン・トビンと一緒にでしたが、実は裏がありました。この時、既に不倫相手のメイマー・ボスウィック・チェニーと怪しい関係になりつつあったようで、それを察知したライトの初期の住宅のお施主さんであるウィリッツ夫妻が、いわば不倫を止めさせるために、ライト夫妻を旅行に誘ったといわれています。

1913年の2度目の来日時には、その不倫相手のチェニーと一緒にでした。先ほど申し上げたように1910年に第1黄金時代が終わっていますが、その理由がこの不倫関係です。チェニーはライトのお施主さんの奥さんであったのですが、2人は恋に落ちて、1909年に一緒にヨーロッパ旅行に出てしまいます。当時の保守的なアメリカの中西部の文化からすると、非常にけしからんということで、社会的に排除されたような状況でした。そんな中で日本に来たのです。表向きの用事としては浮世絵の買い付けなどもやっていましたが、東京で林愛作と帝国ホテルの打ち合わせもしたと考えられています。

この後1914年にアメリカに帰国してすぐ、使用人によってタリアセンが放火され、メイマーを含む7名が惨殺されるという痛ましい事件が起こります。ただ、当時の市民たちはそれを神罰が降ったものとしてライトに対するバッシングをさらに強めたので、ライトは非常に苦しい状況にあったわけです。そうした中で1916年3月、林愛作がアメリカに渡ってライトと正式に帝国ホテルの契約を結び、1917年1月に、ライト3度目の来日となります。その時に林愛作を通して紹介されたのが遠藤新です。遠藤新はここでライトに心酔して、次のライト帰国時に帯同して

渡米し、タリアセンで修行します。そして再度連れ立って日本に戻り、ライトの右腕として活躍することになります。

遠藤新の代表的な作品として旧甲子園ホテルがあります。帝国ホテルを去った林愛作は、関西方面で、西の帝国ホテルと謳ってこのホテルを開業するのですが、その建物を遠藤新が設計しました。現在は武庫川女子大学の甲子園会館として、建築教育の場所として使われています。それから、真岡市の久保講堂です。宇都宮の近隣にも遠藤新の作品がありますね。

それから、4度目の来日時は同伴女性がまた変わるのですが、ミリアム・ノエルと一緒にしました。最初の妻キャサリンとの離婚が成立しなかったために、メイマーとは結婚できませんでした。離婚成立後に出会ったミリアム・ノエルとは結婚しています。この来日から帝国ホテルが着工するわけです。最初にできたのが、この現場事務所でした。ホテルの建物は動力棟から着工するのですが、その後、すぐライトは一度帰ります。

5度目の来日は1919年の年末12月24日でしたが、その直後の27日、既存の帝国ホテル別館が火事で失われます。手狭になった初代帝国ホテルの隣には、すでに別館が建っていたのです。これが焼失してしまったので、来日直後のライトに、すぐに代替建物のデザインを依頼して、アネックスという新別館が3カ月ぐらいで竣工します。さらに1922年4月16日、工事をしていたスタッフのタバコの不始末で初代の帝国ホテルまでも焼けてしまいます。新たな帝国ホテルの工期は大幅に延びて、予算も大きくオーバーして、そういう苦しい状況の中で、初代帝国ホテルの建物が焼け、さらにこのとき死者も出たということで、林愛作はクビになります。

ライトを支えたのは、その時はもう林愛作だけのような状況だったので、ライトも、形的には自ら退いたのですが、ほぼクビです。クビになって、7月22日にアメリカに帰国して、帝国ホテルがグランドオープンした1923年の9月1日の時には、ライトはもう既に日本にいませんでした。その時に、有名なエピソードになりますが、関東大震災が襲ってくることになります。

5度目の来日時に話を戻しますと、このときミリアム・ノエルと一緒に、アメリカでライトのところに入っていたアントニン・レーモンドを日本に連れてきて仕事をさせます。レーモンドは帝国ホテルのパスを描いたりしています。ただ、途中でレーモンドはライトと別れ、日本に自分の事務所を構えて独立します。

レーモンドは、この東京女子大学本館の時ぐらいまでは、まだライトのデザインの影響が非常に強いわけですが、この影響の払拭が、ある意味でこの後のデザイン的なテーマとなります。日光にある、イタリア大使館の別荘の本邸は、そのような背景から生まれたのです。

レーモンドは前川國男等も育てた日本の建築界の功労者でもあります。ライトの縁で日本に来たレーモンドや、ライトの弟子となった遠藤新という建築家が、この宇都宮の周辺にも代表的な作品を残しています。

【日本のライト作品】

来日の状況をざっとご説明しました。ここから日本のライト作品を紹介していきたいと思うのですが、赤字で書いてあるところが日本で竣工した建物で、青字で書いてあるものが、2019年

に世界遺産になった8件のライトの建物です。実は2016年に10件でエントリーしていたのですが、うまくいなくて、最終的に3年後に8件に減らす形で世界遺産に登録されました。

ここにある建物がユニティ・テンプル、ロビー邸、それからライトの住宅兼設計事務所タリアセン。このホリホックハウスは日本の芦屋にあるヨドコウ迎賓館・旧山邑邸と同時期のもので、デザイン的にも非常に共通するものがあります。それから落水荘。それから最初に実現したユーソニアンハウスであるジェイコブス邸。砂漠の中のもう1つのタリアセン、タリアセン・ウエスト。それからニューヨークの、ほぼ遺作となるグッゲンハイム美術館。これらの8つの建物がまとめて世界遺産に登録されています。ただ、これらは全てアメリカ国内の建物です。現状のライトの世界遺産の中にはライトと日本の強い繋がりを示す構成要素がまだありません。

日本の作品の位置付けを、数的な視点で、ライトの全作品の中で見てみましょう。ライトの生涯の設計作品というのは計画案も含めて1,100件以上あるといわれています。そのうち米国外のものは1,100件のうちの48件しかありません。パーセンテージでいうと4.2%です。建設されたものは全530件ありますが、このうち米国外には10件しかないのです。現存するものは430件あります。ちなみに私はこの全体の4分の3に現地訪問し、内部に入ったものは全体の約半数です。この現存する430件のうち、米国外のものはわずかに5件しかありません。視点を変えて日本にはということになると、アメリカ以外の48件中、16件設計実績があつて、建設されたもの10件のうち、8件は日本、それ以外はカナダに2件あるだけです。現存するものとなると、全5件中1件はカナダ、のこりの4件は日本です。カナダにあるのは1902年にできたピッキン邸という初期の住宅ですけれども、それ以外は全て日本にあるということです。ライトの全業績における日本の業績が特筆すべきものであることがお分かりになると思います。

アメリカにあるライトの文書館、アーカイヴズでは、日本での作品が15件登録されています。このアーカイヴズに入っていないものが1件あるので、日本では全部で16件の建築の設計があるということになります。以下紹介していきたいと思います。

これは帝国ホテルの新本館の初期案です。1913年に来日した時に林愛作と、多分この辺りをベースにして検討しただろうといわれるものです。断面も少し比較してみたいと思いますけれども、このピーコックルーム辺りは、最終案より小規模になっています。ただ、全体的な構成というか、中央にメインの建物があつて、それが北側と南側の客室棟をつないでいるという構成は踏襲されます。

これはアメリカ大使館案ですが、アメリカ側がライトに設計の依頼した事実はありません。ライトが勝手に設計したものです。これは多分、帝国ホテルの設計をする担当者として、大きな建物をどれくらいやったかということが、要するに実績が問われるという時に、ライトは基本的に住宅がメインの建築家ですので、これはある種のデモンストレーションとして設計してみせたものと考えられています。

このプランなのですが、実は以前建設されなかった別の建物のプランと酷似しています。これがそのサクスター・ショウ夫人の住宅案ですが、この中央部分はほぼ全く同じで、その両側にコの字型にウイングを付けた形になっています。実現しなかったものを別の機会に提案することは、

ライトではよくあることです。

それから、これが帝国ホテル支配人の林愛作邸で、日本におけるライトの最初の実現作品ということになります。東京の駒沢に残っています。一般には非公開のままずっと民間企業が所有していたのですが、近年所有権が移行して、この建物がどうなるのか、きちんと保存されるだろうかと心配していたのですが、去年5月の毎日新聞で、保存という大きな流れできているという報道がありまして、大変嬉しくなりました。先に申し上げましたとおり、アメリカ以外で残されているライト作品は5件しかなく、日本にはそれが4件残っているという中での1件、そして日本での最初の建物です。ヨドコウ迎賓館を世界遺産にという声がある中、もしこれを壊してしまったら、世界に対して逆のアピールになってしまうので、非常にありがたいことで、保存活動を支えていきたいと思っていますところ です。

玄関には、友が集うという意味をもつ朋来居という額が掲げられています。林愛作は、日本で最初のゴルフクラブである東京ゴルフ倶楽部をつくった人でもあります。敷地はそのゴルフ場のすぐそばにあって、クラブハウスの役割も兼ねていました。そして、一番よく残っているのが居間の部分です。ここには大谷石が使われている暖炉があります。

これは古い写真なのですが、居間空間は区切られて手前側には天井があるので、当時と現状は若干異なっていたようです。大谷石の間の目地に金泥を塗るというのも非常に面白いところです。帝国ホテルでも同様に金泥が塗られていました。これはここで初めてやったわけではなくて、ニューヨーク州バッファローのダーウィン・マーティン邸という豪邸があるのですが、そこでも煉瓦積み の目地に金泥が塗られています。

日本の建築文化を紹介する有名な文学作品として、谷崎潤一郎の「陰翳礼讃」があります。ここでは、日本の建築の本質的な美しさは、ほの暗さ、あるいはほの明るさにあるということが言われています。障子の紙で拡散した光が、部屋の奥の床の間にまでほんやり届いて、そこに金色の棗が鈍く光っているという、そういう記述があります。そういうものをライトも意識していたかもしれません。

こういう外観写真も残っています。これは林愛作です。ただ、アメリカのアーカイヴズに残っている林愛作邸というのは全然違うプランで、ほとんど一致するところがありません。これがどういういきさつなのかは、まだ明らかになっていないところです。

初代帝国ホテルが手狭になったということで、林愛作に主導されて、ライトによって新たな帝国ホテルが設計されることになります。最初に建ったのが現場事務所です。ほとんど紹介されていないものですが、日本人建築家がこれを目にして、『単なる現場事務所と思うなかれ、これはなかなかすごいぞ』というようなことを雑誌で言っています。図面はこれ1枚しかありませんが、写真では多分これだと思います。拡大してみると、この窓のデザインは帝国ホテルのアーネックスの窓と一緒です。正面の池の場所に建っていました。

次にできたのが、帝国ホテルの動力棟です。現場事務所は壊すことを前提にしていますので、帝国ホテルの建物として最初に着工したのが動力棟ということになります。帝国ホテルは薪や石炭を使わずに、動力のオール電化を打ち出し「電気ホテル」とも謳っていて、動力施設というの

は非常に重要でした。

アーカイヴズには一文字形プランとコの字形プランの2つが残っています。このどちらが建ったのだろうかといいますが、多分これです。こちらが日比谷公園で、皇居も近いわけですが、ここに動力棟があって、コの字形のプランが建ったのだということが分かります。

それから、先ほど申し上げましたが、初代帝国ホテルが手狭になったため当時すでに別館ができておりました。その別館がライト来日直後のタイミングで燃えてしまったので、ライトが大急ぎで設計して、2〜3カ月で竣工して運用されたのがこのアネックスです。多分ここが、ライトがいたところになろうかと思います。建設が進んでいくと現場事務所は壊して、この中に事務所を移して仕事をしつつ住んでいました。ここが多分ライトの部屋です。

新帝国ホテル、ライト館です。全体はこのように、北側と南側に客室の一直線の棟があって、その間で、ここが玄関になり、ここがメインの宴会場やバー、劇場がある高層棟、といっても4階ぐらいなのですが、その間を大食堂がつないでいるという構成になっています。プランを見るとこういう形です。

断面を見ると初期案と実施案の違いは明らかです。正面玄関の吹き抜けが非常に伸びやかになっていて、高層棟との間は大食堂ですが、初期案では2層になっています。最上階の大宴会場ピーコックルームも実施案で非常に大きくなっています。大谷石が随所に使われていて、巨大なクジャクのレリーフがあります。梁にはクジャクの絵が描かれています。

帝国ホテルは日本のフラッグシップホテルとして、さまざまな文化的催しを提供しました。ホテル内の結婚式場や、郵便局、アーケードなど、そういうものも帝国ホテルが最初です。これは大食堂です。これは中庭です。ペーブ・ルースや、これはマリリン・モンローですけども、外国からの賓客は基本的に帝国ホテルに泊まるという形で、日本を代表するホテルとしての歴史を重ねてきたわけです。

ただ、地盤である関東ローム層は非常に柔らかく、硬い岩盤ではありません。そこで基礎杭をたくさん打って、その摩擦力で船のように地盤上に浮いたような形で建っています。建物をいくつかのブロックに分けて、その間をエキスパンション・ジョイントでつないでいたのですが、柔らかいとはいえ地盤の状態は一様ではないので、時間の経過による沈下の度合いがブロックごとに変ってしまい、最後は鉛筆がコロコロ転がるほど水平が保てない状況にまでなってきて、1967年に取り壊されました。その後、中央の玄関が明治村に移築されました。全体像は想像するしかありませんが、この部分だけでもライトの空間のクオリティを十分に感じることができます。

ライトといえば、帝国ホテルの耐震神話。1923年9月1日のオープニングが関東大震災の日であったということ、そしてそこで壊れることなく、その後の東京の復興の拠点ともなったということで、非常に名声が高まったわけです。ただ、ライトが日本で設計した建物全てが地震に強かったわけではなくて、実は壊れたものもあります。

これは資生堂の創業者、福原有信の別荘的な自邸で、箱根の強羅にあったのですが、この地は関東大震災の震源に近く、崩壊しました。これは玄関です。プランはこのようになっています。

中央に矩形の中庭がありますが、ライトには珍しいプランです。図面はかなり残っていて、模型などで再現することができると思います。

それから、小田原ホテル。支配人として林愛作を迎えて、小田原の温泉地にリゾートホテルを建設する計画がありました。着工したことはほぼ確実なのですが、竣工せず、いろいろと謎が多い建物です。

それから自由学園。現在は明日館といわれていますけれども、今も東京の目白に建っています。羽仁もと子、吉一夫妻がキリスト教的な考え方の下に、詰め込み型の勉強の場ではなく、女性の自立を目指した女子学校として構想していました。羽仁とライトを媒介したのは遠藤新でした。遠藤新と羽仁は同じキリスト教会に通っていたのです。ライトはこの構想を聞いてすぐに協力を決め、2カ月後には図面を仕上げます。

帝国ホテルの仕事をしているのに、2カ月でこの自由学園の図面を書いたのはなぜでしょうか。実はライトの母方の一族ロイド・ジョーンズ家は地元ウィスコンシン州スプリング・グリーンの実力者で、聖職者、政治家、農場主の他に教育者もいて、ヒルサイド・ホームスクールという、アメリカで初めての共学の寄宿学校を設立していたのです。自分の叔母達と同じ志向に共感したのだと思います。この明日館の図面にはライトと並んで遠藤新の名前が記されています。一緒にやったと書いているのです。

それから、現在のヨドコウ迎賓館である旧山邑邸です。この写真中央にいるのは犬養毅。そして山邑太左衛門、遠藤新、遠藤の横にいる人が犬養毅の弟子的な存在の星島二郎です。この星島二郎は山邑太左衛門の娘の旦那さん、婿なのです。そしてまた、遠藤新が星島二郎の親友なのです。そのような縁があって、この芦屋の住宅とライトがつながっています。ここでも遠藤新はライトと施主をつなぐキーパーソンだったのです。

これは門の写真です。今はほんの一部の痕跡だけ残っています。図面ではここに門があって、そして温室があります。昨年この温室の敷地を発掘調査したところ、一部痕跡が出てきました。これからさらに研究していくことになっています。これはうちのゼミで制作して、昨年度のライトの展覧会で展示された模型で、失われた門と温室も推定復元しています。

それから、新聞に図面が掲載されていて、アメリカのアーカイヴズに入っていないものが、この日比谷三角ビルという建物です。星島二郎が持っていた土地に、帰国直前のライトがスケッチした計画案で、あとは遠藤新に託したと言われています。これを踏まえて遠藤新が実施設計して建設予定だったのですが、関東大震災によってこの計画も立ち消えになりました。

それから劇場の模型。これは京都大学にあるのですが、多分、ライトが武田五一に贈ったものだと思います。これは同時期に設計されたバーンズダール邸の劇場に非常に似ています。それから三原邸、これも過去にデザインされた計画案に非常に似たものがあります。これは井上匡四郎子爵邸。計画案でしたが、もし実現していたら日本での住宅としては最大規模のものでした。後年、遠藤新が全く別なプランで、井上匡四郎の家を葉山に建てています。それから東京市長であった後藤新平邸の計画案です。この敷地には後にレーモンドがデザインした後藤新平邸が実現しています。

【ライトにとって「大谷石」とは？】

結局、この林愛作邸、それから福原邸、自由学園明日館、ヨドコウ迎賓館・旧山邑邸、そして帝国ホテルというのが日本で竣工した建物ということになります。そのいずれにも共通項としてあるのが「大谷石」ということになります。「ライトにとって大谷石とは？」ということなのですが、まず、ライトはたくさんの言葉を残してしまっていて、私の博士論文は彼言葉に着目し、その繋がりを明らかにしながら、かれの思想を構造化して図式化するものでした。

かれの言葉の中で、キーワードの一つとして、「素材の本性」というのがあります。「the nature of materials」というものです。ライトの建物は非常に素材感が豊かというか、イミテーションのようなものは使わずに、非常に素材の肌理やテクスチャーを表しているものばかりです。

その使われ方を見てみると、ヨドコウ迎賓館・旧山邑邸ではこういう形で、大谷石が地面と一体化したような形で使われています。また外観にも、あるいは内観にも使われて、これは内と外が連続するというライトのコンセプトの表現にもなっています。主張の強い素材が外にも内にも同じように使われていることで、内と外の境界のようなものがぼやけてくるということです。

それから、建設の工程に関しても相当にこだわっています。帝国ホテルの断面図です。柱や梁といった構造体の中にコンクリートが充填されているのですが、鉄筋を組んで、それをレンガの型枠で囲って、その中にコンクリートを流し込んで、それで完成。今で言うところの「打ち込みレンガ」という工法です。これによって建築の材料が「一体化」しているのだと言っています。例えば普通のコンクリートの建物はコンクリートを打った後、型枠を外して、その表面の仕上げをするという形になるのですが、ライトは外から何かを「ひっつける」ということを嫌っています。

ライトは柱と梁が直角にぶつかることにも不満を持っていました。両者の間に斜めの部材を入れているのは、「連続している」という表現なのです。天井を見ると、こういうモールディングがあるのですが、ここでもライトには主張があります。通常このモールディングというのは、天井と壁というように異なる面や材料の接合部、境界線上に付けるものなのです。そうすることで、このモールディングを外せば、両側の材料はつながっておらず縁が切れているので、例えば壁紙が傷んだら、天井紙を傷めることなく壁紙だけ張り替えできる、というような実用性があるわけです。

ところが、ヨドコウ迎賓館の食堂の天井のモールディングはこのようになっています。これはライトいう「連続性」や「一体性」、「continuity / plasticity」という概念とかかわっています。このことについて、ライトは自分の作品を例示しながら語っています。このハント邸とストックマン邸という建物は、プラン、大きさ、時期もほとんど同じです。ハント邸が先にできて、その後にはストックマン邸ができたのですが、このコーナー部分のデザインが少し違いますね。ハント邸は1つの面の中で収まっています。ストックマン邸は向こう側に回り込んでいるのです。

この時にライトは、『すごいことを発見した』と言って喜んでいます。これと同じようなことで、面と面がぶつかるのではなくて、つながっているという、それをモールディングによって強調したいのです。これは多分、その「連続性」ということを身振りで示している連続写真なのですが、上の2枚と下の2枚に分かれます。上2枚は、多分「デ・スタイル」グループの建築などを念頭

に置いているのではないかと思います。今の建築家というのは、乗せたりくっつけたりしているという説明です。このような構成は建築を「外から」造っていると批判しているのです。一方下2枚はライトの建築で、「内から外に」こう広がって行くのだ、それがいいということを言っています。内から外へと連続している、ということがとても大事なのです。

ライトは日本の折り紙が大好きで、オリガミ・チェアと名付けた椅子をタリ阿森用にデザインしています。折り紙は多種多様なものを表現できますが、開けば全て1枚の紙ですよね。こういうのがライトは大好きです。ライトは、自然では全て「一から多が生まれる」というようなことを言うのですが、そのことと響き合っています。空間的にも常に連続していくということです。

ライトの建物は有機的建築、オーガニック・アーキテクチャーといわれるのですが、その定義のようなものがここに示されています。「有機的な語は、全体が部分のためにあるごとく、全体に対する部分」、非常に訳しにくいですし、ハイフンでずっとつながっているのです。端的にいうと、部分と全体が緊密な相関関係にあって、どちらが上、下ということなく、ハイフンによって両者が行ったり来たりする関係が表現されていると思います。

部分というのを例えば人間と捉えて、全体というのを自然と捉えると、人間と自然が一体的になろうとしている。ただし、みんな違ってみんないいではないですが、みんな一つでみんな違うというのがライトの考えている関係なのです。ライトはずっと自然と人間の間をテーマにしています。これは講演録として記録に残る最初の記述で、これは最後です。生涯を通じて、自然を探求するというのがテーマになっているということです。

そういう中で、「素材の本性に出会うとき建築家は初めからやり直さなければならない」という言葉があります。この図式は私の博士論文の最終的な結論になるのですが、自然と人間が分かれている世界、例えば人工と自然といった場合には分かれている、そういう世界の捉え方がひとまずあります。これが②。ライトはそういう世界を別に否定しているわけではなくて、そうでもあるのだけれども、それだけではない、そもそもそうではない、根底に行くとながっているのだということです。その時には人間はヒューマンネイチャーになっているし、ネイチャーはネイチャー・オブ・ネイチャーになる、そのところで within、内ということを用います。これが①。

その内から表れた空間のことを、ライトは空間と言わずに、「space within to be lived in」という、非常にもったいぶった言い方、「住まわれる内空間」みたいな言い方をします。それが③。その内からの内空間のようなものが建築の本質で、要するに一体になっているところ①と分かれているところ②を動く、この動きがリアリティーなのだということをライトは言っているわけです。このネイチャーというところにマテリアルということを入れれば、「the nature of materials」ということが、ここ①にあるということが分かります。

「石の粒子に大地の文法を読み取りなさい」なんていうことを言うわけです。この space within は第3の次元、奥行き次元、意味次元なのだということをいいます。要するに、物がその背後にある意味みたいなことと交歓する、人間と物が語り合う、そういう空間が大事なのだということを言っているわけです。

スクラッチレンガや大谷石がライトの日本での作品において非常に重要視されています。これ

は今朝撮ってきたのですが、立岩神社や岩原神社。こういう、要するに石の向こうに神的なものを見ている、大地的なものを見ているというのが、大谷の文化の中にあるのだと思うのです。こういう立岩神社や岩原神社は、行った時に少しぞくっとします。石の向こうから、なんだかこちらが見られているような気がします。

それがライト建築の重要なところに使われています。特に重要なのは暖炉です。この暖炉の中で火が燃えている時、ライトの考えている空間が立ち現れる瞬間があるのではないかと私は思っています。これは自由学園明日館、暖炉があります。食堂側にもあります。それから、福原邸の図面にも大谷石の暖炉が確認できます。それから、帝国ホテルの貴賓室にもあります。ヨドコウ迎賓館・旧山邑邸には、主寝室にも、食堂にも、応接間にも、この大谷石の暖炉があるのです。

【まとめ】

ライトが大谷石に見ていたものというのをまとめたいのですが、ライトは、自然と人間が「区別されながら根源的に一つである」、「一から多が生まれる」ということを言います。そういうことを「有機的な関係」、「部分と全体が不可分に緊密である関係」と捉えて、有機的建築において「現象する」「空間」が、本来的な人間の在り方を気付かせる契機となることを狙っていたということなのです。

「素材」というのは、そのネイチャーの一つとして大きなきっかけになっています。かつ、ライトはその土地の材料を使うことに非常にこだわる人です。落水荘の縦シャフトの岩も周辺の岩棚から取ってきたものですし、ヨドコウ迎賓館では大谷石を砕いて、コンクリートに混ぜて使ったりしています。

結論なのですが、「大谷石」というのは背後に「大地性」や「神性」を感じさせて、視覚的にも、あるいは手触り、触覚的にも、人間に非常に語り掛ける素材なのです。非常に饒舌だと思います。空間というのはフィックスした物として私の外にあるのではなくて、私と物との間で引き起こされる、現象してくる、経験です。日本で産出される素材の中で、かれが狙っている「空間」を立ち現せる、立ち上がらせる、そういう「力」を、この大谷石が一番持っている、ライトは見定めたのではないのでしょうか。ご清聴ありがとうございました。

■司会

水上さま、ありがとうございました。続いて新素材研究所所長・建築家・宇都宮市公認大谷石大使、榊田倫之さまです。榊田さまからは「フランク・ロイド・ライトがとちぎに残したもの」と題して講演いただきます。よろしくお願いします。

宇都宮共和大学シティアライフ学部シンポジウム

資料4
2025.2.7

フランク・ロイド・ライトと日本

——ライトが大谷石に見ていたもの——

兵庫県立大学
環境人間学部教授
水上 優

(001)



フランク・ロイド・ライトの建築思想

著 水上 優

『フランク・ロイド・ライトの建築思想』
中央公論美術出版、2013.4

『花美術館vol. 58
フランク・ロイド・ライト』
花美術館、2018.4

『フランク・ロイド・ライト』
WRIGHT SITES
Frank Lloyd Wright
Public Places
Architectural
Photo Book
2008

『建築ガイドブック
フランク・ロイド・ライト』
丸善、2008.1

FRANK
LOYD
WRIGHT
フランク・ロイド・ライト 建築思想の発展
『フランク・ロイド・ライト
——世界を旅する建築』
鹿島出版会、2023.11

(002)

フランク・ロイド・ライトと日本

——ライトが大谷石に見ていたもの——

①7度の来日

②日本のライト作品

③ライトにとって大谷石とは？

(003)

フランク・ロイド・ライト略年表

1867	ウイスコンシン州リッチランドセンターに生まれる
1888	アドラー・サリヴァン事務所入所
1893	独立。シカゴ周辺に多くのプレリー・ハウスを設計
1902	初来日
1905	ユニティ・テンプル
1908	ロビー邸
1909	施主の妻チェニーと共にドイツへ
1910	アメリカ帰国
1911	タリアセン(自宅兼事務所)建設
1914	タリアセン火災
1917	林愛作邸
1918	立案の家(バーンズダール邸)
1920	福原有信邸
1921	自由学園明日館
1923	帝国ホテル
1925	山邑太左衛門邸(現ヨドコウ迎賓館)
1935	落水荘(カウフマン邸)
1936	ジェイコブス邸 ユーソニアン・ハウス
1938	タリアセン・ウエスト
1943	グッゲンハイム美術館
1959	逝去(91歳)

第1黄金時代

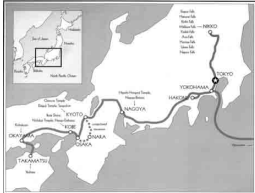
第2黄金時代

生涯の時代

F.E. Querman, "Picturing Wright", Pompano Beach, 1993

(004)

1905	初来日(夫人とウィリツ夫妻)
2月14日	オークパークを発つ
2月21日	カナダ、バンクーバーから出港(エンプレス・オブ・チャイナ)
3月7日	横浜港着→名古屋、京都、神戸(奈良、大阪)岡山、高松
4月10日	京都
4月21日	東京
4月23日	日光(金谷ホテル)～25日
4月25日	箱根(富士屋ホテル)～27日
4月28日	横浜港出発(エンプレス・オブ・インディア)
5月14日	オークパーク着




キャサリン・トビン
(1872-1959)




Source: B&B Ltd., "Frank Lloyd Wright's City Views of Japan: The 1905 Photo Album", Pompano Beach, 1996

(005)

1913	2度目の来日(メイマーと)	
1月半ば	アメリカを発つ	
2月14日	入国ノボストンを本拠地とする収集家ウィリアムとジョンのスポーツディング兄弟の資金(25000ドル)での大量の浮世絵買付けノ東京で帝国ホテルの打合せ	
5月17日	帰国	
1914	8月15日	タリアセン火災。ジュリアン・カールンがタリアセンの9人中7人を殺害
12月11日	林夫妻と吉武長一が天洋丸で横浜を出港(林帰国16/4/14、吉武帰国16/4/17)	
1915	3月17日	林愛作がタリアセンを訪れ設計依頼、契約
1916	3度目の来日	
12月28日	バンクーバーからエンプレスオブアジア号で日本へ出港	
1917	1月9日	再来日。帝国ホテルの設計を進める→遠藤新、ライトに師事
4月21日	横浜からエンプレスオブアジア号で出港(遠藤新随行渡米)	
5月2日	バンクーバー着→5/17タリアセン着	



メイマー・チェニー
(1869-1914)



林愛作(1873-1951)



遠藤新(1889-1951)

(020)

1918	4度目の来日(ミリアム・ノエルと息子ジョンと)	
10月30日	日本郵船の伏見丸で出港(遠藤新随行帰国)	
11月17日	横浜着→帝国ホテルの現場事務所が建てられる	
1919	7月～8月	ライト病気になる
9月	帝国ホテル着工ノ帰国	
5度目の来日(ミリアム・ノエルとレーモンド夫妻と)		
12月16日	日本郵船の諏訪丸で出港	
12月24日	横浜港着	
12月27日	既存帝国ホテル別館(1890)消失	
1920	4月25日	帝国ホテルアネックス(新別館)竣工
6月下旬	日本出国	
7月1日	帰米してLAでバーンズダールと会う	
6度目の来日		
12月16日	エンプレスオブアジア号でバンクーバー出港	
12月28日	横浜港着	
1921	5月後半	帰米してLAでバーンズダールと会う
7月30日	エンパイアステート号でサンフランシスコ出港	
8月15日	横浜着	
1922	4月16日	旧帝国ホテル消失
7月2日	帝国ホテル北棟と中央棟(部分)オープン	
7月22日	プレジデントマッキンリー号で横浜出港→8/1シアトル着	
1923	9月1日	帝国ホテルグランドオープンノ関東大震災



ミリアム・ノエル
(1869-1930)



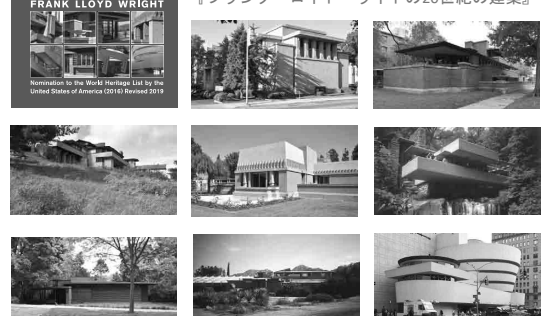
アントニン・レーモンド
(1888-1976)

(007)

『フランク・ロイド・ライトの20世紀の建築』

THE 20TH-CENTURY ARCHITECTURE OF FRANK LLOYD WRIGHT

Nomination to the World Heritage List by the United States of America (2016) Revised 2019



・・・全てアメリカ国内の建築作品

(008)

ライトが手がけた作品の数

生涯の設計 1100件以上 米国外 48件^{4.4%} 日本 16件
日本16件、カナダ13件、イラク8件、パナマ3件、イタリア、メキシコ各2件
 エジプト、エルサルバドル、インド、イラン各1件

建設されたもの 約530件 米国外 10件^{1.9%} 日本 8件
日本に8件、カナダに2件

現存するもの 約430件 米国外 5件^{1.2%} 日本 4件
日本に4件、カナダに1件

(009)

帝国ホテル第1案 アメリカ大使館案 林業作部
 新帝国ホテル(ライト館) 帝国ホテル戦時事務所 帝国ホテル動力機 帝国ホテルアネックス 日比谷三井ビル案
 信濃有徳堂 松島神社前庭家 自由学園(明日館) 田中川遊覧船・仙山邑太左衛門邸
 小田原ホテル案 外上野邸(子孫邸) 三原寛吉邸案 後藤新平貴顕邸案

(010)

素材の本性 (the nature of materials)

ロビー部 (1910) ポーゾン部 (1939) © Pedro E. Guerrero Archives
 ストラー部 (1923) 落水荘 (1935)

(011)

連続性／一体性

© Pedro E. Guerrero Archives ユニタリアン・ミーティングハウス (1947-51) オリガミ・チェア

(012)

ライトの建築——「有機的建築」

「有機的」——とは？

(人間)(自然)
部分と全体の緊密な相関関係

建築における有機的な語は単に内屋に吊してあるもの、2本足で歩きまわるもの、畑で栽培されるものを指すのではない。有機的という語は**実在**を指すゆえに、インテグラルあるいは本質的という語を使う方がよいであろう。建築において独断的に用いられた有機的な語は、全体が一部分のためにあることと全体に対する一部分を意味する。それゆえインテグラルなものとしての実在は、有機的な語によって真に意味されるものなのである。本質的な事柄。

As originally used in architecture, *organic* means *part-to-whole-as-whole-is-to-part*. So *entity as integral* is what is really meant by the word *organic*. INTRINSIC.[FA321]

(013)

自然は良き教師である。私は自然の子供であり、自然の訓辞を離れて活躍することはできない。(1896)

自然は偉大な教師である——人は自然の教えを受けとめそれに応えることができるのみである。(1954)

私は建築を根から、世界をめぐる旅によって、そして自然の探求における絶え間ない実験と経験によって学んできた。(1957)

ライトの生涯一貫したテーマ

自然-探究 (Nature - study)

(014)

素材の本性 (the nature of materials)

この強力な新たな拠所——素材の本性——とは、あらゆる素材において、それに求められている働きに関する共通の核心のことである。これは建築家が全くのはじまりから再びはじめなくてはならないということの意味する。[NH60]

建築は最早象徴的な彫刻ではなく、より偉大な建物に生長する、より素晴らしい財産に生長する、真の文化である。それは素材の本性に真実であり、より人間の本性に同意する。[MA60]

②: nature materials : individual, specific, variety
 ③: space-within-to-be-lived-in : the third dimension, depth-dimension
 ①: nature of Nature : human-nature : within, one, fundamental
Nature of Materials

ライトの思索における自然に倣う建築のあり方の構造

(015)

石の粒に大地の文法を読みとりなさい。石とは大地を形作る骨格であり、何れもその露出に他ならない。そこに建築家は腰を下ろし、学ぶのだ。[CW1-275]

(016)

フランク・ロイド・ライトと日本

——ライトが大谷石に見ていたもの——

- ・ ライトは、自然と人間が「区別されつつ一根源的に1つ」であることを「有機的関係」と捉え、「有機的建築」においてたち上がる（現象する）「空間」によって、その関係を支えようとしていた。
- ・ 素材は、その空間現象の契機である。
- ・ ライトはその土地固有の素材の使用にこだわっていた。
- ・ 背後に「大地性」や「神性」を感じさせ、視覚的にも触覚的にも人間に働きかけてくる「大谷石」は、日本で産出される素材の中で、ライトの狙う空間現象の契機としての「力」を非常に強く持っている、と見定めたのではないか。

(017)

基調講演

「フランク・ロイド・ライトが とちぎに残したもの」



(株)新素材研究所所長・建築家・宇都宮市公認大谷石大使

さかきだ ともゆき
榊田 倫之 氏

【はじめに】

榊田でございます。どうぞよろしくお願いします。先ほど水上先生から、ダイジェスト的にライトを俯瞰するお話を頂いて、改めてライトの功績を感じたところです。一部重複するところはあるのですが、素材の持つ力、それがどのようにライトの建築に影響していったか、そして、私が実務としてやっている建築に対して、現代建築に対してどのように大谷石が展開されてきたかということについて、少しお話をしてみたいと思っています。

私は新素材研究所という少し風変わりな設計事務所をやっています。後で出てくるのですが、ご縁として、帝国ホテルが京都にできるのですが、私とその設計者に選ばれ、来年の開業に向けて今、設計をやっています。そして、大谷石大使も務めていますので、人生の伏線を回収しているという感覚で、今設計をやっています。

新素材研究というのですが、ある意味では旧素材研究で、日本には古い良きものがたくさん残されていると思うのですが、その一つが大谷石ともいえると思います。私は昨年著書を出し、『素材考』と銘打ったマテリアルの著書なのですが、日本津々浦々、いろいろな石、これは大谷石をはじめ、凝灰岩のみならず、大理石であったり、木であったり、そういった日本の良き素材、あるいは日本の良き技法、そういったことを未来へ残していけないか、高度成長の中で淘汰されてしまった日本の良きものはたくさんあると思いますので、そういったものを再編集して、空間による構成をして、また世の中に問うていきたいということで活動をしています。

そのような中で、素材の探求というのはある種、場所を知っていくことであり、その歴史を知っていくこと、そして、その向こうには自らを知ることということで、ローカリティを追究していった先にグローバリズムがあるのではないかという仮説を立てていて、私自身も日本人の建築家として、日本の素材を探求していくという活動をしています。

【大谷石について】

改めて大谷石の魅力とは何なのかということで、先ほどの水上先生の話であったことと、まさに私は日々同じことを思っているのですけれども、改めてこのポーラスさ、野性味のあるという

か、粗野な風情というのが非常に魅力です。近年、やはり建築では、風化していくものを建材として利用するというのはなかなか望まれない部分もあるのですが、大谷石の魅力というのは枯れていく風情、きれいなサビというのですかね、そういったものが一つの魅力ではないかと思っています。

日本の凝灰岩というのは、ご承知のとおり、たくさん採れる、あるいは採れたわけなのですが、特に東のほうの中心に大谷石があり、北は札幌軟石、あるいは白河石、西でいけば竜山石など、非常に魅力的な石が多いと思っています。そして、まさに場所を知ること、これは皆さん、大谷石をよくご存じの方がいらっしゃると思うのですが、大谷石というのは露天掘り、まさに山を削っていく掘り方と、地下掘削をして中から、60メートルほど下りて行って、田んぼの中に唐突に現れる地下坑に入っていくと、そこに石丁場があります。

この丁場の中に実際に入っていくと、冷気に包まれて、皆さん、大谷資料館というのを地元で行かれたことがあると思うので、想像がつくと思うのですが、このような石室のような空間で、自然の光が差し込んでいる、これはまさに、建築家としては、いつかこのような空間をつくってみたいと思うぐらいの空間で、こういったところに行くのをいつも楽しみにしています。

石そのものは、このようにくし目を入れて、そして、このようにハンマーでたたいて、石を剥がして採っていくという、掘るというか、剥がすという感覚で採っていき、これは五十石材という、大体 30 センチ、90 センチぐらいの規格サイズです。これは地下から持ち上げるために適したサイズということですが、このサイズの石を剥がして出していきます。そして、その表面にはこのような、最初は青みがかった色なのですが、後に酸化して行って、黄色くなっていくということで、この中には有機物が堆積して、半分化石化したようなミソの部分が非常に魅力的で、こういう粗野な風情というのが大谷石の一つの魅力ではないかと思っています。

そして、日々、大谷石とは何なのかということを考えていった中で、私自身が、これを図式化すると、このように読めるのではないかと思っています。「石でもあり、土でもあり、木でもある」というものが、まさに「大谷石」ではないかということです。最初にこれを申し上げたいのですが、日本の文化には陶器や陶芸など、陶器質のもの、そういった土をこねて形態化するようなものや、あるいは、日本の建築は木の文化ですから、そういった、土もそうですけれども、100 年、200 年と残っていくような、木の枯れたものをめでるという価値観の中で考えていけば、まさに大谷石というのは日本の風情に合う素材ではないかと思っています。

かつては年間 90 万トンぐらい産出されたものが、今では 2 万トンぐらいしか市場に出ないということで、それというのは、まさに建材としての利用が難しいということが評価の中にはあるのですが、私個人としては、建築家として大谷石の啓蒙というのを、これからの設計人生の中で考えていきたいと思っています。

【帝国ホテル旧本館・通称「ライト館」】

そして、帝国ホテルのライト館、これは先ほど水上先生の話にもありましたけれども、1923 年に竣工して 67 年まで建っていたということで、年数にしますと 44 年です。これは意外と短かつ

たと思っています。明治村に移築されたのは1970年代ですので、実質的に今、明治村に建っている時期のほうが長いという状況になっていて、意外と日比谷に建っていた時期は短かったのだと思うわけなのです。

これが解体直前の67年の帝国ホテルなのですけれども、この時、ちょうど高度成長の中にあった日本ですので、排ガスが非常に多かったのです。それによってかなり大谷石の風化と、あとは黒ずんだ跡が、解体されると同時に、やはり建材に向かないという意識を与えてしまったという感じがあるのではないかとと思っています。

改めて今、明治村に行った大谷石を見ると、50年以上たっていますけれども、結構きれいなのです。ですので、かなり大谷石の、採れた石の質も違うと思うのですけれども、やはり環境によっても変化の差があるということです。日比谷の帝国ホテルは2036年に新たな建物に変わりますけれども、私個人としては、ライト館のリバイバルができれば面白かったなと思っているのですが、そういう実現にはならないようです。

1921年の完成前に、解雇される前のライトと、左端に遠藤新とライトが写っていて、これは有名な写真なのですけれども、これが、先ほどの古びた大谷石とは異なる風情がカラーであれば見られたということで、想像しながらこれを見えています。そして1923年、これも有名な写真ですけれども、関東大震災の落成年の後に撮られた写真で、右奥に見えているのが、有楽町方面から見た写真なのですけれども、ライト館が残されています。ここで耐震神話というものが生まれているということになります。

これも先ほどあった写真ではありますが、日比谷公園の前に、ちょうど帝国ホテルの左2軒隣に鹿鳴館が、昭和初期に建っていたということもあり、外国の要人、賓客を迎えるための施設として、鹿鳴館とともに帝国ホテルがあったということが分かると思います。

そして、このような写真です。孔雀の間、こういったレリーフに、これが、先ほど石のようでもあり土のようでもあると申し上げたのは、やはり彫刻しやすいということです。形態を作りやすいところで、このようなレリーフに、特に帝国ホテルでは生かされていたと思っています。

一時期アメリカ軍、GHQに接収されるという時期がありました。今では残念ながら建っていたライト館を体感することは叶いません。教科書や写真でしか見られないというのが非常に悲しいのですけれども、見たかったなと思います。

【帝国ホテル京都】

ここまでは皆さんがよく知っている、ある種の史実ということだと思うのですが、私が今取り組んでいる帝国ホテル京都ということで、これは新聞発表などもかなりされていますので、ご覧になった方もいると思います。帝国ホテルというのは、先ほどの1期目の帝国ホテルから、ライト館というのは2代目の建物です。その後に今、日比谷に建っている建物が建ってしまっていて、あと10年後ぐらいに日比谷の三井不動産の再開発に、巻き込まれているというところなのですが、今の帝国ホテルの大株主は三井不動産ですので、一帯の開発の中で整備されるということになります。建築家は、私は友人ですけれども、田根剛というパリ在住の建築家が建てるということでは

発表されています。

ホテルとしては、日比谷と大阪と上高地に3拠点あります。大阪が30年前にできましたので、京都にできる4拠点目というのは30年ぶりの新規開業、帝国ホテルにとっては4拠点目のホテルということになります。われわれが計画している建物というのは、今、これは少し分かりにくいのですが、この赤の点線で書かれているところです。この縦の通りが花見小路で、この辺りに八坂神社があって、四条通がこの辺りなのですけども、建仁寺がこの辺りにあります。

ちょうどその中間ぐらにある、甲部歌舞練場という、芸舞妓さんが訓練をする場所です。技芸学校がある場所なのですけども、その一部、その敷地の中に、弥栄会館という昭和11年にできた劇場がありまして、これを帝国ホテルにしようという計画になっています。

歌舞練場は、耐震改修が終わりまして、弥栄会館がホテル化されるという計画が始まりました。これが昭和11年当時の竣工当時の写真で、非常に見にくいですけども、東山に八坂の塔が見えて、ここにその当時の歌舞練場が見えます。これがちょうど、花見小路から門をくぐって見たところということになります。

様式的には、いわゆる帝冠様式の建物なのですが、コンクリート造の建物に和風の屋根を乗せるという形で構成されたものになります。特にここの唐破風の意匠が特徴的で、これは、京都には金閣・銀閣・飛雲閣という三閣がありまして、西本願寺の中にある、秀吉の聚楽第といわれていた飛雲閣というのがあります。その屋根が、唐破風のモチーフを引用したのではないかといわれている建物です。これは国の登録有形文化財にもなっています。

これを一部保存活用してということで、これは南側と西面だけを残すのですけれども、先ほど申し上げた弥栄会館というのは、芸舞妓さんが訓練したものをここで披露する、劇場建築だったのです。

先斗町の歌舞練場と、この弥栄会館というのは、同じ木村得三郎という建築家が建てた建物で、武田五一が監修しています。帝冠様式であり、随所に幾何学的なものを引用して、1936年ですので、ちょうど後期、アールデコといいますか、1932年にインターナショナルスタイルが確立した後ののですが、そういったアールデコの雰囲気を残しながら建てた、非常に魅力的な建物になっています。

劇場ですので、ホテルに改変するというのは非常に難しいということもあり、シルエット保存と呼んでいるのですが、形態だけ西面と南面だけを残して、あとは新築します。この辺りは3階建てぐらいまでしか建たないエリアですので、容積を獲得するという意味もあるのですが、京都市の景観審議会を通して、この形態の中でホテルとして再構成するというプロジェクトです。

内部のインテリアから隅々、客室から、プールから、レストランまで、全部われわれが設計しています。このような新旧の対比をもって、何とか一石を投じたいと思いながら日々、今は毎週のように京都に行っているのですが、今年が工事としては最終局面です。来年の春に開きますので、京都に行かれることがありましたら、ぜひ見ていただきたいと思います。

当然、大谷石も使う予定にしています。レリーフのような使い方にはならないのですが、象徴的なところにはやはり大谷石を活用したいと考えています。帝国ホテルの皆さんとしては、大谷

石に対してある種、前向きな方もいれば、また大谷石かという人もいて、何度も帝国ホテルはライト神話というのがこびりついて、なかなかそこから脱却できないという思いもあり、大谷石を提案した時には、実はさまざまな反応がありました。やはり建築家の私、あるいは大谷石大使をやっている私としては、ここでやはり大谷石の魅力についてもう一度考えて提案をしてみたいということで、一部ですけれども、使うということになっています。

【フランク・ロイド・ライトが日本に残した4つの建築】

ライトが日本に残した4つの建築ということで、先ほども話がありましたけれども、やはり旧林愛作邸ですね。これが最初にできたということで、私はやはり、起点になったこの建物が非常に重要なのではないかと考えています。去年の5月に発表されたということで、水上先生もおっしゃっていましたが、私もかなり危惧していました。住友不動産が買ったというニュースが一時流れたのですが、電通から所有権が移ったということもあり、解体されるのではないかという思いのほうが強かったのですが、何とか保存されるということになりました。これは非常に喜ばしいことだと思っています。

先ほどアーカイブに残されているフロアプランがありましたが、現状はこのようになっています。入り口から、このような大広間になっているところと池がつながっている、いわゆる草原住宅、プレイリーハウスの形式といえると思うのですが、そこに日本間がつながるという、本当に和洋折衷的なフロアプランになっています。幸運にも、中を見せてもらう機会があり、実際に行ってきた時の写真なのですが、まず柱に、一番お客さまをウェルカムするところに大谷石が使われているところで、床、そして象徴的な柱、ここに大谷石が使われています。

ここで使っている大谷石というのは非常に小さいブロック状のものを使っていて、あまりその後のライトの建築に見られる使い方とは少し違うなという思いもあって見ているのですが、かなり現状は朽ちています。大谷石は、健在であるとはいえないのかもしれませんが、100年以上たっても、大谷石らしさというのはそこにあるというふうに感じました。

池も水が抜かれていて、このようになかなりぼろぼろなのですが、モダニズムの雰囲気というか、こういう水平の屋根と開口部のプロポーション、そして、少しアールデコの要素が窓のサッシの割り付けなどにも反映されていて、非常に近代建築の様式的なところを改めて体現しています。この開口部の在り方と、こういったサブの入り口にも構えとして大谷石が使われているということで、ここでも大谷石が随所に見て取れるということがあります。

先ほど暖炉のお話がありましたが、まさに私も暖炉に火がついているということを思いながらここを見ていまして、金色の目地がまさに自然光でも浮かび上がってくる、体験としては金の目地がかなり、なかなか効いているということがあり、石そのものの存在感をアピールすると同時に、全体感としての光の影響を感じるということが、体感としては非常にあったかなと思っています。外部にも内部にも残されたこの大谷石、非常に魅力的ではないかと思います。

【特徴と魅力：大谷石を用いた建築物の好例】

大谷石が日本の建築においてどのように展開していったか、私自身が考える建築物の好例をご紹介します。一つは、これは当然かもしれませんが、日本民藝館です。これは柳宗悦が創設した民藝運動の拠点といってもいいと思うのですが、東京の駒場にあるものです。

ここで私が注目したいと思っているのは、腰壁の石の張り方です。これは、やはり西洋的な建築の文脈でいえば、石というのは積むものだと思うのですが、ここで見て取れるのは、腰に縦に張っているという感覚ですので、地面に重いのを置いているというよりも、木造の建築にある種、木の板を張っているような扱いで石を扱っているということです。ここに、なまこ壁といいますけれども、漆喰を目地に盛り上げて塗っています。この張り方が非常に大谷石らしさを表現していると、私は思っています。

そして、もう一つは屋根です。屋根瓦を大谷石で作るということをやっていまして、もちろん建築的には構造的に非常に不利な形にはなるのですが、日本国内で屋根に石を使っている建築というのは結構多くあります。代表的なものだと、東京駅の玄昌石や、あとは諏訪にある鉄平など、そういった摂理によって薄くなるものを屋根にふくという形のものは結構多いです。

しかし、大谷石のように彫刻できる、軟らかさがあることによって、形態を作って瓦に見立てて、それを葺いていくということで、それが経年的な風雨によってさらされて、ある種、味がついていくという、この良さは瓦にはない良さです。これが上手く表現されていて、非常に魅力的だなと思っています。

もう一つは、これは栃木ですけれども、濱田庄司の益子参考館です。これは民藝運動の代表としての濱田庄司が有名だと思いますけれども、参考館においても、益子自体は工芸的なものが盛んな、藍や陶芸が非常に有名ですけれども、そういった民芸的なものの扱いとしての、それに寄り添う大谷石ということで、この大谷石の魅力がある種、工芸的なものを非常によく見せているのではないかと思います。

そして、文脈的にはひとつ違う方向で、近代建築の延長線上にある大谷石ということなのですが、これは坂倉準三の旧神奈川県立近代美術館です。これは今、鶴岡ミュージアムという名前に変わっています。コルビュジエの日本人の3人の弟子は、前川國男、坂倉準三、吉阪隆正といいますが、その中の1人である坂倉準三が造った、近代建築の5原則の一つであるピロティで、浮いたこのボリューム、そして内外空間が連動的につながっています。

これは典型的な建物なのですが、ここのピロティ部分に使われている大谷石、回遊できる庭園の中にこれが建っているのですけれども、ピロティ部分に内外の自然環境とつながる大谷石の扱いというのが、非常に日本人が近代建築を扱う上で、テーマとして取り上げたかったのだらうと思われる扱いではないかと見ています。

そして、ここから少し手前みそなのですが、われわれが計画したもので、行かれたことがある方もいらっしゃると思うのですが、小田原文化財団の江之浦測候所です。これは、私と協業している杉本博司という現代美術家がいるのですけれども、杉本博司の財団の施設でもあり、小田原から相模湾に囲まれた、熱海までの間の途中にあるところです。箱根外輪山に囲まれた急峻なミカン畑の土地を利用して、大体1ヘクタールぐらいの土地に建物を建てています。

その中に象徴的な、100メートルギャラリーと呼んでいるのですが、冬至と夏至の朝日の昇る軸線に建築を合わせて、ある種、ランドアートともいえる建物を計画しているのですが、非常に風光明媚な海岸線と、箱根外輪山に囲まれたところに建築を据えるということをやっています。

この100メートルギャラリーの側面、壁に大谷石を使っているということで、実はこれを評価していただいて、大谷石大使を拝命したという経緯があります。2017年に建物が完成し、アート好きな方は、今、直島はかなり人気ですがけれども、東京から直島はかなり遠いので、近郊でアート施設に行きたいという、ここに来られる方が多いということで、外国人の来館者が非常に多い施設になっています。周りには何もありませんが、ここだけが人がたくさん来てくださっています。

これは外から内部を見た写真ですがけれども、内部空間の壁、100メートルギャラリーの壁の部分に大谷石を使っています。建築物の高さとしては大体3メートルぐらいあるのですが、長さが100メートルありますので、連続する人工の大谷石の壁としては、かなり長いほうになるのではないかと思います。

表面の仕上げも、先ほど最初にあった地下の、地面を剥がした側の、何も人工的な処置をせずに肌から外してきた側、肌そのものを、地球側にあった肌をそのまま仕上げとして使っています。あまり、先ほどの坂倉さんの使い方のようなきれいな面ではなくて、割と粗野で力強い使い方、プリミティブな素材の扱いを心掛けてやったものになります。このように相模湾の水平線と建築物の水平線が連続してつながってきて、有機的な箱根外輪山の自然の形態と対比的に水平の線が見えるということで、ここのビューが一番私としては気に入っています。

こういった、建築物というのは当然、人工的なものなので、その人工物と自然との対比を考えた時に、大谷石の相性というのはすごく中間的な風情を持っていますので、建築の力強さも増すのですが、環境との調和も図ってくれるような魅力がすごくあるのではないかと考えています。一方で、風化していくということにはネガティブな、都市部ではなかなか、そういう難しいというのも当然あるのですが、このような環境の中では、大谷石の扱いというのは非常に魅力を発揮するのではないかと考えています。

【カルティエ 時の結晶展】

最後に、現在進行形でも帝国ホテルをはじめ、いろいろなもので大谷石を啓蒙したいと思って、使っています。代表的なところでは、ご存じの方もいらっしゃると思うのですが、2019年に国立新美術館で、フランスのメゾンのカルティエの時の結晶展というのを、われわれが展示空間のデザインをしました。その巡回展として去年、ソウルで展覧会をやりました。ここでも大谷石をかなり使ったということがあります。

場所は東大門広場という、もう亡くなってしまいましたが、ザハ・ハディドという建築家がいきました。この有機的建築の内部に、もう一つわれわれのほうで展示空間としての建築をつくり、その中に、カルティエの宝石を随所に見ていただくという空間をつくりました。当然、われわれは素材の研究をしていますので、石のみならず布や木、ガラスなど、そういったものを多用しな

がら宝石との対比を展開しました。

その中でも一番ハイライトというか、象徴的な展示空間があるのですが、そこでは大谷石と、この粗野な石と、奇跡のような石、エメラルドやルビー、ダイヤモンドなどと、大谷石を対極的に対比させるという見せ方をしました。これは実際に大谷石の石切り場で、カルティエのために石の配列を考えているシーンなのですが、このように展示空間の中に、かなりの量の大谷石を活用して井桁状に組んでいます。

このように、ケースの中に入っているのは当然、高価なものなのですが、その周りに、石室の中で宝石を発見するような、そういった印象が持てるような展示空間をデザインしました。この時にも、光を浴びた石の肌の雰囲気や、エメラルドのきらめきのそばにいる粗野な、野性味のある石との対比。こういったところが非常に魅力的に、双方が浮き立ってくる場所があり、もちろん宝石を見るという展示会なのですが、私としては大谷石を見てほしいということで、東京展でも使いましたが、韓国に巡回をしまして、今は次の巡回地を待っています。大谷石を広めたい私としては、この石を広く見ていただける機会をこれからもつくっていきたいと思っています。

【まとめ】

まとめとしては、やはり最初に戻るのですが、研究者ではなく、大谷石を使うという建築家、実務家から見た時の大谷石の魅力というのは、ライトが感じたことともしかしたら同じなのかもしれないのですが、土のようでもあり、木のようでもあるということです。それが広く伝わるのが大谷石の発展につながっていくのではないかと考えています。改めて書きましたが、**「土のような、木のような大谷石」**ということで、これが最も日本らしい石といえるのではないかと考えています。

石の存在感や経年変化、そして木造との親和性、あとは加工しやすいということ、あるいは多孔質な表面が土着性の表現にもなっています。これがある種の特徴になってきて、これがグローバル、ローカルから世界につながっていく一つのヒントが、ここには隠されているのではないかと考えています。少し駆け足になりました、まだ少しあるのですが、以上で終わりたいと思います。ありがとうございました。

■司会

榊田先生、ありがとうございました。それでは、ここで15分間の休憩に入りたいと思います。

2025.2.7

素材の探求によって、場所を知り、歴史を知り、自らを知る。



(009)



(010)



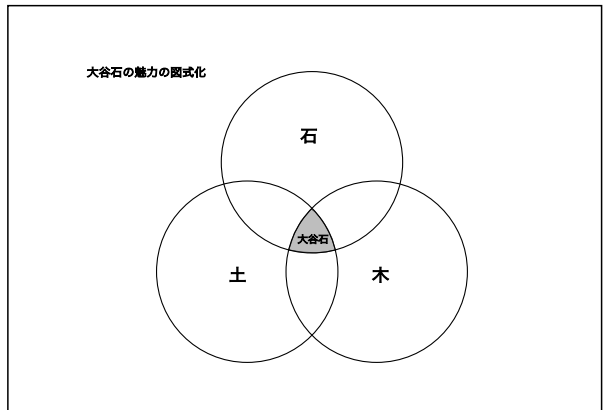
(011)



(012)



(013)



(014)



(015)



(016)



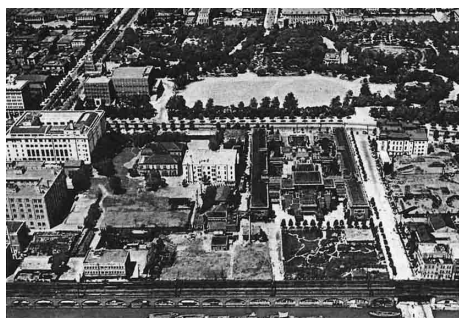
1921年 完成前の「ライト館」と工事関係者

(017)



1923年、落成年、関東大震災直後の有楽町界隈

(018)



昭和初期の写真：帝国ホテルを取り巻く日比谷界隈の俯瞰

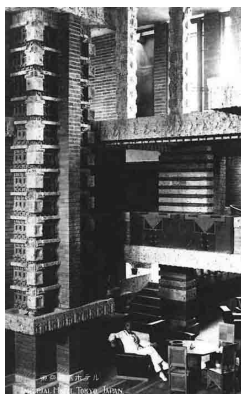
(019)



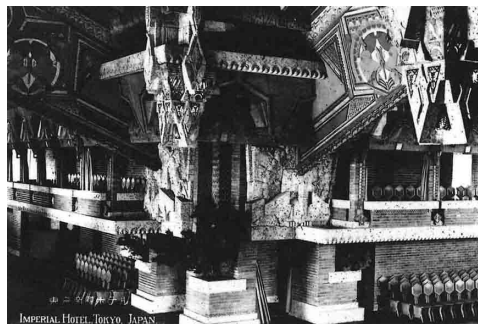
「ライト館」の中庭に面したテラスでくつろぐゲスト

(020)

「ライト館」1階ロビーでくつろぐゲスト



(021)



「ライト館」の孔雀の間

(022)



メインダイニングに集うゲスト

(023)



1945年、終戦後帝国ホテルを接収した米兵

(024)



1959年、ライト館と日比谷一帯

(025)



1967年、解体が進むライト館

(026)

帝国ホテル

京都
Kyoto, Japan
2026

(027)

IMPERIAL HOTEL

帝国ホテル

帝国ホテルについて

帝国ホテルは1890(明治23)年、西欧化を進める明治政府の要請に応じ、海外賓客をもてなすための「迎賓館」の役割を担って東京、日比谷の地に開業いたしました。設立にあたっては後に初代会長を務めた渋沢栄一をはじめとする経済人たちが設立発起人となり、宮内省や当時の名だたる財閥が出資するなど、まさに政官財が国の威信をかけて誕生したホテルです。



帝国ホテル東京
(1890年開業)
697室



帝国ホテル大阪
(1996年開業)
381室



上高地帝国ホテル
(1933年開業)
74室

(028)



(029)



(030)



(031)

フランク・ロイド・ライトが残した4つの建築



旧林業事務所 (1917年)



自由学園明日館 (1921年)



帝国ホテルライト館 (1923年)

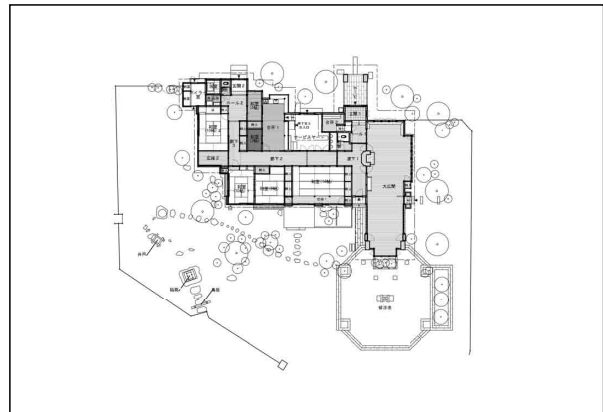


ヨドコウ迎賓館(旧山内家住宅) (1924年)

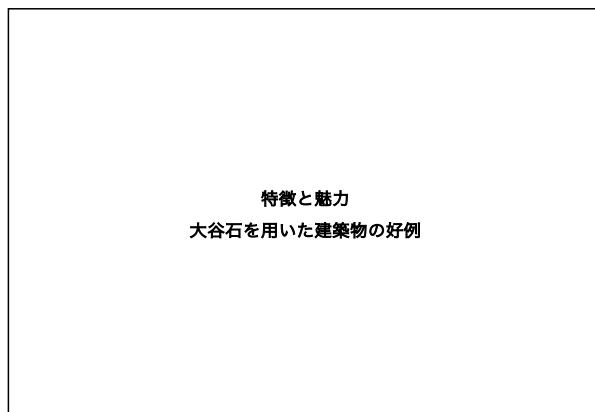
(032)



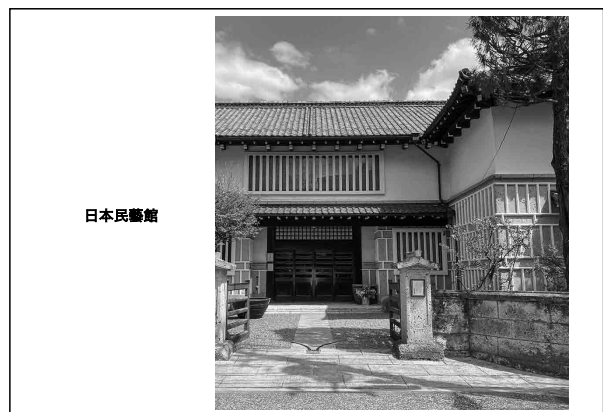
(033)



(034)



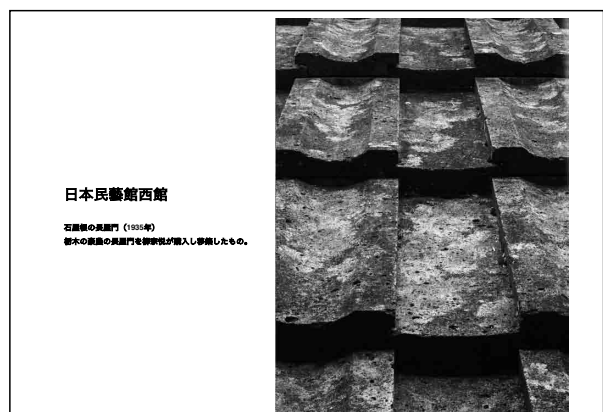
(035)



(036)



(037)



(038)



(039)



(040)



鎌倉文庫館 鶴岡ミュージアム (国神奈川県立近代美術館 鶴岡)

(041)



鎌倉文庫館 鶴岡ミュージアム (国神奈川県立近代美術館 鶴岡)

(042)

小田原文化財団
江之浦測候所
Odawara, Japan
2017

(043)



(044)



(045)



(046)



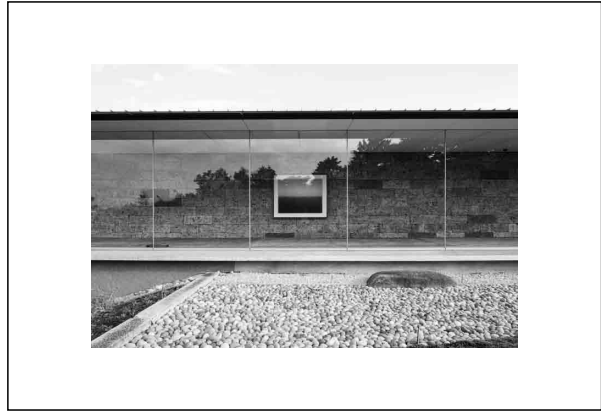
(047)



(048)



(049)



(050)



(051)



(052)



(053)



(054)



(055)



(056)



(057)



(058)



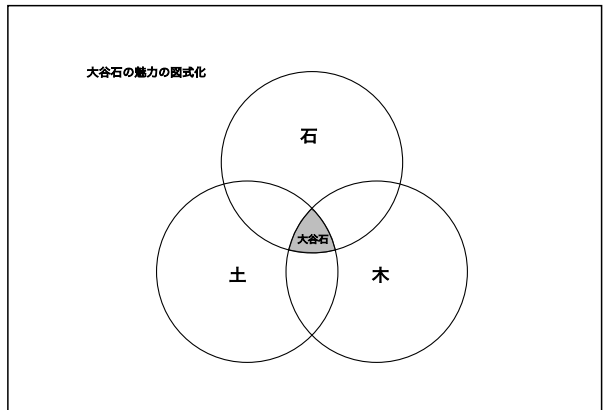
(059)



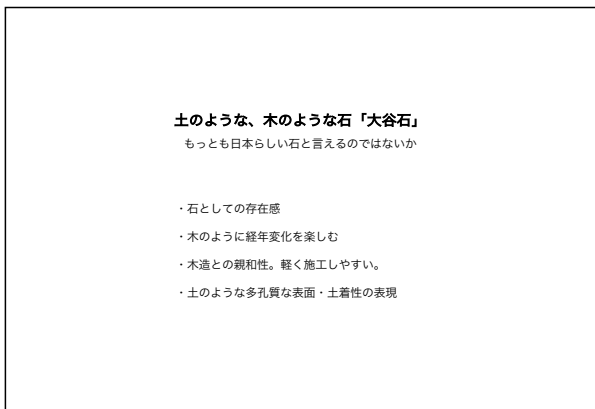
(060)



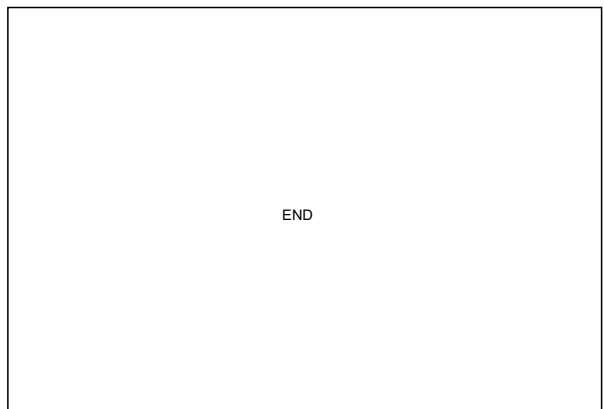
(061)



(062)



(063)



(064)

パネルディスカッション

「大谷石文化の魅力発信を考える」

パネリスト

橋本 優子 氏（近代建築・デザイン史家）

中津 正修 氏（栃木県文化協会 会長）

三橋 伸夫 氏（宇都宮大学 名誉教授・宇都宮市市政研究センター 上席アドバイザー）

コメンテーター

水上 優 氏（兵庫県立大学 環境人間学部 教授・建築史家）

榊田 倫之 氏（(株)新素材研究所 所長・建築家・宇都宮市公認 大谷石大使）

司 会

須賀 英之 （宇都宮共和大学 学長・宇都宮まちづくり推進機構 理事長）

■須賀

これから「大谷石文化の魅力発信を考える」をテーマに、基調講演のお二人の先生にも入っていただいて、地元の有識者の方々とディスカッションをしていただきます。まずは、感想を一言ずつお願いします。

■橋本

お二人の講演に非常に感銘を受けました。ありがとうございます。ライトのことは意外と、神話化されている割には知られていないことが多いです。それから、大谷石についても同じで、それを実際に使っていられる立場の人がどう見ているのかということ、その辺が大変大事ではなかったかなと思っています。



■三橋

水上先生、榊田さん、フランク・ロイド・ライトと、それから大谷石と、栃木との関わりということで、大変分かりやすくお話しいただきましてありがとうございます。私も大学で、建築学科に入って2年生ぐらいの時に、「ライト＝有機的建築」という図式を擦り込まれてずっと来たのですが、有機的建築という意味、素材の話や、あるいは土としての大谷石ということで、認識を新たにさせていただきました。



■中津



お二人の先生には貴重なお話をいただきましたこと、ありがとうございます。大谷石というと、実は、私は生まれが鹿沼なのですが、鹿沼には深岩という石が同じようにあります。先生方は当然ご存じだと思いますが、また、凝灰岩として、私の知識の中では、1,000 万年ぐらい前に海底に沈んで、これは栃木の博物館に行けば、クジラの骨が展示されているのは、この辺が海だったということです。海の中の凝灰岩が変形して、美しい石になったという認識をしています。今日は改めて詳しいお話を聞かせていただき、感謝申し上げます。

【フランク・ロイド・ライトと大谷石】

■司会

先ほどの大谷石らしさで、石と土と木という3つのキーワードがありました。榎田先生、大谷石の特徴をお願いします。

■榎田

大谷石が好きで、大谷町に来た時にいろいろ教えていただいたのですが、最初に蔵を見た時に、私は蔵というのは礎石造りでできていると思い込んでいたのです。それをいろいろ聞いていくと、礎石造りというのは近代以降、西洋建築が入ってきてから礎石造りのものができたということです。それまでは、日本というのは木造建築なわけですから、大谷石というのは、蔵においても石を張るという感覚でかつて使われていたということを聞いて、それが非常に扱いが日本らしいな、とまず思ったのです。

それが、東京で民藝館を見ている時に同じような、木の腰板のように扱っているのを見て、蔵と同じような扱いをしている、これは私の中ではちょっとした発見のように思ったというのがあります。そこから、日本的な素材の扱いや文脈の中に西洋的な石とは扱いが違う手法があるのだと、大谷石を通して感じました。ですので、石・土・木というキーワードに、その時に結び付いたということがありました。

■司会

水上先生、それをどうしてライトが選んだというか、その経緯をお願いします。

■水上

ライトは「the nature of materials」と題された雑誌連載論文で、木について、石について、テラコッタについてなど、それぞれの素材を一つひとつ取り上げながら語っています。その中では、常に素材の向こうにある自然の、何か偉大な、それを生み出したエネルギーや歴史性が語られているのです。それとともに、それが自分の手元に來た時に、どのような加工のしやすさや、

他の素材との組み合わせのしやすさがあるか、などを考えています。ライトはイミテーション的なもの、偽物的なものを嫌うのですが、ピュアな素材というか、そういうものの組み合わせの中に何か新しいメッセージというか、問い掛けてくるものがあるということを見ていました。

榊田先生が「大谷石には石の側面と木の側面と土の側面がある」とおっしゃいました。木の部分とはミソのことですが、大谷石には石の側面と木の側面と土の側面があるというのは、ライトからすると願ってもないというか、それこそ根源的に望ましいことです。ライトはありとあらゆるものが繋がって一つになるということを言いたいのですが、それだけにいろいろ分かれていることは大事なのです。分かれていることは大事で、自然は同じものを二度とつくりたくないと言っているぐらい、全て違うのですが、全て一つだと言いたいのです。そういう意味で、大谷石の持っている3つの素材が重なって一つになっているようなものというのは、ライトから見てもすごく魅力的だろうなと思いました。榊田先生の分析にすごく感銘を受けました。

■司会

アメリカ以外で、ライトの建築で現存しているものが日本に多いというのも、そういうことがあるのでしょうか。

■水上

あるかもしれないですね。計画自体はバグダットなどでもあったのですが、実際に動き出したものは1つありません。後期のプロジェクトで、その土地固有の素材感などというのは、ライトも掴みきれていなかったと思うのですが、日本については、若い頃からシカゴ万博の鳳凰殿などに触れていたんで、素材感を大事にする日本に対して非常に近いものを感じていたと思います。

■司会

榊田先生のお話の中で、京都の帝国ホテルで大谷石を使うことを検討されているとのことでした。現代建築においての大谷石の意義というか、捉えられ方・扱われ方というのは、どのようなことでしょうか。

■榊田

われわれの世代と、上の世代もそうなのですが、ある種、近代建築以降の教育を受けている建築家がほとんどです。そういう意味では、ミース・ファン・デル・ローエと、ル・コルビュジエと、フランク・ロイド・ライトというのは近代建築の3大巨匠といわれるように、その影響というのをわれわれは受けているので、先ほど先生がおっしゃったイミテーションを嫌う、物質的なものをそのまま生かしたいという意識はものすごくあるのです。

ですから、石をあまり表層的に扱いたくないという意識というのはものすごくあります。インテリアの内装の一部と表層的に大谷石を扱うという、表層的なものではなくて、やはり物質的な

よさですね。ですので、内装材の一部という感覚ではない、石が持っている本質的な部分を建築表現の中で使っていきたいという、そういう感じがあるのです。

【大谷石・大谷石文化について】

■司会

三橋先生と橋本先生は、また違った角度から大谷石や大谷石文化について研究をされてきたので、ご紹介していただければと思います。資料8が三橋先生の、資料6が橋本先生の資料です。

■三橋

資料8に移る前に、少し口幅ったいのですが、なぜライトが大谷石を使って帝国ホテルをデザインしたかというところで、補足になるかどうか分かりませんが、にわか勉強したところでは、ライトがまだアメリカにいて、帝国ホテルの構想を練っている時分だったと思うのですが、マヤ文明展というのを見たようなのです。それで、えらく石という表現に感銘を受けて、これは、帝国ホテルは石で造ろうと思ったということです。

日本に来て、いざ仕事本格化して、では日本のどの石を使おうかと考え、いろいろ関係するところを調べて、結果的に運ぶコストと、それから産出量、この2つから、結局大谷石がいいとなったそうで、初めから帝国ホテルは大谷石だということではなかったようです。そこは補足させていただきますと思います。

それから、資料8については、今日のシンポジウムのテーマが大谷石文化ということですから、帝国ホテルが一大拠点たる存在です。

しかし、宇都宮を中心とした、私はメンバーではないのですが、大谷石研究会が精力的に調査をされて、宇都宮の中心市街地で数百の石蔵があるということ、それから北関東を中心にいろいろな大谷石の建築を発掘して、検証しているということがあります。私としては、農村など、特に大谷石の長屋門に着目したわけです。それで、資料8にあるように、長屋門という形式は日本全国にあるのですが、きちんと調べていませんが、大谷石を使った長屋門というのは恐らくこの土地ぐらいではないかと思っています。

それと、先ほど榊田さんがご紹介されていた日本民藝館、それから益子参考館です。これは示し合わせたわけではなくて、たまたま資料として一致したわけなのですが、ライトほどの影響力はないかとは思いますが、柳宗悦と、それから濱田庄司、このコンビが大谷石を使って、つまり、大谷石が日本民藝館のシンボルになった第2の功績者ではないかということで資料を作りました。

ちょうど1930年ごろに、濱田庄司が益子で窯を築いて活動を始めた頃、柳宗悦も民藝運動の拠点を作ろうというので、いろいろ画策していた時期に、濱田庄司が柳宗悦に、日光街道にいい大谷石の長屋門があるぞということで、どうもそそのかしたと関係する本には書いてありましたので、そこも少しご紹介したいと思います。そういう意味で、この2人が大谷石文化の、今につながる功績者ではないかということが、この資料8の主な内容です。

■司会

柳宗悦にも評価されていたという、それは心強いところです。

■橋本

資料6の中で、これまでの話の中で、ライトがどうして大谷石に注目して、そもそも帝国ホテルをどうして選んだのかという経緯は出ています。資料6の、9ページの図16をご覧ください。図15というのは、今まさに明治村に移築された状態なのですが、実は大谷石ではなくて菩提石という、図16に使われている石を最初にライトは希望しています。それと大谷石を比べてみると、どこが似ていてどこが違うか、一番似ているのは有孔質の、穴が多い石であるということです。

なぜこの菩提石が採用されなかったかという、これは北陸の石で、非常にいい石ではあるのですが、遠すぎて埋蔵量が少ないと。要するに、日比谷まで持ってくるのに大変だったので、関東でそれを満たすものは何かといった時に、大谷石だったというのがあります。ですから、大谷石がどうしてライトに注目されたかというのは、一つはやはり石の質感、それから色合い、手触り、風合いということがすごく大事なかなと思います。

その中で、逆に大谷石そのものを見てみると、今度は、私の資料の中の11ページの図21と22、それから、その前の10ページの19あたりを見ていただきたいのですが、ライトがどのようにして大谷石と出会ったのかは、なかなか謎に包まれています。使ったのは確かなので、では、その石はどのような石なのか、もう少し実証的に私が研究しています。

帝国ホテルライト館、つまり明治村に行ったもの、それから山邑邸の、まさに水上先生から紹介された、発掘された部分、それから、他にも遠藤が設計した建物の大谷石を、岩石学的な分析をしています。それと、実際にそれを、石を供したホテル山というところでは、ここも行って、どのような地層で、どういう石なのかというのを調べたのが図20ということになります。

それを見て非常に面白いと思ったのは、現在われわれが知っている大谷石と、ライトや遠藤が使ったホテル山の大谷石は、また少し違います。大谷地区の中でも、深さや地点によって大谷石はものすごく変化に富むというところも、実証的に調べ出すと検証できます。従って、大谷石はものすごく人間的な石なのではないかと私は思います。バリエーションがあります。例えば稲田石のように採掘場ごとの差異や個体差が小さい石材ではなくて、ここの大谷石はこのような顔をしている、ここの大谷石はこういう性質というのがあって、それもやはりライトが非常に引かれたところなのではないかと思っています。

■司会

ホテル山は民地になっていますが、歴史的なものとして残していければな、と思っています。ホテル山の大谷石の際立った特徴はありますか？

■橋本

ホテル山というのは、ライト館に専門に石を供した東谷石材商店というところなのですが、大谷

地区の中で一番西北になって、実は西北の上部のほうでは、最も大谷石として上質な石が出ています。白くて大谷石のくせに硬いのです。それで、岩片も多いです。近年いろいろ調べていて、大谷石の中では5層に相当する、もしくは4層に相当するのではないかと思います。ですから、一つの推測ですが、この特性は、ライトが大谷石にレリーフを施したこととものすごく関係しているのではないかということもあります。この石であるからできたのではないかということもあります。

■水上

地層や石そのものについてはあまり詳しくはありません。橋本さんに以前頂いた本の論文などを読みながら勉強させていただいたようなところですよ。今、ヨドコウ迎賓館、旧山邑邸で使っているのは地層のどの辺りの石なのでしょう。時間の経過の中で装飾部分のエッジも緩くなってきました。帝国ホテルの時の装飾の状態がどうだったのかというのを、大谷石のこの時期に採られた、この層からだからこうなるというものが連動されているとすると、すごく面白い。そういうものが実証的に明らかになれば、大変興味深いと思います。

■司会

石張りの外装に使うというところと、それから暖炉のレリーフなど、装飾的に使うというか、様々な使い方があってと思います。榊田先生にアドバイスいただければと思います。

■榊田

まず、京都の帝国ホテルに使う石は、どの大谷石を使ったらいいですかという相談をしたいです。このような、大谷石とひとくくりでもいろいろな顔があるということだと思うので、本当に相談したいと思うぐらいです。皆さんも、このような大谷石を使えなどの意見があったら聞きたいと思うのですが、今まさに最終局面なので、今だったらぎりぎり間に合うという感じです。

なぜそう思うかというと、今、日比谷の帝国の入り口に、暖炉に見立てた大谷石のレリーフというのはあるのですが、随分白くて、ミソがなくて、大谷石らしくないというふうに見えるものがあります。打ち合わせに行くと大体あれに、最初に対峙してみるのも、もう少し私としてはミソが多い、大谷石らしいというのを使ってほしいなと思います。ですので、橋本さんの話を聞いて、どこの、どういうタイプの大谷石を活用していくかというのは、今後掘り下げてみたいと思いました。

■司会

いろいろな大谷石の、それぞれの産地の魅力が伝わればいいなと思っています。ライトが作った家具や椅子、調度など、そういうものも再現されるのですか。

■榊田

京都においては、先ほど申し上げた、建物自体が1936年に建った建物で、様式的に少しアー

ルデコの雰囲気が残されている建物です。ライトの帝国ホテルと、いわゆる多角形を活用したようなデザイン、そういった、そのまま模してやるというのはなかなかできないので、そこにある建築的なフックやナラティブ、そこに持っている文脈をどのように形態化できるかということです。分かっている人が見ると、何となくそういうところを引用しているのだなというのが分かるようにしていった、これは素材についても、形態的な扱いについても同じように考えているわけです。

【大谷石文化の魅力発信を考える】

■司会

本題の、「大谷石文化の魅力発信を考える」ということです。これから、いろいろな方面で、先生方のご指導もいただきながら進めていく、ソフトの面とハードの面の両方があると思います。県文化協会の中津会長は、まちづくりのプロでもあります、いかがですか。

■中津

その前に、先ほど建築で大谷石を使うというお話があったのですが、実は私、四十数年間住宅会社をやっていて、テレビの番組で「秘密のケンミンSHOW」という番組が来て、当社のモデルハウスを2棟使っていただいたのです。実は2度とも同じところをリクエストされ、その建物は、実はリビングの壁一面に大谷石を張って、厚さ3センチぐらいだったと思います。これを張るのが非常に難しく、アルミの網を作り、そこに固定するような仕掛けを作って、東日本大震災も無事クリアできたということで、非常に自信を持ったというのがあります。

その時、なぜ大谷石かというと、大谷石の素材と、見た美しさというのも当然あるのですが、実は、これは先生方に聞かないとよく分からないのですが、私はその時に、大谷石の中にはゼオライトという素材が内在していて、これは非常に空気をきれいにするという話を聞いています。今では、スレートなど、いろいろな建材が出てきていますけれども、当時としてはその大谷石を張ることによって、室内の生活環境を改善できたという実績というか、そういうものもあって造りました。それがテレビ局から見ても非常に新鮮で、テレビ番組では2回とも同じリクエストということは、それなりの反響があったという認識をしています。

それで、今のご質問の、今回、県のほうで新たな文化と知の拠点ということで、これは少し話をすると長くなってしまうのですが、私は3つの活用方法を考えています。特に、内容についてはまた後であれですが、まず文化と歴史を、栃木県の文化協会というところで仕事をさせていたっているのですが、どの場所でどういうものを発表するか、これは非常に難しいです。歴史的なものや無形のものを表現する、形になっている絵画や彫刻、陶芸は出せるのですが、そういうものを展示するための場所として使えるのではないかとというのが一つです。

それから、観光資源としての機能ということを考えてみたらいいのではないかと思います。観光資源という形では、これは私が勝手に、個人的に思っていることなのですが、旧帝国ホテルのメインロビーのセンターにあった柱、これは、私の記憶で申し訳ないのですが、一度宇都宮の美術

館に展示されたことがあるはずなのです。その時に大谷石の柱を見て、非常に画期的でもありましたし、芸術的でもありましたし、われわれは大谷石というものを構造物としてしか見ていなかったものですから、装飾体としての美しさというもので、非常に、ある意味でショックを受けたということもあります。そういうものを、モニュメントでもいいので、その中に作ることはできないのだからと思います。

もう一つ、あえて言うならば、宇都宮の駅を越えて新幹線の改札に行くと、真ん中に柱があるのです。その柱はみんなコマーシャルが張ってあります。ローマのレオナルド・ダ・ヴィンチ空港というのがあります。しかし、このレオナルド・ダ・ヴィンチ空港というのは本当の名前ではなくて、フィウミチーノ空港というのですよね。しかし、イタリア人の誇りであるダ・ヴィンチの絵画を空港内に張って、文化を強調しているわけです。

ですから、私は、宇都宮の駅に降りてきた時、この県は何の県であるかということを知っていただくためにも、大谷石の餃子の像もあるのですが、あまり目につかないので、正面の柱は、旧帝国ホテルの柱をまねるというのではないですが、参考にしてもらったらどうかということを考えています。

それから3番目は、研究教育のベースとしてこの拠点を活用しなければならないだろうと思います。今日は国内の建築専門家の先生方も来ているのですが、あとはライト財団や、デザイン等の専門学校の学生さんたちも含めて、栃木県の文化を支えるための大谷石の活用というものをいろいろな角度から議論して、それを単なるアーカイブ的な意味やデジタルアーカイブではなくて、形として見て触れることができるような形にして、文化と知の拠点到こういったものを置いて、次世代の建築家やデザイナーの育成のためにも、ぜひやっていただければという思いを持っています。

■司会

橋本先生はその際、市の美術館で大谷石の研究を担当されていました。

■橋本

今、中津先生からご紹介がありました柱は、2017年に宇都宮美術館で開催しました、石の街うつのみやというもののメイン提示で、私はその企画の担当でした。あの柱なのですが、あれはライト館の食堂の柱の一部なのです。2本ありまして、1本が明治村、もう1本はINAX、今はLIXILといいますけれども、のINAXライブミュージアムがそれぞれ持っています。

それで、そういう実物もすごく大事です。実物というどうしても、では絵画や彫刻、図面かというところではなくて、素材や記録、特にライトのように、実物が宇都宮の市内に建っていないのであれば、それに関する資料、柱のように、あれは一部再現をして自立するようにしたものなのですが、そういうものが、この知と文化という点には非常に必要になってくるだろうと思います。

ですので、拠点の中で一番大事なのはコレクションだと思います。どういうものを持って、展

示よりもコレクションがないと研究というのはできませんので、発信もできません。それから教育普及もできませんので、どれほどライトおよび栃木県と大谷石、あるいは栃木県と建築文化に関するようなものをコレクションして、それを活用していけるのかということが大事なかなと思います。

ライト以外に、例えばレーモンドは宇都宮に来ましたし、遠藤も栃木県に作品を残しています。他に、松が峰教会を設計したヒンデルや、あるいは日光真光教会を設計したガーディナーなど、非常に建築と石文化というものが盛んなのが栃木県ですので、そういったものがコレクションできるような拠点になるといいなと思っています。

■三橋

私からは、長屋の話をしたので、それにこじつけて、お話をさせていただきたいと思います。まず、この拠点が美術館と、図書館と、それから文書館という3つから構成されるという話ですけども、当然それぞれに、シンボリックな意味も含めて、何らかの形で大谷石をぜひ使っていただければいいと思うことの他に、敷地全体を統括するというと大げさですが、つまり、長屋門がある農家のお屋敷というものがヒントになるのかなと。その長屋門の先に母屋がある、つまり軸線が明確になっています。その軸の両側に大谷石の蔵やその他の付属舎が並ぶと、これが長屋門を持った農家の構え方なわけです。

それをそっくりそのままというわけにはいかないにしても、少なくともシンボリックな意味での、ウェルカムゲートといいますか、それは今の日本風の長屋門をそのままというわけにはいきませんが、鉄骨、それからガラスおよび大谷石で、シンボリックに構成されるウェルカムゲート、これが長屋門として敷地全体を統括していくといいますか、そういう位置付けになるようなデザインがあると、より一層栃木らしくなるのかなということが一つです。

それからもう一つ、デザインのプロセスに踏み込んで申し上げると、県の関係の方々もいらっしゃる前ですけども、やはり100年に一度の大プロジェクトですから、いきなり最初から、基本設計の段階から、全てPFIでと、経費を考えればそのほうが安上がりということが衆目の一致するところだと思います。

しかし、少なくとも基本設計の段階では、実績のない若い方々も含めたオープンなプロポーザルを実施して、つまり、県民の方々に広く中身を知っていただく意味でも、オープンな、しかも選考自体が公開されるというようなプロセスを、ぜひ取っていただければと思います。それが、その先からPFIになることがスキームとして可能かどうかは分かりませんが、その後にPFIとして進めてはどうかというのが、誠に無責任な私の考え方です。

■司会

私が「文化と知の拠点」構想検討委員会の委員長として、28名の有識者の方と議論してきた感想が資料9にあります。場所と規模と、美術館・図書館・文書館を一体的に運営していくと、そこまでは決まったのですが、では何を、栃木県らしい、世界や全国に誇れる文化として発信して

いくのかという議論はこれからです。

新しい美術館・図書館・文書館の学芸員たちが、一緒になって教育研究できるものは何かという議論をしていただく。新たなテーマを決めて、一緒に教育研究していくことが大切ではないかと思っています。また、東照宮の建築美術も、もう一つのテーマとしてあるのではないかと思います。オープンな議論をこれからしていきたいのです。

■水上

先ほど、ライトが帝国ホテルの時に大谷石を使った理由として、当時マヤの文化を非常に見ていたということもご紹介いただいたわけですが、例えば帝国ホテルのライト館を、彼は「日本への捧げものとして造っている」と言うわけですが、いわゆる神社のモチーフなど、具体的な日本の伝統的なモチーフなどを持ってくることはしていないわけです。

ですので、先ほど、駅を降りた時、真正面の柱を、と言っていたかもしれませんが、ライトをまねたようなイミテーション的なものをそこに持ってくるよりも、例えば、それこそ若い人が、ライトの考えるスピリットに共鳴して、素材感などを現代的に解釈して、自分なりに新しいものとして提案する方が面白いと思います。その根底には、素材に対するある種の深いまなざしみたいなものがあって、それがこの栃木という場所にはずっと眠っているのだ、それを明らかにしていくのだというほうが、今これからのことになるかなと思います。

ですから、美術館には現物、図書館には著書など、本物と呼べるものがあるべきだと思いますが、これからの美術館の全体像などは、長屋門の形式を取り入れるとしても、若い人がそれを改めて解釈して、未来に向かって新しいものとして打ち出していくということが、これからもどんどん展開していく可能性が、大事なのかなと思います。

■司会

大谷石大使として榊田先生の抱負があれば。

■榊田

今の水上先生の話に付け加えるとすると、やはり何を見に行きたいかということ、経験というか、体験というか、そういったものを感じたいということだと思います。ですので、私もずっと素材に向き合って実務をやっているのですが、最後に竣工すると、写真を撮って、カッコいいでしょうという感じで見せてしまうのですが、実際に同じ白い空間をつくるにしても、例えば、先ほどのゼオライトの話もありましたが、ペンキで白く塗っている空間と、漆喰で白く塗っている空間は、写真に撮ると白なのですが、実際にそこに身を置いて、ずっとそこにいると、何か五感に訴えかけてくるものが圧倒的に違うわけです。

やはり調湿されていますし、吸音されますし、写真には全然写ってこないような世界というのがあって、そういう素材が持っている本質的なものをどう体験できるのかというのは、すごく大事なポイントだなと思っています。ですので、単純なイミテーションという感覚ではな

くて、素材を見ていった時に、そこにどういう本質的な部分があるかというのを、ぜひ体験の中に、空間の中に取り込んでもらえるといいなと思います。

■司会

先ほどの帝国ホテルのダイニングの素敵な写真を拝見して、これからどういうふうにそういった空間を再現していくのかというのも、栃木県「文化と知の拠点」の課題かと思います。ニューヨーク・グッゲンハイム美術館のレストラン名がライトになっていますが、そういうソフト面での発信というのも大事かと思います。

■中津

私は、大谷石というのは子どもの頃からずっと見てきましたけれども、壇上にいる先生、須賀先生も含めて、実は栃木県生まれは私だけなのです。ということは、栃木県外で生まれた方たちのほうが、大谷石のよさや大谷石の持つ文化の力というものを、よく理解しているのだなと感じてしまうのです。それはなぜかという、私が子どもの時は、大谷石の使い方というのは本当に素材そのものだけなのです。少し軽いということと、加工しやすいということで、塀を作ったり、蔵は立派な蔵としてあるのですが、そういうものでしか大谷石という概念は、私は持っていなかったのです。

大学の時に、私は建築科に進みましたので、その中でフランク・ロイド・ライトという者が大谷石を使ったと、初めてその時に私は知ったのです。それと同じように、県民の方の中にも、そういう方はたくさんいるのではないかという気がします。ですから、ある意味のアンコンシャスバイアスみたいなものがあって、みんなそういう使い方でしたか大谷石を見られなかったというか、見てこなかったという反省というのでしょうか。

これを、目を開かせていただいた方が、ひょっとしたらライトが設計した帝国ホテルだったのかなという気がしてならないのです。ぜひ、これをどういう形であれ、どういう場所であれ、もう少し県民に理解をいただいて、多様性というものを考えたらどうかなと、今は考えます。

■三橋

今ご発言をいただきました5名の方の全てを引き受けるというわけにはいきませんが、やはり私のほうに響いたのが、点を線にして面に広げていくという、そのことが引っ掛かったというか、心に響きました。というのは、栃木県というのは、再三の話で恐縮ですが、長屋門一つ取っても、大変豊かなところだと常々感じています。いろいろないいものがあって、ただ、それを外に向けて発信していくのがそれほど上手ではないのかなと感じています。

よくいわれることで、攻めの群馬、守りの栃木と聞かれる方も多いと思うのですが、何事をするにしても、群馬県は速いな、スピード感があるなと思います。それに対して栃木県の場合は、他がだいぶ動き出してから、ではうちも続いていくかというような、県の方、市の方には大変申し訳ないのですが、そういうことを常々感じています。今回の文化と知の拠点ということが、県民の気質を変えていく一つの大きなきっかけになればいいなと思います。

ですから、その時、橋本さんがおっしゃったように、コレクションですね。県内を広く、くまなく発掘して、いろいろなストーリーを組み立てて、ぜひ美術館や図書館などに生かしていただきたいと思います。これが面として発信できると、非常に強力な文化の発信拠点になるのかなと感じました。ありがとうございました。

■橋本

今日は皆さまのお話、会場からの皆さまのお話も聞いて、非常に感銘を受けたところが、やはり大谷石をみんな考えているのだと、大谷石に対して意識があるのだなというところなのです。今、三橋先生もおっしゃったように、県民性や風土というのがあります。でも、それもよさだと思わないといけなくて、大谷石を生んだ風土、それから、もしかすると、その発信の仕方が、今まであまり上手ではなかった風土、全部同じなのです。

ですから、栃木県ならば栃木県らしいものを、栃木県らしいやり方で、一つここで重要なのは、コレクションと同じように時間です。今年、来年というペースではなくて、100年たった時に、いい施設をおじいちゃんの世代が造ってくれたなというところに持っていかなければいけないと思います。物を集め、知識を集め、それを活用していくのは、建物であれ、ソフトであれ、すごく時間がかかります。評価も時間がかかりますので、腰を据えて皆さんと一緒に、大谷石を100年後の人に伝えられるようにできたらいいなと思います。ライトもきっとそれを望んでいると思います。

(参加者のご意見・ご質問については省略)

【おわりに】

■司会

それでは、榊田先生と水上先生には、栃木県へのエールを送っていただければと思います。

■榊田

先ほど三橋先生から発信という話がありましたけれども、私も大谷石大使として、まだあまり仕事できていないなと思っていますので、発信の一つを担っている立場として、まずは西の帝国ホテルで大谷石をやってみるというところから、どういう反応があるのかというのを皆さんと楽しんで、その後にきちんと役割を果たしていきたいと思っています。

あとは、先ほどの話ともつながってくるのですが、やはり反芻するだけというか、振り返るだけではなくて、イノベーションというか、新しさも同時に必要になってくるので、ライトを愛でるというのもいいのですが、脱ライトという視点も必要なのかなと思うので、その両軸で、新しさと古さを共存させるように、私もひとつ、一人の実務者としてチャレンジしていきたいと考えています。

■水上

先ほどの発表の中でも申し上げたのですが、ライトは「一から多が生まれる」ということを言うのです。一に対して突き詰めていく研究や文化的な継承などと同時に、多が生まれるバラエティーの世界というか、いろいろなものがそこから生まれてくることが大切であると思います。その生まれてくるものと一の間にはいろいろな対話があり、空間が生まれるとライトは言っています。

例えば石にしても、物としての石だけではなくて、例えばそれに光が当たる、他のものと組み合わせるなど、そういうことで起こってくる変化なり、化学反応なり、そういうものの可能性もあると思うのです。ですので、本当に大谷石からどれだけバラエティーが生まれるかというのを、ぜひいろいろな形で検証していただいて、提案していただいて、新たな扉を開いていただければと思います。それだけのエネルギーが大谷には、一のほうにもありますし、多のほうにもあると思っています。これからの展開を楽しみにしています。

■司会

先生方のエールを受けて、地元としてのお考えは。

■橋本

先生方、ありがとうございます。大谷石は県の皆さまがもっと活用してくださることを待っています。どれぐらい待っていたかということ、大体1,500万年ぐらい待っていましたので、そのように受け止めて、物質としても、精神的なものとしても、大谷石を未来につなげていかなければいけないと思っています。

■司会

宇都宮市美術館も一緒に連携してやっていきたいですね。

■三橋

大谷石の産出量からすると、昭和40年代をピークとして、数十分の1まで減ってはいますけれども、他の石の産地から見れば、まだまだ産出量としては多く、そういう意味で可能性を秘めたところですね。やはり、県民一人一人がというと大げさかもしれませんが、少なくとも今日おいでの方々には、私も含めてなのですが、ぜひ大谷石をどう活用したらいいだろうといったことを新たに頭の片隅に入れていただいて、いろいろなアイデアを出して議論していただければいいのかなと思います。それが今日おいでいただいたお二人に対する感謝の気持ちにつながるのかなと思います。

■中津

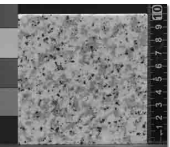
今日はありがとうございます。私も今日ここに出させていただくということで、大谷石を改めて勉強し直してよかったと思っていますし、また、先生方のご意見も非常に参考になりました。

やはり栃木県民、私は栃木県の文化協会長をやっているのですが、百人一首は宇都宮から出ているのです。これは意外と知らないですよ。小倉百人一首というのは、実際は宇都宮頼綱が原点であるわけです。

それから、栃木県宇都宮は日本三大歌壇の一つです。京都歌壇、鎌倉歌壇、宇都宮、これもやはり和歌の原点です。こういうことも意外と知らないのと同じように、大谷石についても専門的なことを知りません。こういうことを反省して、これからはしっかり、この知の拠点においては、こういう未来の人たちを育てる場所でもあると思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

■司会

皆さまの熱心なご聴講と、先生方の素晴らしいお話により、有意義なシンポジウムになったことに改めて感謝申し上げます。登壇者の皆さまにもう一度拍手をお願いします。ありがとうございました。

タイトのり」に収めて向き合う	配布資料（橋本優子）
	図 9. 稲田石 想石 奥山採石場（茨城県笠間市稲田堂 家、露天掘）。2023 年 11 月に稲田 尚蔵（撮影：宇都宮大学工学部石川研室）
	図 10. 国会議事堂。稲田石張の正面外観 （東京都千代田区永田町）。2024 年 3 月 撮影：橋本優子
	図 11. 国議記念噴水園。万成石張の正面外 観（東京都千代田区永田町）。2024 年 5 月 撮影：橋本優子

「たけのこ」の石に改めて向き合う

配布資料(基本編下)

図 12.(左) 旧藤原家住宅 伝統的な木造大谷石積の石蔵(熊本県宇都宮市今尾)。2015 年 2 月撮影。熊本県庁

★宇都宮では、江戸時代には数ある大谷石蔵の伝統工法を築石蔵と称する。旧藤原家は、1851 年(嘉永 4)に建造の石蔵(右)と大塚家(中)あり、1895 年(明治 26)の築石蔵(左)が現れ、いずれも築石蔵である。

図 13.(右) 築風石蔵 日本近代が先人だ大谷石組継造の石蔵(熊本県宇都宮市大谷町)。昭和戦前
国庫提供。大谷石村協同組合

★宇都宮では、明治中期(1860 年)代、1900 年頃に身置れだ大谷石組継造の近代工法を積石蔵と称する。築石蔵(左)は、明治中期(築風石蔵)には、1908 年(明治 41)に竣工の商賣(右)、1912 年(明治 45)に上納の築風石蔵が現れ、いずれも積石蔵である。

図 14. 寺田の家新穀蔵(イナ御) 正面中央に丸口東部平代田区(内市街)。1925 年
夏屋(地主直蔵)
高梨大太郎、寺田テラ、1925.

・8・

「石」に改めて向き合う

配布資料（熊本展）

図 15. 博物館 明治村 帝國ホテル中央玄関
(愛知鳳凰大山市内山)、2023 年 12 月
撮影・熊本展子

図 16. 香焼石(石目材)
香焼石の山・石屋敷(石川縣小松市香焼町香谷山)、佐賀県平野町 2016 年 7 月に
香焼村で調査(矢付)
所蔵・撮影・宇都宮大学工学部石目研究室

図 17. 博物館 明治村 帝國ホテル中央玄関
のクレープアップ(愛知鳳凰大山市内山)、
2023 年 12 月

撮影・熊本展子
＊博物館部分修繕・修復に際しては、竣工当時の石目材、新たに加えた昭和戦後の石材のほか、プレキャスト・コンクリート、GRC（ガラス繊維強化セメント）などの新素材を採用し、ざれと色合いで質感が異なる。

-9-

クワの石の上に改めて向き合う

配布資料(機本様式)

図 18 串田池テラ新館(ライオン館)竣工当時の落成状(2024 年 1 月に博物館 明治村(国分寺市))

撮影 坂本 孝子

※本館落成は、図 19 で示す試料地 A に一点に加工し、全都立大学工学部土木研究室で研磨、画像は加工前の表面で、経年変化が見て取れる。

図 19 大宮市(国石村・中井)

① 東京都石村町新田(国分寺市)に都立東京市都立宮田下町(内)、1929-1932 年に築造(2024 年 1 月に博物館 明治村より譲渡された落成時の一部)

② 国分寺・国分寺・都立大学工学部土木研究室で研磨、画像は加工前の表面で、経年変化が見て取れる。

※本館落成は、図 18 で示す落成材を加工したものの、画像は新築後で、内部のみみずしさと、ホテル石の石材に固有の特徴が見て取れる。

図 20 目・東京都石村町新田(ホテル石・都立東京市都立宮田下町(内))北側の写真、2024 年 4 月

撮影 坂本 孝子

※1929 年に開業され、2000 年代まで旅館が継続してホテル石山で、最初開業は天災地動により旧旅館・北内閣(地下)が同時に倒壊した。この山の石村の層層には、白雲を覆ひた色合い、霞や雲層となつて、雲の多い日が訪れる。

-10-

クイの「石」に改めて向き合う

配布資料(配布版)

図 21 大谷石(石目材・中目)

① 大谷町石材店長岡田(ホタル石)・熊本県宇都宮市市田下町(大谷) 1925-1927 年に採掘(2023 年 11 月に自由学識明目日誌で譲渡)

所蔵・撮影：宇都宮大学工芸部石川研究室

※史料は、1927 年に完成した自由学識調査(設計一彦蔵 納の構成)に「基盤石」を記述している。調査は新築面、内側の壁のみをずしと、ホタル石の石材に固有な特徴が見られるが、ラオ小娘の石目材(図 19)とは性質が異なる。

図 22 大谷石(石目材・中目)

① 大谷町石材店長岡田(ホタル石) 1930 年代前半-1950 年代に採掘(2024 年 4 月に現地で採掘)

所蔵・撮影：宇都宮大学工芸部石川研究室

※史料は、1929 年にラオ小娘が竣工したため、ホタル石が使用した大谷町石材店長岡田が手帳等に記録した発掘履歴(図 20)の署名を加工したため。画像は新築面と、モザイクに嵌めらる石目材が特徴的である。図 19 に記したラオ小娘の石目材(図 19)。自由学識調査の「石目材」と「貴麗な色と柄が映える」。

-11-

「大谷石文化」の魅力発信を考える。フランク・ロイド・ライトがとらぎに残したもの。
三橋 伸夫 (宇都宮大学 名誉教授・宇都宮市政研究センター上席アドバイザー)

農村にみる大谷石文化―長屋門に着目して―

報告の骨子

1. 耐火性に優れた大谷石はマチ、ムラを問わず経済力のある家の屋敷内における蔵の建築材として利用された
※それ以前は栃木や川越にみられる土壁の蔵(見世蔵)だった
2. 農村ではそれに加えて長屋門において、その多くが第二次大戦後に板張りの壁(腰壁)から耐震性のある大谷石張りの壁に替わった
※第二次大戦後に長屋門をもつ農家の多くが経済力向上の下に長屋門をより立派な外観をもつものに改修(一部は建て替え)した
3. 長屋門は大谷石を伴って、民藝運動の高揚を通じて東京に進出し(第二次大戦前)、民藝のひとつの(視覚的)シンボルとなった
4. まとめ
長屋門に着目すると、農村における大谷石文化は第二次大戦後に大きく花開いたのではないか

1

(001)

(002)



宇都宮の長屋門(大谷石の腰壁)



いずれも筆者撮影

2

(001)

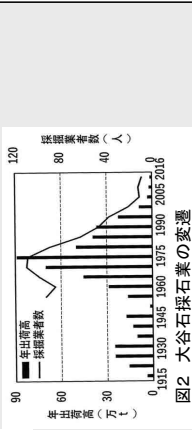
(002)

農村にみる大谷石文化―長屋門に着目して―

表1 長屋門の建築意匠

屋根形状	腰壁材	正面腰仕上げ材
人形屋根	113 瓦(桧瓦)	112 漆喰塗
切り妻	23 金屋	89 大谷石張
寄棟	20 その他	5 板張
		その他
正面腰仕上げ材	扉の有無	潜り戸の有無
大谷石張	96 あり	54 あり
板張	39 なし	102 漆のみ
その他	13	85
腰仕上げ材	8	なし
		41

・腰壁は第二次大戦後に板張りから大谷石張りに替わった
・少数であるが、かつては腰壁が大谷石張りもあつた



宇都宮市石井町の長屋門
(20数年前に建替え、大谷石張り)

(003)

農村にみる大谷石文化―長屋門に着目して―



益子参考館・正門一号館
(益子町)

日本民藝館
(筆者撮影) <https://mingekan.or.jp/floormap/honkan/>

日本民藝館(昭和11年創建)は柳宗悦によって東京駒場に建てられたが、それに先立って親交のあった濱田庄司に自宅のための長屋門(日光街道沿いの大谷石の石屋根のもの)の購入と移築の手配を要請した(濱田がそのかした)



日本民藝館西館(旧柳宗悦邸)
<https://www.google.com/search?q=>

(004)

資料9

「文化と知」の創造拠点整備構想

概要版

令和7(2025)年1月
栃木県

この資料は、栃木県文化振興局が作成したもので、栃木県文化振興局のウェブサイト上で公開されています。

(001)

栃木県
「文化と知」の
創造拠点整備構想

概要版

令和7(2025)年1月
栃木県

この資料は、栃木県文化振興局が作成したもので、栃木県文化振興局のウェブサイト上で公開されています。

(002)

I はじめに

栃木県立美術館、図書館及び文庫館は、県民のたのびに対する理解を深めるとともに、本県の貴重な財産である歴史や文化等の保存・継承、優れた美術作品等の発表・鑑賞、学習機会の提供等、県民の学びや創造を支える重要な役割を担っています。

一方で、特に美術館及び図書館は、開館から50年以上が経過し、建物や設備の老朽化が進んでいます。また、文庫館も加えた3施設では、バリアフリーへの対応や収蔵能力の確保、デジタル化など、機能面での課題も生じています。

そこで、県では、美術館、図書館及び文庫館について、本県の文化振興の中核として、再整備を行うこととし、とちぎ「文化と知」の創造拠点整備構想を策定し、県民のたのびを支える人づくりを促し、地域活性化にもつなげる拠点となるよう、新しい時代の流れや考えを踏まえながら、整備構想を策定しました。

II 現状と課題

各施設の現状と課題

	美術館	図書館	文庫館
所在地	宇都宮市 坂戸1丁目2番1号	宇都宮市 坂戸1丁目23番	宇都宮市 坂戸1丁目20番(旧市庁舎内)
竣工年	昭和47(1972)年	昭和46(1971)年	昭和61(1986)年
総床面積	6,195㎡ (館内分館を含む7,907㎡)	6,322㎡ (館内分館を含む6,458㎡)	1,953㎡ ※文庫館部分のみ
敷地面積	12,627㎡	4,786㎡	5,745㎡ ※旧市庁舎敷地
建物	老朽化	バリアフリーへの対応の不足	—
ハード面	—	—	—
設備	—	—	—
ソフト面	—	—	—

この資料は、栃木県文化振興局が作成したもので、栃木県文化振興局のウェブサイト上で公開されています。

(003)

III 基本理念等

整備に係る基本的な考え方

3施設の連携や施設間の相互利用、利用者同士の交流促進等による新たな活動や魅力の創出に加え、サービスや施設・設備等の共通化・共有化による効率性の向上など、様々な相乗効果が期待されることから、美術館、図書館及び文庫館を、「文化と知」の創造拠点として一体的に整備します。

基本理念

- 栃木県の文化振興の中核として、将来にわたって県民に愛され、誰もが誇りに思える、とちぎならではの拠点となる
- あらゆる人が思い思いに利用できる、様々な主体が拠点を通じて出会い、交流すること、とちぎの新たな「文化」や「知」を創造する場となる

コンセプト

とちぎの「文化と知」を闊く・つなぐ・育む拠点

区分	方向性
闊く	● 誰もが気軽に利用でき、県民・来賓者の思いの場となるスペースとする ● 幅広い活動を通じ、栃木県ならではの「文化と知」に触れることができる ● 施設間の連携促進、施設間の相互利用を促進する
つなぐ	● 3施設の連携強化や相互利用の促進を図られる ● 多様な主体が交流できる施設とする ● オンライン上での活動等、デジタルを活用し、展開する ● 「文化と知」を次世代に継承する
育む	● 新たな「文化と知」を生み、育んでいく ● 県民を通して「文化と知」の思いが伝わる ● 教育機関との連携や生涯学習の支援などを通して、あらゆる世代の学びを支える ● 施設の活用等を県民各々に波及させ、地域の文化・芸術振興を促進する

この資料は、栃木県文化振興局が作成したもので、栃木県文化振興局のウェブサイト上で公開されています。

(004)

IV 機能と役割

基本理念とコンセプトを踏まえ、3施設固有の機能を生かしつつ、連携による相乗効果を実現することで、「文化と知」の創造拠点としての機能と役割を果たすことを目指していきます。

また、「デジタル」、「共生社会」、「環境配慮」、「地域連携」といった新たな考え方に基づく機能と役割が定められています。

区分	方向性
闊く	● ユニバーサルデザイン等に配慮した誰でも使いやすい施設・設備等の整備 ● 施設内での多様な活動の展開 ● 多様な主体が交流できる施設とする
つなぐ	● 資料のデジタル化・公開等の推進 ● 相互利用・相互交流の促進 ● 施設間の連携強化や相互利用の促進を図られる施設・設備等の整備
育む	● 県民やワークショップ等の教育普及活動の充実 ● 学校等、教育機関と連携した各種活動の充実 ● 県民の学びや創造を支える場としての役割

V 施設整備計画

整備地の概要

県内各地からの様々な交通手段によるアクセス性に優れており、中心市街地に近接した約3.4haのまとまった敷有地である栃木県体育館跡地(宇都宮市戸町)を整備地とします。

この資料は、栃木県文化振興局が作成したもので、栃木県文化振興局のウェブサイト上で公開されています。

(005)

敷地計画

基本理念とコンセプトを踏まえるとともに、周辺環境や敷地の諸利に配慮した敷地利用を行います。

区分	方向性
闊く	● 誰もが気軽に利用でき、県民・来賓者の思いの場となるスペースとする ● 幅広い活動を通じ、栃木県ならではの「文化と知」に触れることができる ● 施設間の連携促進、施設間の相互利用を促進する
つなぐ	● 3施設の連携強化や相互利用の促進を図られる ● 多様な主体が交流できる施設とする ● オンライン上での活動等、デジタルを活用し、展開する ● 「文化と知」を次世代に継承する
育む	● 新たな「文化と知」を生み、育んでいく ● 県民を通して「文化と知」の思いが伝わる ● 教育機関との連携や生涯学習の支援などを通して、あらゆる世代の学びを支える ● 施設の活用等を県民各々に波及させ、地域の文化・芸術振興を促進する

施設計画

基本理念とコンセプトを踏まえるとともに、県産の材料や伝統工芸品等の活用により「とちぎらしさ」が感じられる施設整備を行います。

また、3施設の固有スペースを確保しつつ、拠点としての共有スペースを設ける等、施設を一体的に整備することで相互利用・相互交流を促進し、拠点としての魅力や機能を充実させるとともに、設備やスペースの合理化を図ります。

区分	方向性
闊く	● 誰もが気軽に利用でき、県民・来賓者の思いの場となるスペースとする ● 幅広い活動を通じ、栃木県ならではの「文化と知」に触れることができる ● 施設間の連携促進、施設間の相互利用を促進する
つなぐ	● 3施設の連携強化や相互利用の促進を図られる ● 多様な主体が交流できる施設とする ● オンライン上での活動等、デジタルを活用し、展開する ● 「文化と知」を次世代に継承する
育む	● 県民、若手等々々の創造活動を支える施設とする ● 施設の活用等を県民各々に波及させ、地域の文化・芸術振興を促進する

この資料は、栃木県文化振興局が作成したもので、栃木県文化振興局のウェブサイト上で公開されています。

(006)

読書の考え方

※市では、各種類別の読書ではなく、読品として共有することを想定

美術館の主な読室（約12,500～15,000㎡）

機能	主な読室
収蔵・保存	収蔵庫、展示スペース、ブリザベーションルーム、一時保管庫、くん室、展示室 など
展示・公開	常設展示室、企画展示室、一時保管庫、ギャラリー、美術図書室（アートライブラリー） など
調査・研究	研究室、書庫 など
教育・普及	ワークショップ室、公開制作室、講座、多目的室 など
アメニティ	ロビー、エントランスホール、ショップ、レストラン・カフェ、キッズルーム など
その他	観覧室、会議室、設備機室 など

図書館の主な読室（約15,000～18,000㎡）

機能	主な読室
収蔵・保存	郷土書庫、資料保管室、保存処理室、展示室 など
展示・公開	開架エリア 公開書庫（後付）と蔵書ライブラリー（バリアフリーコーナー、子ども読書支援コーナー、ディスプレイ、開架図書室（アートライブラリー） など
調査・研究	開架エリア 開架室、サイレントルーム、対話開架室 など
教育・普及	業務エリア レファレンスカウンター など
調査・研究	調査、学習室、多目的室 など
連携・支援	読書推進室、展示スペース など
アメニティ	ロビー、エントランスホール、ショップ、レストラン・カフェ、キッズルーム など
その他	観覧室、会議室、設備機室 など

文庫館の主な読室（約2,500～3,000㎡）

機能	主な読室
収蔵・保存	収蔵庫、参考資料室、作業室、くん室、展示室、展示スペース など
展示・公開	展示室、開架室、展示準備室、ギャラリー など
調査・研究	研究室、調査整理室 など
教育・普及	調査、学習室、多目的室 など
アメニティ	ロビー、エントランスホール、ショップ、レストラン・カフェ、キッズルーム など
その他	観覧室、会議室、設備機室 など

（007）

Ⅵ 管理・運営計画

基本理念とコンセプトを踏まえるとともに、各施設の関連法令等を選択した管理・運営を行います。

区分

方向性

開く

● 独立施設として、「文化と知」の集積を促すだけでなく、管理・運営における公共性や透明性を確保する
● デジタルを活用し、利便性を向上させることで、誰でも利用できる・利用しやすくなる施設づくりを進める
● ボランティア等の活動を通じ、市民が施設の運営に参加できる仕組みを作る

つなぐ

● 市内の文化芸術施設との連携・協力関係を強化することで、市内の「文化と知」を結びネットワークの中心としての役割を担う
● 市内の教育機関や各種産業をはじめとした多様な主体との連携を推進することで、市民のニーズに対する理解を深め、ふるさとへの愛着を醸成するきっかけづくりに寄与する

育む

● 市民の自主性と創造性を刺激する魅力的な取組を実施することで、多様な表現活動を支援するとともに、芸術の機会を提供する
● 「文化と知」の創造拠点として、「文化と知」に係る活動が育まれる環境を整え、将来にわたって活躍できる人材の育成に寄与する

（008）

利用促進

県立施設として、年齢や居住地、障害の有無等にかかわらず、全ての市民が利用しやすい仕組みを整えます。
また、利用者数の拡大を図ることで、利用者数の増加を目指すとともに、県外からの観光客やインバウンドの利用も促進していきます。

連携利用、広域利用の促進

● デジタルアーカイブ、デジタルミュージアム、電子書籍等の活用
● 市町立施設等と連携した周遊促進策の実施 等

若年層の利用促進

● 教育機関との連携、学校団体の受入れ
● 子ども・子育て世代が利用しやすい環境の整備
● 若者が興味・関心を抱く企画等の実施 等

県外からの利用促進

● ともがなならではの魅力的な企画等の実施
● 展示解説等での多言語対応 等

Ⅶ 事業計画

問題に向け、事業推進体制を整備するとともに、施設整備計画や管理・運営計画、事業手法について、詳細に検討していきます。
また、より多くの市民に興味・関心を持ってもらうため、検討状況等について、広く情報発信していきます。
整備全体のスケジュールは、現時点では以下のとおり想定しています。

計画・設計

工事

開館準備

（3～5年）

（3～4年）

（半年～1年）

編集発行／橋本県

〒130-8501 橋本県庁舎内（県庁1-20 総合政策課）
TEL 03-6323-2200 FAX 03-6323-2210
https://www.pref.tochigi.lg.jp/a01/mia_saiho/mia_portal.html

（009）

95

「宇都宮都市圏」の社会的・経済的な特徴の実態に関する基礎的研究

Basic Study on the Social and Economic Characteristics
in the Utsunomiya Metropolitan Area

三 浦 魁 斗（宇都宮共和大学 専任講師）

本稿では、複数の都市圏設定基準から「都市雇用圏」に着目し、「中核市を中心に広がる都市圏」および「宇都宮都市圏」における社会的・経済的な特徴を捉え、都市圏研究に関する基礎的な知見を得ることを目的とする。2010年・2015年・2020年における人口・地価データの分析を通じて、「中核都市圏」における中心-郊外市町村の人口動態・地価推移が確認された。加えて、「宇都宮都市圏」による詳細な実態把握では、中心都市である宇都宮市の人口集中・地価上昇がみられ、それらに製造業への特化が寄与している可能性が示唆された。本分析を基に、「中核都市圏」における社会的・経済的な中心-郊外構造の更なる解明が求められる。

キーワード：都市雇用圏，中核市，宇都宮市，地価，GIS

はじめに

2024年度より本学シティライフ学部の専任講師として着任した筆者は、本学学長がセンター長を務める「宇都宮市創造都市研究センター」の事業である「地域活性化研究プロジェクト事業」の副責任者として、地域活性化を具体化する研究および事業の企画・運営に取り組んでいる¹⁾。同センターは、学校法人船田教育会（作新学院大学）顧問の春日正男を責任者とし、宇都宮市内の私立4大学（宇都宮共和大学・作新学院大学・帝京大学宇都宮キャンパス・文星芸術大学）間の連携ならびに自治体・産業界等との協働の促進を目的としたプラットフォームとして、複数大学の特色や資源を結集し、「創造都市化による『宇都宮都市圏』の活性化」を推進している。「宇都宮都市圏の活性化」に向けた具体的なアイデアを提案し、それを具現化すべく活動するため、「地域活性化研究プロジェクト事業」では各大学から選抜された学生を研究員とする「魅力都市研究会」の会議を定期的で開催している。

「魅力都市研究会」の一員として精力的に活動していく過程で、筆者は「宇都宮都市圏」、さら

には「都市圏」の設定基準，地区類型，及びその人口動態に興味を持った。そこで，本稿では，「都市圏」の設定基準に関する議論を簡潔にまとめ，その中でも「都市雇用圏」の概念に着目する。さらに，「中核市を中心都市として広がる都市雇用圏」および「宇都宮都市圏」の社会的・経済的な特徴を捉え，都市圏研究に関する基礎的な知見を得ることを目的としている。

1 都市圏の設定基準に関する議論

1.1 都市圏設定の背景と経緯

金本・徳岡（2002）によれば，都市圏とは「日常的な活動の空間的な広がりに着目して定義される結節地域」であり，一般的には「中心都市」と，それと社会的・経済的に密接な関係を有する周辺地域，すなわち「郊外」が統合されて形成されるものである。都市化の進展により都市空間は外延的に拡大し，都市における日常的な社会的・経済的な活動が行政界を越えて営まれるようになってきた。このような状況下においては，都市化や都市問題の実態を調査・研究するにあたって，都市空間を「行政上の市域」に限定するだけでは不十分であり，実質的な都市空間を把握するための概念として「都市圏」が必要とされている。日本における都市圏についての絶対的な定義は存在せず，次節では，一般的に使用されることの多い定義として，「総務省による都市圏」「国土交通省による都市圏」「金本・徳岡（2002）による都市圏」の3つを整理する。

1.2 総務省による都市圏の定義

総務省統計局は国勢調査における統計上の地域区分として「大都市圏・都市圏」を定義している。「大都市圏」の「中心市」は東京都区部および政令指定都市であり，「都市圏」の「中心市」は大都市圏に含まれない人口50万以上の市である。「大都市圏・都市圏」の「中心市」への15歳以上通勤・通学者数の割合が当該市町村の常住人口の1.5%以上であり，かつ「中心市」と接続している市町村は「周辺市町村」とみなされる。2020年の国勢調査では「大都市圏」として11地域，「都市圏」として3地域が指定されている。

1.3 国土交通省による都市圏の定義

国土交通省は約10年おきに実施するパーソントリップ調査の地域区分として「三大都市圏・地方中枢都市圏・地方中核都市圏・地方中心都市圏」を定義している。人口10万以上で昼夜間人口比率が1以上の都市を「核都市」として，「核都市」への通勤通学者が全通勤通学者の5%以上または500人以上である市町村を「周辺市町村」として，それらによる圏域を都市圏としている。2022年3月時点では「三大都市圏」のほか，「地方中枢都市圏」4地域，「地方中核都市圏」45地域，「地方中心都市圏」13地域が指定されている。

1.4 金本・徳岡（2002）による都市圏の定義

都市経済学者の金本良嗣と地域経済学者の徳岡一幸により，1949年の米国での定義を基に，2002年に「都市雇用圏」という概念が提唱された。「DIDの人口が1万以上の市町村で他都市の郊外でない」ものか，「郊外の条件を満たすが，従業員常住人口比が1以上，かつDID人口が中心

市町村の3分の1以上か、あるいは10万以上である」もののいずれかを「中心都市」としている。また、「中心都市への通勤率が10%以上」のものを「1次郊外」とし、「郊外市町村への通勤率が10%を超え、かつ、通勤率がそれ以上の他の市町村が存在しない」場合には、その市町村を2次以下の「郊外市町村」としている。「中心都市」のDID人口が5万以上の都市圏を「大都市雇用圏」、5万未満の都市圏を「小都市雇用圏」として分類しており、2015年の国勢調査結果に基づく統計データでは、「大都市雇用圏」105地域、「小都市雇用圏」122地域が指定されている。金本・徳岡（2002）による都市雇用圏の定義は、都市経済学における標準的な枠組みとして広く普及しているため、本稿ではこの「都市雇用圏」を分析対象として扱う。

2 人口規模に基づく都市雇用圏の分類

2.1 データセットの作成

本章では、中心都市の人口規模によって都市雇用圏を分類し、それぞれの社会的・経済的なデータの実態を捉えることで、人口規模による都市雇用圏の比較を行う。まず、都市雇用圏の社会的・経済的な特徴を把握するためにデータセットを作成した。データセットの作成にあたって、国勢調査の結果に基づき金本・徳岡（2002）によって作成された2010年基準・2015年基準の都市雇用圏における統計データ²⁾を使用している。2020年基準の都市雇用圏についてはデータが整備されていないため、2020年度の国勢調査の結果に基づき、金本・徳岡（2002）の設定基準により都市雇用圏データを整備した³⁾。経済的特徴を捉えるにあたっては、地価公示法に基づき調査・公示される2010年・2015年・2020年の各年1月1日時点の全国の公示価格のデータを用いている。なお、都市雇用圏の図示については、QGIS Desktop 3.40.2を使用した。都市雇用圏の分類については、金本・徳岡（2002）による「大都市雇用圏・小都市雇用圏」に加えて、より詳細に都市雇用圏の実態を把握するため、中心都市が「政令指定都市・中核市・その他」で「大都市雇用圏」をさらに分類した。

2.2 データセットの概要

表1に、中心都市の人口規模により分類された都市雇用圏の概要を示した。2020年時点では、「政令指定都市を中心都市として広がる都市雇用圏（以下、政令指定都市圏）」は15、「中核都市を中心都市として広がる都市雇用圏（以下、中核都市圏）」は39、「政令指定都市や中核市ではないDID人口が5万以上の都市を中心都市として広がる都市雇用圏（以下、地方都市圏）」は49、「小都市雇用圏」は107存在している。また、図1に、中心都市の人口規模により分類された都市雇用圏の分布を3時期別に示した。表1および図1からは、2010年には232地域存在した都市雇用圏の数が、2015年に227地域、2020年には210地域と、徐々に減少傾向にあることがうかがえる。人口規模による分類に着目すると、「政令指定都市圏」では都市圏数自体に変化はないが、中心都市の数が微増傾向にあり、中心都市の多核化がみられた。「中核都市圏」においても都市圏数自体に変化はないが、郊外市町村の数が微増傾向にあり、都市圏の外延化がみられた。「地

方都市圏」および「小都市雇用圏」に関しては、都市圏数自体が減少傾向にあり、それに伴い中心都市・郊外市町村数も減少していることが示唆された。

表 1：中心都市の人口規模により分類された都市雇用圏

	2010 年		2015 年		2020 年	
	都市圏の 個数	中心/郊外の 市町村数	都市圏の 個数	中心/郊外の 市町村数	都市圏の 個数	中心/郊外の 市町村数
大都市雇用圏 (中心：政令指定都市)	15	28/384	15	30/385	15	31/380
大都市雇用圏 (中心：中核市)	40	43/242	40	42/248	39	41/250
大都市雇用圏 (中心：その他)	56	60/179	50	54/157	49	54/165
小都市雇用圏	121	126/227	122	126/235	107	110/232
合計	232	257/1032	227	252/1025	210	236/1027

2.3 中心都市の人口規模により分類された都市雇用圏における社会データの概要

表 2 には、中心都市の人口規模により分類された都市雇用圏の社会的特徴の変化を示した。2010 年・2015 年・2020 年の 3 か年において、「都市雇用圏あたりの郊外個数 / 都市雇用圏あたりの人口 / 都市雇用圏あたりの面積 / 都市雇用圏あたりの人口密度 / 中心都市の平均 DID 人口 / 郊外から中心への平均通勤率」を記しており、各項目において「2015 年における対 2010 年対数変化率 / 2020 年における対 2015 年対数変化率」を算出した。2020 年時点では、平均的に約 5 市町村が郊外として広がる約 1,000 km² の都市雇用圏に約 60 万の人口が住んでおり、中心都市の DID 人口は約 20 万、郊外から中心への平均通勤率は約 20% であることが示された。都市圏全体における 3 時期の対数変化率をみると、全ての項目において増加傾向にあることがみられた。人口規模による分類に着目すると、全ての項目において「政令指定都市圏 > 中核都市圏 > 地方都市圏 > 小都市雇用圏」の順に並べられ、ほぼ全ての項目において全体の平均値に最も近いのが「中核都市圏」であった。

「政令指定都市圏」に関しては、都市雇用圏あたりの郊外市町村数が唯一減少傾向にあり、2020 年の対数変化率の値は最小を示した。それに伴い、都市雇用圏あたりの面積も微減している。また、中心都市の平均 DID 人口は減少傾向にあること、郊外から中心への平均通勤率における 2020 年対数変化率の値が最大を

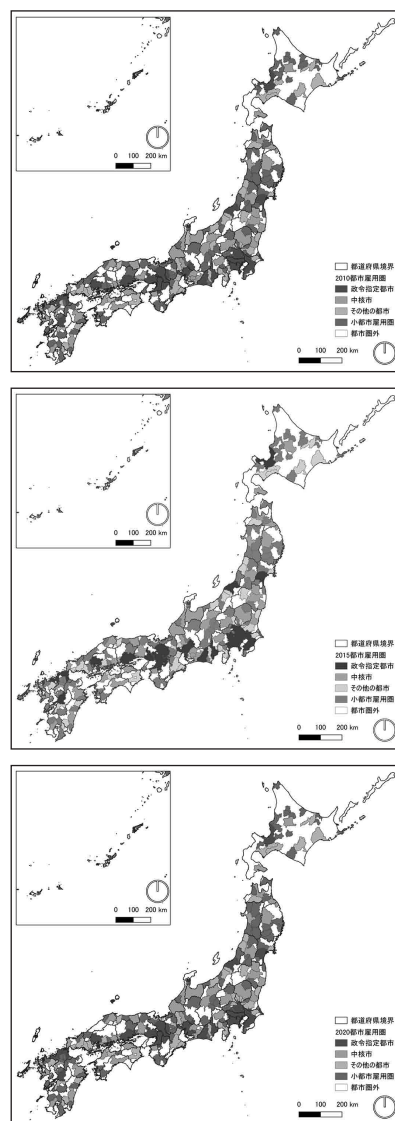


図 1：中心都市の人口規模別に見た都市雇用圏の分布
(上:2010 年, 中央:2015 年, 下:2020 年)

示したことが特徴的である。

「中核都市圏」に関しては、都市雇用圏あたりの人口が唯一減少傾向にあり、2020 年における対 2015 年対数変化率の値は最小を示した。それに伴い、都市雇用圏あたりの人口密度も微減している。また、郊外から中心への平均通勤率が減少から増加に転じたことが特徴的である。

「地方都市圏」に関しては、2010 年から 2015 年にかけて郊外市町村数が減少したことに伴い都市雇用圏あたりの人口密度は増加したが、2015 年から 2020 年にかけての郊外市町村数の増加により都市雇用圏あたりの人口密度が減少した。また、中心都市の平均 DID 人口は減少傾向にあった。

「小都市雇用圏」に関しては、2010 年から 2015 年にかけて中心都市の平均 DID 人口および都市雇用圏あたりの人口が減少したが、2015 年から 2020 年にかけては 2 項目とも増加したことが示された。

表 2：中心都市の人口規模により分類された都市雇用圏の社会的特徴の変化

項目	2010 年	2015 年	2020 年	2015/2010 対数変化率	2020/2015 対数変化率
政令指定都市圏	都市雇用圏あたりの郊外個数	25.6	25.7	0.3%	-1.3%
	都市雇用圏あたりの人口	4829306.9	4899822.1	1.4%	1.8%
	都市雇用圏あたりの面積	2737.6	2742.1	0.2%	-1.6%
	都市雇用圏あたりの人口密度	117.6	119.1	1.3%	3.3%
	中心都市の平均 DID 人口	1243512.5	1190678.4	-4.3%	-0.4%
	郊外から中心への平均通勤率	25.3	25.2	-0.6%	3.0%
中核都市圏	都市雇用圏あたりの郊外個数	6.1	6.2	2.4%	3.3%
	都市雇用圏あたりの人口	574493.8	576074.2	0.3%	-1.4%
	都市雇用圏あたりの面積	1522.6	1586.2	4.1%	1.2%
	都市雇用圏あたりの人口密度	9.4	9.1	-3.8%	0.0%
	中心都市の平均 DID 人口	237771.0	242016.4	1.8%	-0.6%
	郊外から中心への平均通勤率	23.6	23.0	-2.4%	1.1%
地方都市圏	都市雇用圏あたりの郊外個数	3.2	3.1	-1.8%	7.0%
	都市雇用圏あたりの人口	259040.0	263223.3	1.6%	0.6%
	都市雇用圏あたりの面積	880.6	912.2	3.5%	6.9%
	都市雇用圏あたりの人口密度	5.3	5.8	9.4%	-4.4%
	中心都市の平均 DID 人口	92266.5	92000.7	-0.3%	-2.4%
	郊外から中心への平均通勤率	21.5	21.4	-0.7%	0.4%
小都市雇用圏	都市雇用圏あたりの郊外個数	1.9	1.9	2.6%	11.8%
	都市雇用圏あたりの人口	99285.4	95539.1	-3.8%	1.9%
	都市雇用圏あたりの面積	767.6	775.0	1.0%	6.6%
	都市雇用圏あたりの人口密度	1.1	1.0	-5.6%	8.5%
	中心都市の平均 DID 人口	22694.9	22365.3	-1.5%	3.0%
	郊外から中心への平均通勤率	19.6	20.1	2.9%	1.5%
平均	都市雇用圏あたりの郊外個数	4.4	4.5	1.5%	8.0%
	都市雇用圏あたりの人口	525599.7	534613.4	1.7%	6.9%
	都市雇用圏あたりの面積	1052.4	1078.2	2.4%	5.6%
	都市雇用圏あたりの人口密度	2.2	2.2	1.5%	9.1%
	中心都市の平均 DID 人口	207930.2	212980.6	2.4%	7.2%
	郊外から中心への平均通勤率	23.0	22.9	-0.3%	1.8%

2.4 中心都市の人口規模により分類された都市雇用圏における経済データの概要

まず、図2には、中心都市の人口規模別にみた都市雇用圏における地価公示価格の対数変化率を示した。次に、表3には、中心都市の人口規模別にみた都市雇用圏における地価公示価格の推移を、「中心都市 / 郊外」別に示した。表3からは、2020年時点での地価公示価格の平均が238070.9円/m²であり、この価格は3時期にわたり上昇し続けてきたことが分かる。また、地価公示価格の値は「政令指定都市圏 > 中核都市圏 > 地方都市圏 > 小都市雇用圏 > 都市圏外地域」の順に小さくなることがみられた。図2からは、「政令指定都市圏」における公示地価価格が3時期にわたり上昇してきたこと、「中核都市圏」の公示地価価格が減少から増加に転じたこと、「地方都市圏・小都市雇用圏・都市圏外地域」における公示地価価格は3時期にかけて減少傾向にあることがうかがえた。表3に翻って、中心都市の人口規模による分類に着目すると、どの都市圏においても中心都市のほうが郊外市町村よりも公示地価価格の値は大きい、「政令指定都市圏」においてはその差異が最も大きく（例：2020年公示地価価格の中心/郊外比は4.5）、中心都市における公示地価は2015年から2020年にかけて33.5%急増した。加えて特筆するならば、「中核都市圏」における中心都市の公示地価価格は3時期で減少から増加に転じており、郊外市町村の公示地価価格に関しても2010年・2015年においては「小都市雇用圏」の中心都市よりも低かったが、2020年では「小都市雇用圏」の中心都市より高い値を示していた。

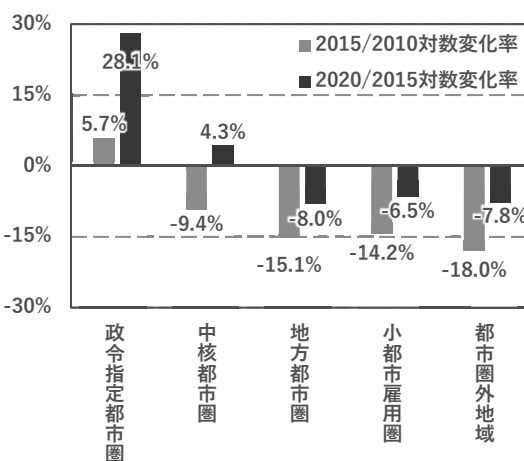


図2：都市雇用圏における地価公示価格の対数変化率

表3：中心都市の人口規模により分類された都市雇用圏における地価公示価格の推移

	2010年	2015年	2020年	2010/2015対数変化率	2015/2020対数変化率
政令指定都市圏	263629.5	279026.5	369482.0	5.7%	28.1%
うち中心都市	400998.1	437364.5	611195.1	8.7%	33.5%
うち郊外	128181.8	127751.4	134443.6	-0.3%	5.1%
中核都市圏	67585.9	61552.4	64244.9	-9.4%	4.3%
うち中心都市	78240.5	73498.6	77687.9	-6.3%	5.5%
うち郊外	43782.4	38516.1	38190.3	-12.8%	-0.8%
地方都市圏	52019.7	44713.5	41267.1	-15.1%	-8.0%
うち中心都市	56563.9	49461.7	45381.2	-13.4%	-8.6%
うち郊外	43083.9	36435.4	34123.7	-16.8%	-6.6%
小都市雇用圏	40186.5	34849.5	32642.0	-14.2%	-6.5%
うち中心都市	44314.9	38998.0	37064.6	-12.8%	-5.1%
うち郊外	31619.1	26468.5	24643.3	-17.8%	-7.1%
都市圏外地域	30144.0	25184.4	23288.0	-18.0%	-7.8%
平均	176429.3	179981.5	238070.9	2.0%	28.0%

3 「中核都市圏」の社会的・経済的な特徴

ここまで、中心都市の人口規模別に分類された都市雇用圏における社会的・経済的な特徴をみてきた。本章では、都市雇用圏あたりの人口が唯一減少傾向にあるが公示地価価格は減少から増加に転じており、かつ、本稿の分析対象である「宇都宮都市圏」が含まれている「中核都市圏」に焦点を当て、さらに細かく社会的・経済的な特徴を整理する。なお、使用するデータは2章と同様である。

3.1 「中核都市圏」の概要

図3に「中核都市圏」の一覧を示した。2015年時点までは40の「中核都市圏」が存在していたが、岡崎市が「名古屋都市圏」に含まれた（愛知県半田市の1次郊外）ため、2020年時点では39に減少した。37の「中核都市圏」が単一の都市を中心としており、2都市圏のみ複数の都市を中心都市とする構造を有している。2つの中核市が副中心となっており（「前橋・高崎都市圏」における群馬県高崎市、「大阪都市圏」における大阪府東大阪市）、2023年4月1日時点での62中核市のうち残りの21市区町村においては、中心都市ではなく「政令指定都市圏」における1次郊外として分類されている。

3.2 「中核都市圏」における社会的・経済的な特徴

表4には、「中核都市圏」における社会的・経済的な特徴として、2020年時点での「中核都市圏」における「郊外の個数／人口／面積／人口密度／中心都市のDID人口／郊外から中心への通勤率／公示地価平均／地価の中心／郊外比」を示した。各項目をみると、「郊外の個数」に関しては、39の中核都市圏のうち、中心都市のみの都市圏が1、1次郊外のみ有する都市圏が19、1次郊外と2次郊外を有する都市圏が12、3次・4次郊外まで広がる都市圏が7存在した。また、2010年と比べて5の都市圏の郊外市町村数が増加し、4の都市圏の郊外市町村数が減少したことが分かった。続いて、「人口」をみると、50万未満の都市圏が17、50万以上の都市圏が20存在し、特に3都市圏が100万以上の大規模な圏域を形成していた。2010年と比べて15の都市圏で人口減少傾向がみられ、増加傾向にあった都市圏は1のみであった。「人口」と「中心都市のDID人口」との関係を見ると、中心DID人口の増加に伴い都市圏人口も増加したタイプが1、中心DID人口は増加したが都市圏人口に変化は見られないタイプが4、中心DID人口の減少に伴い都市圏人口も減少したタイプが3、中心DID人口は減少したが都市圏人口に変化は見られないタイプが3、中心DID人口に変化はないが都市圏人口は減少したタイプが12存在した。「面積」をみると、1,000 km²未満の都市圏が8、1,000

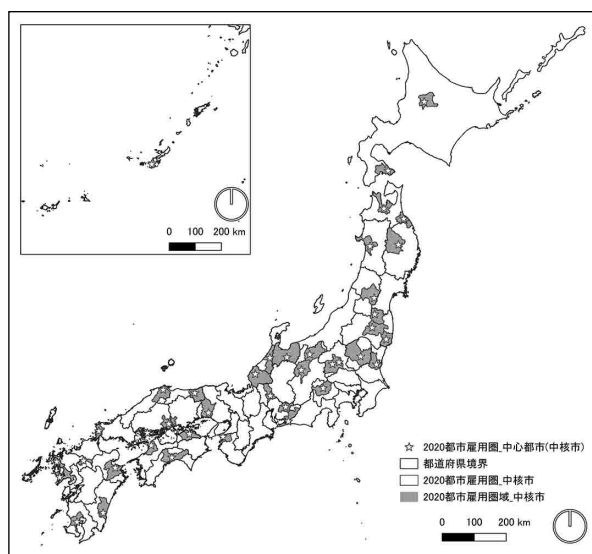


図3：「中核都市圏」の一覧

km²以上の都市圏が31存在し、特に4都市圏が3,000 km²以上の大規模な圏域を形成していた。面積の増減は、郊外市町村数の増減に影響を受けていることが推察された。「人口密度」をみると、都市圏人口の増減や面積の増減に影響を受けていることが示唆された。「郊外からの平均通勤率」については、2010年と比べて増加・減少した都市圏がそれぞれ7ずつ存在した。「公示地価平均」については、50,000円/m²未満の都市圏が14、50,000円/m²以上の都市圏が25存在し、特に5都市圏が100,000円/m²以上の圏域を形成していた。2010年と比べて27の都市圏が減少し、5の都市圏が増加傾向にあった。「公示地価の中心/郊外比」については、2010年と比べて27の都市圏が増加し、減少した都市圏はわずか2であった。

表4：2020年時点での中核都市圏における社会的・経済的な特徴

都市圏名	郊外の 個数	人口	中心都市の DID 人口	面積	人口密度	郊外からの 平均通勤率	公示地価 平均	地価の 中心/郊外比
函館市	2/0/0	323072(-)	216,044(-)	1292.1	250.0(-)	38.7	45381.4(-)	2.7(-)
旭川市	6/0/0	366758(-)	306,545	1744.8	210.2(-)	35.8(+)	26169.3(-)	2.6(+)
青森市	3/1/0	295,593(-)	219,275	1478.1	200.0(-)	20.1	39674.4(-)	4.2(+)
八戸市	5/0/0(-)	309,126(-)	157,255	1105.2(-)	279.7	28.8(+)	32880.6(-)	3.3(+)
盛岡市	6/0/0	457,552	235,450	3206.8	142.7	27.9	58286.8(-)	2.4
秋田市	5/0/0	383,233(-)	245,611	1524.8	251.3(-)	23.9(-)	31896.9(-)	3.5(+)
山形市	5/5/2(+)	516,884	184,382	2246.9	230.0(-)	22.7	43552.6(-)	2.4(+)
福島市	5/0/0	426,758(-)	185,024	1585.9	269.1(-)	23.9	46672.9	2.3(+)
郡山市	4/5/0	527,382	245,463	2163.9	243.7	21.2	50125.9	2.9(+)
いわき市	1/0/0	338,343	143,992(-)	1291.0	262.1	13.0(-)	44475.0(+)	2.2(+)
水戸市	7/0/0	658,421	174,150	1311.2	502.1	20.4	38335.5(-)	2.0
宇都宮市	13/2/0	1,082,626	403,616	3850.9	281.1	17.6	52290.9(-)	2.8(+)
前橋市・高崎市	8/4/0	1,253,418(-)	197,520	2234.1(-)	561.0	25.0	51947.9(-)	2.0(+)
富山市	6/2/6(+)	1,034,814(+)	246,850(+)	4247.6(+)	243.6	23.2(-)	49227.6(-)	1.9
金沢市	6/1/0	747,576	399,221(+)	1558.8	479.6	32.0	105800.0(+)	2.7(+)
福井市	6/2/2	632,190	184,843(+)	3090.6	204.6	23.1	53909.6(-)	2.4(+)
甲府市	9/1/0	574,093	149,277(-)	1676.0	342.5	19.0	44222.2(-)	1.7(+)
長野市	7/3/2(+)	599,581	272,005(+)	2242.2(+)	267.4(-)	22.3(-)	56793.6(-)	2.4(+)
松本市	6/3/0(-)	442,649	149,054	1956.0(-)	226.3	23.6	51384.7(-)	2.2(+)
岐阜市	9/0/0	815,592	304,103	1027.5	793.8	21.9	64366.5(-)	1.7
豊橋市	2/1/1	663,238	276,142	1236.7	536.3	13.0	78795.2	1.5
豊田市	1/0/0	484,282	246,109	950.5	509.5	31.0(+)	112813.0(+)	1.0
姫路市	7/0/0	742,686	392,599	1847.7(+)	402.0(-)	21.7	80991.1	2.3(+)
和歌山市	4/1/0	552,675(-)	274,582	741.8	745.0(-)	21.1	69769.9(-)	2.0(+)
鳥取市	4/0/0	224,492(-)	103,827	1518.2	147.9(-)	38.6(+)	40305.1(-)	2.2(+)
松江市	2/0/0(-)	276,685(-)	106,434	1547.1	178.8(-)	14.0(-)	49108.2(-)	2.1
呉市	1/0/0	236,522	142,702(-)	453.6(+)	521.5(-)	10.4	74906.7(-)	2.8
福山市	4/2/0(+)	731,686(-)	264,631	1421.4(+)	514.8(-)	18.2	53151.5(-)	1.5
下関市	0/0/0	255,051(-)	167,629(-)	716.1	356.2(-)	0.0	44547.5(-)	-
高松市	4/3/4	801,130	213,549	1352.1	592.5	21.7	59088.1(-)	2.3(+)
松山市	4/0/0	630,338	427,540	957.1	658.6	36.4	111530.6(-)	2.1(+)
高知市	7/1/0	501,357(-)	266,025	1918.7	261.3(-)	22.2	76394.1(-)	2.0(-)
久留米市	5/0/0	429,434	188,872	468.4	916.8	15.8(-)	62584.6	2.1(+)
長崎市	3/2/1	757,303(-)	290,853(-)	1212.7	624.5(-)	23.7(+)	84725.7(+)	2.6(+)
佐世保市	3/0/0	284,803(-)	145,910	551.5	516.4(-)	32.2(+)	61524.9(-)	2.7(+)
大分市	4/2/0(+)	737,383	351,227(+)	1994.2	369.8	17.6(-)	65929.9	1.7(+)
宮崎市	5/1/0	496,662	277,345	1559.6	318.5	21.8	53960.4(-)	2.8(+)
鹿児島市	2/0/0	716,629	478,507	1031.8	694.5	20.6	130117.0	4.8(+)
那覇市・浦添市	9/0/0(-)	851,319	316,580	270.9	3142.2(+)	29.1(+)	165325.4(+)	2.6(+)

※「郊外の個数」については、「1次郊外/2次郊外/3次および4次郊外」の順で記した。

※「対2010年の対数変化率が5.0%以上増加している値」の右上には「+」を、「対2010年の対数変化率が5.0%以上減少している値」の右上には「-」を記した。

4 「宇都宮都市圏」の社会的・経済的な特徴

前章では、「中核都市圏」における社会的・経済的な特徴をみてきた。本章では、中核都市圏の中で最多の郊外市町村を有し、人口・面積ともに大規模な都市圏を形成している「宇都宮都市圏」に焦点を当て、社会的・経済的な特徴の実態を理解する。なお、使用するデータは2章と同様である。

4.1 「宇都宮都市圏」の概要

「宇都宮都市圏」の特徴としては、鹿沼市・日光市・真岡市・さくら市・那須烏山市・下野市・上三川町・益子町・茂木町・市貝町・芳賀町・壬生町・塩谷町・高根沢町・那珂川町と、前述した通り15の市町村を郊外に有し（益子町は真岡市の、那珂川町は那須烏山市の2次郊外）、人口約100万（「前橋・高崎都市圏」に次いで第2位）、面積約4,000 km²（「富山都市圏」に次いで第2位）の大規模な圏域が広がっている点が挙げられる。図4に、「宇都宮都市圏」の構成市町村と宇都宮市への通勤率を示した。図4からは、宇都宮市への通勤率が最も高い市町村は高根沢町（28.0%）であり、次いで芳賀町（25.9%）・上三川町（24.1%）と続くことが見て取れる。宇都宮都市圏における他市町村からの通勤移動の実態を論じた倉田（2016）は、就業構造を概観したところ「宇都宮都市圏」では製造業の特化係数が特徴的であり、製造業関連の雇用増加が就業者の流入をもたらす可能性があると考えしている。

4.2 「宇都宮都市圏」の社会的・経済的な特徴

まず、図5には、国勢調査の統計結果を基に「宇都宮都市圏」の250 mメッシュ別2020年人口を示した。図5からもわかるように、人口は中心都市である宇都宮市に集中しており、実際に宇都宮市のDID内に居住する人口は約40万と、他の中核都市圏の中心都市と比較しても多い（鹿児島市・松山市に次いで第3位）。また、対2015年における宇都宮市DID人口の2020年対数増加率が4.6%と比較的高い（長野市・岐阜市に次いで第3位）傾向にあることも、中核都市圏のなかで特徴的である。一方で、郊外市町村の人口は分散気味で比較的少なく、対2015年における郊外市町村人口の2020年対数変化率は-3.7%と減少しており、神田ら（2020）が指摘する中心化が進んでいることが推察された。

次に、図6には「宇都宮都市圏」の2020年公示地価ポイントデータの分布を示した。図6からは、100,000円/m²以上の公示地価を示す地点は中心都市である宇都宮市に集中していることが見てわかる。宇都宮市における公示地価は2010年から2015年にかけて-10.4%減少したものの、2015年

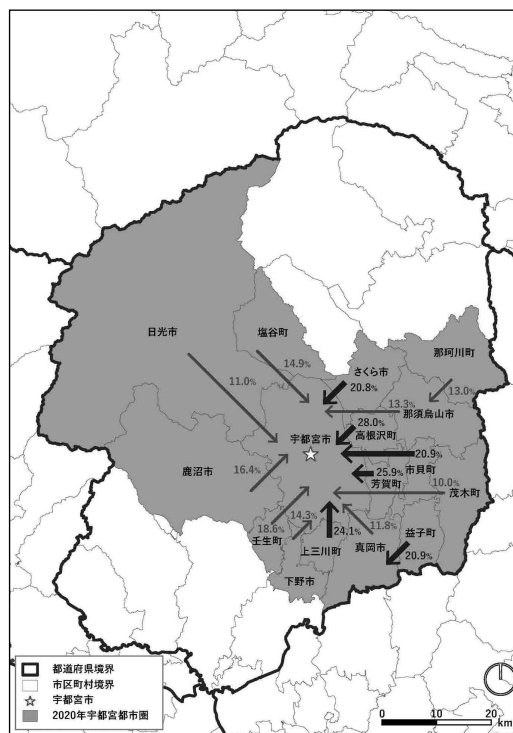


図4：「宇都宮都市圏」の構成市町村

※図中には「通勤率」を示し、20.0%未満の場合はグレーで、20.0%以上のものは黒色で記した。

から 2020 年にかけては 4.6% 増加しており上昇傾向がみられた。一方で、郊外市町村の公示地価においては、2015 年は -10.4%，2020 年は -5.2% と、3 時期にわたって減少していることが確認された。

5 おわりに

本稿では、「都市圏」に関する複数の設定基準の中から「都市雇用圏」の概念に着目し、「中核都市圏」および「宇都宮都市圏」の社会的・経済的な特徴を把握した。その結果、人口増加・地価上昇が低迷する「中核都市圏」の中にある「宇都宮都市圏」では、中心都市における人口集中・地価上昇がみられ、これらの要因として製造業特化係数の高さが影響していることが推察された。今後は、就業構造に関するデータを整備し、「中核都市圏」における社会的・経済的な中心-郊外構造の理解をさらに深める。

【注（下記 Web サイトは全て 2025 年 3 月 14 日に閲覧）】

- 1) 「宇都宮市創造都市研究センター」 <https://www.rccc-utsunomiya.org/>
- 2) 「UEA(Urban Employment Area)」 <https://www.csis.u-tokyo.ac.jp/UEA/index.htm>
- 3) 2020 年における都市雇用圏データの作成に際しては、Web サイト（「データ置き場」
https://ux.getuploader.com/Fuku_kgt/）のデータセットを参照した。

【参考文献・情報】

- [1] 金本良嗣・徳岡一幸 (2002)：日本の都市圏設定基準．応用地域学研究，No. 7，1-15.
- [2] 倉田知秋 (2016)：宇都宮都市圏における他市町村からの通勤移動実態．東京家政大学研究紀要 1 人文社会科学，56, 123-130.
- [3] 神田兵庫・磯田弦・中谷友樹 (2020)：人口減少局面における日本の都市構造の変遷．季刊地理学，72(2)，91-106.

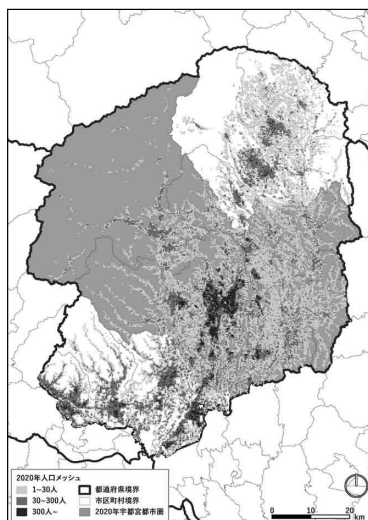


図5：宇都宮都市圏における人口分布

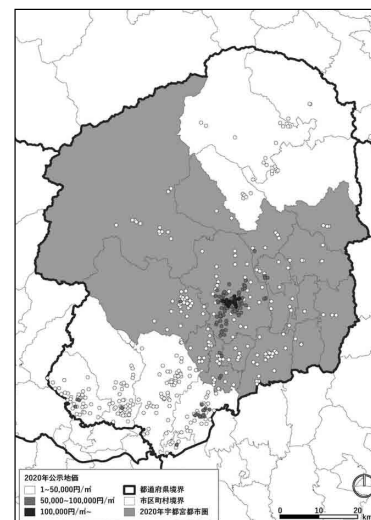


図6：宇都宮都市圏における地価分布

宇都宮共和大学まちまちサークルの 設立までの経緯と 2024 年度の活動内容的研究

Background to the establishment of the Utsunomiya Kyowa University
“Machimachi Circle” and its activities in FY2024

坂 口 豪（宇都宮共和大学 専任講師）

本報告では、2024 年 4 月に宇都宮共和大学シティライフ学部に設立された「まちまちサークル」が設立されるまでの経緯と、2024 年度の活動内容を記述した。宇都宮市内でのまちづくり活動を主たる目的とした「まちづくりサークル」と栃木県内のさまざまな地域でまち歩きを行うことを目的とした「まちあるきサークル」が同キャンパス内に併存していた。さらに「まちづくりサークル」のメンバーは全員「まちあるきサークル」に所属していたことから 2 つのサークルを合併して、まちまちサークルが設立された。2024 年度は前身の 2 つのサークル活動の取り組みを引き継ぎつつ、サークルとして宇都宮市のまちづくり提案発表会で発表を行い、第 2 位の結果を残した。

1 本報告の背景と目的

本報告では、「宇都宮共和大学まちまちサークル（以下、まちまちサークル）」が結成されるまでの経緯や所属する学生のサークル活動への思い、および活動内容について論じる。宇都宮共和大学は栃木県宇都宮市に位置する私立大学であり、シティライフ学部と子ども生活学部の 2 学部から構成されている。まちまちサークルは宇都宮市の中心部に近いシティライフ学部に設置されているサークルである。まちまちサークルは、「まちあるき」と「まちづくり活動」の 2 つを活動の柱としている。

大学生による「まちあるき」や「まちづくり活動」については、多くの先行研究がみられる。羽田野（2014）では福井大学教育地域科学部地域科学課程に在籍する学生で構成されている「福井大学 EMP 実行委員会」を事例に取り上げて、団体の発足のきっかけ、所属する学生の属性、活動内容などが詳細に記述されている。さらに結論として「地域活動の機会提供は彼らの将来展望とそれへ向けた行動に概ねポジティブな変化をもたらしており、地域活動の参加経験がない若者に、何らかの形で地域活動参加の機会を提供することが、若者の地域活動参加および地域への関心を高める上で確実に効果をもたらす」ことを示していた（羽田野 2014）。

内藤（2016）では、ゼミ活動において学生たちとキャンパスが位置する地域で行われていた菊水祭山車を復興させることで、大工町・寺町周辺のかつての賑わいを取り戻すための活動を行ったことを詳細に記述している。内藤（2016）では、宇都宮共和大学シティライフ学部の内藤ゼミを含む複数のゼミ・サークルに所属する大学生約 20 名と、宇都宮市東地区連合自治会所属 25 自治会約 2500 世帯の住民の方々、宇都宮市内のその他協力団体から組織された「宇都宮まちづくりお助け隊」の結成と、その団体の目的である大工町の菊水祭山車の復興について論じていた。

このように大学生によるまちづくり活動に関する論考は多くみられるものの、地方都市に位置する小規模な私立大学の学生が活動主体となっているサークル活動での事例はほとんどみられない。そこで本報告では、まちまちサークルが結成されるまでの経緯、所属学生の属性やサークル活動への思い、および 2024 年度を中心とした活動内容に焦点をあてて記述をしていく。

調査の方法としては、サークルに所属する学生への聞き取りにより「まちまちサークルが結成されるまでの経緯、および所属学生のサークル活動の思い」を明らかにした。中心となる聞き取り対象は 2 人の学生である。一人は、まちまちサークルの前身の 1 つのサークルであった「まちづくりサークル」の代表であった 4 年生の学生 F である。もう一人は、まちまちサークルの前身のサークルであった「まちあるきサークル」の元代表で現在の「まちまちサークル」代表である学生 Y である。さらに筆者はまちまちサークルの顧問として学生たちと関わりを持つことができた。顧問として活動に関与する中で見聞きしたことに基づいて 2024 年度の活動内容を記述するに至った。そのため若干、筆者の主観によった記述がみられることを容赦いただきたい。

2 まちまちサークルに所属する学生

本論に入る前に、2024 年度のまちまちサークルに所属する主要な学生を説明する（表 1）。こ

表 1 2024 年度のまちまちサークルの主な部員一覧

学年	仮称	性別	役職	合併前の所属サークル
4年生	学生F	男子		まちづくりサークル（町おこしTiger）元代表 とちぎまちあるきサークル
	学生T	男子		まちづくりサークル（町おこしTiger） とちぎまちあるきサークル
	学生M	女子		とちぎまるあるきサークル
3年生		男子		とちぎまるあるきサークル
2年生	学生Y	男子	部長	とちぎまるあるきサークル
	学生U	男子		
	学生K	男子	会計	
		女子	副部長	とちぎまるあるきサークル
		女子		まちづくりサークル
		女子		とちぎまるあるきサークル
1年生		男子		
		女子		

れまでまちまちサークルや前身となるサークルで活動に参加した主要な学生を一覧にまとめた。学年の表記を 2024 年度当時である。第 3 章では、主に 4 年生の学生 F と 2 年生の学生 Y への聞き取りに基づき記述した。男女比は男子学生 7 人、女子学生 5 人である。まちまちサークルの幹部学生は 2 年生の 3 人の学生が務めていた。また 2 年生以上の多くの学生は、第 3 章で詳述するまちまちサークルの前身となる 2 つのサークルのどちらか（一部は両方）に所属していた。

3 まちまちサークルが結成されるまで

3.1 町おこし Tiger からまちづくりサークルへ

学生 F は 2021 年に宇都宮共和大学シティライフ学部に入學した。学生 F は高校時代に「烏山学」という地域学を学校教育の中で目の当たりにし、地域活動やまちづくりに関心をもつきっかけとなった。また、学生 F が宇都宮共和大学のオープンキャンパスに参加した際に、当時まちづくり分野の教員として所属していた教員 N と個人面談をした際の話に感銘を受け、教員 N のゼミに入りたいと思うようになり、宇都宮共和大学を進学先に選択することとなった。

学生 F が 2021 年に宇都宮共和大学シティライフ学部に入學すると、教員 N が担当する講義をさっそく履修し、「オープンキャンパスで N 先生とお話したことがきっかけで N 先生のゼミに入りたいと思うようになり入學しました」と教員 N に直接伝えた。ところが教員 N は学生 F のことを覚えていなかったという後日談があったが、そこから学生 F は教員 N の指導を仰ぐようになり、創造都市研究センターのアントレプレナー研究会や地域社会実習などを通じて、地域とのつながりを強くしていった。

学生 F の大学入學後から 1 年が経とうとしていた 2022 年 2 月に教員 N から「宇都宮空襲」に関するイベントを行うことの提案を受けた。教員 N は 2021 年 10 月に幸い橋下にて宇都宮空襲に関する映画上映イベントに携わり、その中で宇都宮市内において平和活動を行う人びととの関係を強めていた。一方で、平和活動を行う人びとも高齢化が進み、教員 N はそうした人たちから若い人に活動を引き継いでいきたいと相談されていた。そうした経緯から、まちづくりや地域活動に関心が強かった学生 F に平和活動に関するイベントを企画する提案を行った。

学生 F は宇都宮で平和活動などを行う団体である「ピースうつのみや」の方々と会い、関係を構築することとなった。さらに学生 F は地域に根ざした平和活動を行いたいと考え、同じ学年で親しかった学生 T とともに相談し、一緒にサークルを立ち上げる方向性が定まった。その後、学生 F が 2 年生となった 2022 年 4 月に「町おこし Tiger」という名称のサークルを立ち上げた。町おこし Tiger という名称は「宇都宮空襲」や「平和活動」だけでなく、広く宇都宮駅西口エリアの町おこしをしていきたい思いが込められている。2022 年 7 月には、町おこし Tiger として初となるイベント「灯ろうづくり体験教室」と「宵まち宮灯ろう」が実施された。この 2 つのイベントの実施にあたっては前述した「ピースうつのみや」や宇都宮駅西口周辺の方々、および教員の協力のもと実現することができた。中心となって動いた学生は学生 F と学生 T の他に 2 名の協力

表2 まちまちサークルの前身サークルの合併までの活動内容

2022年	2月	学生Fが教員Nから宇都宮空襲の関するイベントを行うことの提案を受ける 「ピースうつつのみや」の方々と会う
	3月	先生方との相談のもと学生の組織を作る方向に 同期のTさんに相談しサークルを作ることになる
	4月	サークル「町おこしTiger」を立ち上げ 「空襲」に関わらず、西口周辺の町おこしのため上記名称に
	7月	サークル初のイベント「灯ろうづくり体験教室」や「宵まち宮灯ろう」を実施 一市民団体「ピースうつつのみや」や西口周辺の方々、先生方の協力のもと サークル実行学生2名、協力学生2名
	10月	すみれ祭にて「灯ろうづくり体験教室」のことなどを展示
2023年	2月	「宵まち宮灯ろう」2回目に向けて企画・準備へ
	3月	サークル名を「まちづくりサークル」に変更 新入生などを受け入れやすい名称に。所属学生6名だが、実行学生は2名
	4月	サークル紹介にて3名の新入生が新たに所属。実行学生5名に。※2名は外部協力者の扱い
	7月	2回目の「灯ろうづくり体験教室」や「宵まち宮灯ろう」を実施 一市民団体「ピースうつつのみや」や西口周辺の方々、先生方の協力のもと
	9月	学生Yなどが「とちぎまちあるきサークル」を立ち上げ とちぎまちあるきサークルでさくら市喜連川での秋祭りに参加
	10月	昨年と同様にすみれ祭にてサークルの展示を行う
	11月	「まちづくりサークル」の学生1人と「まちあるきサークル」の学生2人が統合を協議
2024年	12月	まちづくりサークル代表Fも話し合いに加わり、サークル統合を決定 統合事由①両サークルのメンバーのダブリ ②互いのサークルが単体で運営するには今後限界がある懸念 ③もっと地域貢献や地域で活動するのは大きな組織が必要ではないか（学生F）
	2月	まちづくりサークルの総会でサークル統合を通知 とちぎまちあるきサークル最後のまち歩きを実施

学生がいた。

2022年10月には宇都宮共和大学の宇都宮シティキャンパスで行われた大学祭「すみれ祭」において学生たちが中心となりサークル展示を行った。展示内容は「灯ろうづくり体験教室」と「宵まち宮灯ろう」のイベントの内容を中心としたものであった。

2023年3月には新年度から入学する新入生の受け入れ準備が始められた。その過程で、学生Fは新入生に活動内容などがより分かりやすいサークル名にする必要があると考え、町おこしTigerから「まちづくりサークル」へと名称を変更した。

2023年4月になり学生Fは3年生となった。サークル紹介を経て、女子学生1名が入部した。昨年と同じく2023年7月に2回目の「灯ろう作り体験教室」と「宵まち宮灯ろう」を実施した。平和活動については、前述の2つのイベントのほか「宇都宮市平和のつどい」にまちづくりサークルのメンバー1名が参加をした。10月にはすみれ祭にて昨年と同様に平和活動イベントに関する展示を行った。

2023年11月頃からは後述するまちあるきサークルと合併する話が持ち上がり、12月からはまちづくりサークルの代表でもある学生Fも議論に加わり、サークル統合を決定した。

3.2 とちぎまちあるきサークルの活動内容とその参加学生

とちぎまちあるきサークルは2024年度に2年生である学生Yが代表として立ち上げたサークルである。主に学生Yへの聞き取りに基づいてとちぎまちあるきサークルの活動を記述する。学生Yは2023年4月に宇都宮共和大学シティライフ学部に入學した。当初はまちづくりやまち歩きに強い関心があったわけではなく、4月当初からサークルに加入するということもなかった。先輩からの誘いで6月に「とちぎ地域づくりフェア」に参加したことを契機にまちづくりやまち歩きに関心を持つようになった。さらに2023年当時の4年生と3年生（学生M）であった二人の女子学生の先輩がさくら市喜連川でまち歩きイベントを企画し、それに参加したこと、さらに喜連川での秋祭りに参加したこともまちづくりへの関心を強めた。また、宇都宮駅西口ではペDESTリアンデッキを活用した通称「ペデフェス」が2023年8月に行われた。学生Yはそのお手伝いの学生としても運営に関わっていた。

前述した喜連川でのまち歩きの経験とペデフェスへの関与を経て、2023年9月に学生Yは自らが代表として「とちぎまちあるきサークル」を設立した。「町おこし Tiger」が宇都宮市内を中心にまちづくり活動を行うことを設立されたのに対して、「とちぎまちあるきサークル」は栃木県内全域を対象にまち歩きを行うことを目的としている。サークル所属学生には、まちづくりサークルを立ち上げた学生Fと学生Tも加入していた。2023年11月とちぎまちあるきサークルで初となるまち歩きイベントを日光市今市で行った。

3.3 まち歩きサークルとまちづくりサークルの合併によるまちまちサークルの結成

まちづくりサークルととちぎまちあるきサークルの両方に所属する学生Tと、とちぎまちあるきサークルの代表である学生Yと学生Hの3名でサークルを統合する議論を始め、前述した通り、12月からはまちづくりサークル代業の学生Fも含めた話し合いを行った。サークル統合の理由としては、両サークルのメンバーの重なりや、互いのサークルが単体で運営するには今後限界があると感じたこと、さらに「地域貢献」や「地域活動」を広げていくにあたっては大きな組織が必要であるといった考えから統合に至った。2024年4月の新歓の時期に合わせて、「まちづくり」と「まち歩き」を活動の柱とすることから頭文字をとって「まちまちサークル」として宇都宮共和大学シティライフ学部にはサークル登録を行い、まちまちサークルとしての活動が始まった。

4 2024年度のまちまちサークルの活動

4.1 まちまちサークルの活動内容

まちまちサークルは、所属メンバーそれぞれが地域におけるイベント企画や運営に携わっていることが多い。学生Fは平和活動イベントだけでなく、さまざまな地域イベントも含めて活動を行ってきた。2024年4月には学生Fが実行委員長を務めた「宮桜祭」が開催された。宮桜祭は2022年から行われているJR宇都宮駅西口に流れる田川の宮の橋付近の川沿いの遊歩道を利用し

表3 まちまちサークルの2024年度の活動内容

4月	サークル新歓	・男子学生1名（1年生）入部 ・まちづくり提案発表会へ出場を議論
	宮桜祭	・主催は宮桜祭実行委員会 委員長を学生Aが務めた
5月		・女子学生1名（1年生）入部
6月	みんな田川でバーベQ！	・主催は学生団体「みやガク」 まちまちサークル所属学生の一部が運営
7月	灯ろうづくり体験教室	・まちまちサークルから7名 その他協力学生2名
	宇都宮市主催「大学生による まちづくり提案」申込書提出	・まちまちサークル所属の2年生 学生B、C、Dの3名で提案に参加
9月	宇都宮市主催「大学生による まちづくり提案」中間報告会	・まちまちサークル3名が市の担当者へ オンラインで中間報告を実施
10月	平和教育活動「歴史に刻まれた夜 今こそ、宇都宮空襲を忘れない！」	・学生Aが宵まち宮灯ろうの代わりとなる 「平和学習ツアー」を実施。宇都宮空襲に関 連する市内スポットを巡った
	宇都宮共和大学シティライフ学部 大学祭「すみれ祭」にて展示	・1年生を中心に灯ろうづくり体験教室の イベント紹介などの展示を行った
12月	宇都宮市主催「大学生による まちづくり提案」発表会	・宇都宮市役所にてプレゼンテーション （口頭発表）とポスター発表を実施 ・13団体中第2位として表彰
1月	宇都宮市長との意見交換会へ参加	・まちづくり提案における上位入賞 グループとして市長との意見交換を実施
3月	サークル内イベント 「佐野まち歩き」を実施	・2024年度初めてとなるサークル内での まち歩きを佐野市で実施した

たイベントである。主催は「宮桜祭実行委員会」で、例年、宇都宮共和大学シティライフ学部の学生が委員長を務めてきた。2024年は学生Fを中心にまちまちサークルのメンバーが音楽ステージの準備・運営や飲食店での販売を行った。

6月には宇都宮共和大学シティライフ学部の学生有志で構成される学生団体「みやガク」が「みんな田川でバーベQ！」を開催した。第1部は宇都宮市若者まちなか活動・交流センターにおいて同センターを活用した地域交流の促進を考えるワークショップを行った。第2部にはJR宇都宮駅西口を流れる田川の宮の橋付近に移動し、まず参加者全員でゴミ拾いを中心とした清掃活動を実施した。その後、参加者同士の交流を深めるため田川沿いの遊歩道脇の緑地にてバーベキューを行った。地域の方や大学関係者合わせて50名ほど参加し、地域と大学の良い交流の機会となった。主催は「みやガク」であるが、みやガクの全メンバーはまちまちサークルに所属しており、みやガク以外の学生運営スタッフもまちまちサークル所属の学生が担っていたため、みやガクと

まちまちサークルが共催する形で実施されたイベントであるとみなすことができる。

7月の活動としては学生Fが2022年から続けてきた灯ろうづくり体験教室を開催した。まちまちサークルから7名が活動に参加し、サークルメンバー以外から2名の宇都宮共和大学シティライフ学部の学生が協力した。4年生であった学生Fのほかは大多数が2年生の学生であり、イベント運営の引き継ぎとしても良いメンバー構成であったと考えられる。

10月には、学生Fが卒業研究でも取り組んでいる宇都宮空襲を中心とした平和学習に関するイベントを開催した。「歴史に刻まれた夜今こそ、宇都宮空襲を忘れない！」と題して、宇都宮空襲に関する平和学習を主に中学・高校生向けに開催した。宇都宮市若者まちなか活動・交流センターを会場に本イベントは実施された。第1部としては、宇都宮共和大学の子ども生活学部の学生による宇都宮空襲に関する紙芝居の読み聞かせが行われた。その後の第2部としては、実際に宇都宮空襲に関する戦災遺構などを歩いて巡るツアーが実施された。ツアーでは、宇都宮二荒山神社においては神職の方から直接境内を案内いただき、神社の歴史などにも触れることができた。また、学生Fの案内で宇都宮空襲と宇都宮二荒山神社の関係も解説された。ツアーでは、宇都宮市立中央小学校や旭町の大いちょう、宇都宮城址公園などを巡り、学生Fが各々のスポットで解説を行った。雨が降る悪条件のなかでのツアーの開催となったが、参加者は熱心に解説を聞いている様子であった。

10月下旬の宇都宮共和大学宇都宮シティキャンパスで実施された「すみれ祭」では1年生が中心となり、7月の灯ろうづくり体験教室に関する展示を行った。

10月以降は後述する宇都宮市まちづくり提案発表会に向けた準備によりまちまちサークル全体としての活動は少なくなった。2025年2月には宇都宮土木事務所が主催する形で「シダレザクラ復活祭2025」が開催された。宇都宮共和大学の学生9名と教員1名がシダレザクラの植樹に携わることができた。2025年3月にまちまちサークルとして初めてまち歩きのイベントを行った。このイベントはサークル内メンバーだけでのまち歩きであり、サークルメンバーの交流や地域を知ること重点をおいて行われた。



写真1 佐野まちあるきの様子



写真2 まちあるきで立ち寄った佐野厄除け大師

4.2 宇都宮市まちづくり提案発表へのまちまちサークルとしての参加と受賞

前述したとおり 2024 年のまちまちサークルの大きな出来事としては、2 年生であった学生 Y、U、K の 3 人が宇都宮市主催「大学生によるまちづくり提案 2024」（以下、まちづくり提案）で発表したことである。まちづくり提案は、宇都宮市内の学生が調査研究したテーマを宇都宮市の政策として提案するものである。2024 年度のまちづくり提案のテーマは「まちに広がる共創の輪～新たな価値の創造を目指して～」であった。まちづくり提案は 2024 年度で 20 回目を迎えた。宇都宮市内の大学から 13 団体が出場し、宇都宮共和大学からは 5 団体が参加した。以下にまちまちサークルがまちづくり提案に出場するまでの経緯と提案内容、および発表会での審査結果について詳述する。

2024 年 5 月頃に前述の 2 年生 3 人からサークルとしてまちづくり提案を出したいと相談があったことから始まる。通常、ゼミ単位でまちづくり提案に申請を出すことが多いが、学生 Y、U、K の 3 人を中心メンバーとしてまちづくり提案に挑戦したい思いが強く、ゼミから独立してまちまちサークルとして提案発表を行いたいのが 3 人の希望であった。まちまちサークルの顧問は、当初は教員 M が主担当であったが、教員 M は自身のゼミでまちづくり提案を出す流れとなっていた。そのため、副担当顧問のような立場でまちまちサークルに関わっていた筆者が、まちまちサークルとして申請するまちづくり提案の指導教員を引き受けることとなった。他方、サークルとしてまちづくり提案に申請するにあたっては、ゼミのように毎週決まった時間を提案準備の活動時間にあてられるわけではないので、基本的にはまちづくり提案に申請する 2 年生 3 人の自主的な活動として進めてもらい、指導教員はあくまでもサポート役というスタンスで関わった。

2024 年 7 月、学生 Y、学生 U、学生 K の 3 人はまちづくり提案の申請書をまとめ、宇都宮市へ提出した。テーマは、4 月に田川沿いで「宮桜祭」を、6 月に「みんな田川でバーベ Q！」を行ったことから、田川へフォーカスする方向性に決まった。さらに、2024 年度のまちづくり提案のテーマである「共創の輪」ということも考慮して「田川を起点としたにぎわい復興 ～FROM TAGAWA TO THE FUTURE～」を提案名として申請を行った。提案名には、かつては賑わいがみられた JR 宇都宮駅西口エリアのにぎわいが希薄化していることから、JR 宇都宮駅西口エリアを流れる田川の現代的な価値を創造し、かつて見せた西口エリアのにぎわいを復興させていきたい思いが込められた。さらに英字で表現された副題には「田川から始まり、未来につなげていく」という思いも乗せている。

2024 年 9 月にはまちづくり提案の中間発表があり、中間報告書を提出した上で、9 月下旬に中間報告会がオンラインにて行われた。4 月の宮桜祭と 6 月のみんな田川でバーベ Q！において田川での共創の輪をつくり出すイベントをすでに実践をしており、その際の課題点なども報告できたため、市の担当者からも提案に向けた調査および実践に対して肯定的な意見が多くきかれた。

11 月から 12 月にかけていよいよ最終成果物の提出や発表会に向けた準備が本格化してきた。まず 11 月 22 日には提案書の提出が行われた。主に学生 U と学生 K が中心となり、報告書をまと

めあげた。さらに12月上旬には宇都宮共和大学宇都宮シティキャンパスで例年、クリスマスマーケットが開催されており、そのイベントの中でまちづくり提案の発表会も行われた。宇都宮共和大学から出場している5団体が発表を行った。クリスマスマーケットにおける発表はいわば12月23日の宇都宮市役所での発表会のプレ発表として位置づけることができ、学生にとっては本番に向けての良い動機付けとなった。クリスマスマーケットにおけるまちまちサークルの3人による発表のスライド資料は主に学生Uが作成した。原稿は主に学生Kが作成を担当した。12月23日の宇都宮市役所でのまちづくり提案発表会ではスライド資料を用いた口頭発表に加えて、ポスターによる発表も行われる。そのため、学生たちはクリスマスマーケットで使用したスライド資料をさらに改良し、発表会への資料を再構成し、その上でポスターの作成を行った。同時に、口頭発表にむけて発表原稿の改良も続けられた。

2024年12月23日、まちづくり提案発表会が行われた。会場は宇都宮市役所14階の大会議室であった。まちまちサークルの発表は3番目に行われた。提案発表内容の詳細は本冊子の特集ページおよび宇都宮市の「大学生によるまちづくり提案発表会」のWEBページを参照いただきたい。

まちまちサークルの提案は、審査の結果として13団体中で第2位を受賞することができた。評価された点としては、田川で実際に地域の方との共創によりイベントを2回も開催した上で、そこで得られた課題をソフト面とハード面の両面から提案に盛り込んだことである。とくに、田川でイベントをする際の行政手続きの煩雑さについては、土木事務所や警察への実際の申請書をポスターの前に設置してアピールし、田川にぎわい協議会の必要性を強調した。また、田川でにぎわいを創出するにあたって防災面にも配慮し、石碑型ハザードマップによる防災情報の発信も、そのアイデアのユニークさから評価の声がきかれた。

第2位を受賞したことを受けて、まちまちサークルの3人の発表者は宇都宮市長との意見交換会に参加することができた。2025年1月に行われた市長との意見交換会では、短縮版の提案発表を市長の前で行い、内容について市長と直接学生が懇談することができた。学生たちも市の政策にまちまちサークルの提案内容の一部でも反映されることを期待して意見交換会に臨んでいた。

5 これからのまちまちサークルの役割と地域活動へのつながり構築に向けて

まちまちサークルの活動は、宇都宮共和大学にとって重要な社会貢献活動の一端を担ってきた。まちまちサークルの前身の一つである「まちづくりサークル（町おこし Tiger）」が毎年実施してきた「灯ろうづくり体験教室」は平和活動を通じて地域の方々と大学生、および子どもたちがつながりをもてる機会を創出してきた。宮桜祭やみんな田川でバーベQ！といった学生が主体で企画・運営を行ったイベントも多く、地域の方々に参加をいただいた。県議会議員や市議会議員、あるいは自治会長など地域行政に深く関わる方々と大学生がグループワークで議論を深めることもできた。また、宮桜祭などで田川を起点としたまちづくり活動を積み重ねてきたことから、宇都宮土木事務所からまちまちサークルの代表学生に直接「シダレザクラ復活祭2025」への参

加依頼をいただくことができたと考えている。2022年の町おこし Tiger の設立から約3年の月日が経とうとしている中で、まちまちサークルのこれまでの活動が地域の中で認知されていることは、地域の方々と交流する中で感じられる。学生Fが地域の方と会うたびに「こんどいつイベント開催するの?」と聞かれると語る。そうした地域の方々の言動には、宇都宮共和大学やまちまちサークルがイベントを開催して地域を元気してくれるという期待の表れだと考えられる。

他方、大学生は4年で卒業をしてしまうので継続性の問題や、活動を引き継ぐ後輩学生のまちづくり活動へのモチベーションの違いなどの課題も表出している。まちまちサークルに所属する学生も、それぞれ特性があり学生Fのように自らイベントを企画・運営することを好んで活動する学生もいれば、自ら企画・運営をするのではなく他の地域団体が企画・運営するイベントをサポートすることで地域やまちづくり活動へ関与することを好む学生に分かれるのも事実である。地域からは、学生が主体となって推進するイベントを創出してもらいたい声が聞かれることもある一方で、これからサークルの中心的な学年となる2・3年生の世代は学生Fとは異なり、サポート役として地域イベントやまちづくり活動に携わりたい学生が多い傾向にある。そのため、教員としては学生にどのように向き合いまちづくり活動にいきなっていくかを考える必要がある。義務感で地域イベントを企画・運営をさせても結局途中で心が折れてしまい、まちづくり活動そのものに嫌悪感を抱かれてしまつては、まちづくりを学べることを大きく掲げている宇都宮共和大学シティライフ学部にとっても好ましいことではない。今後のまちまちサークルの活動は学生と教員とが相互にコミュニケーションを深めた上で、活動内容を熟慮していく段階であると考えている。

【参考文献・情報】

- [1] 羽田野慶子 (2014): 若者と地域活動 ―福井市における大学生のまちづくり活動の事例から―. 社会科学研究, No.65, 97-116.
- [2] 内藤英二 (2016): まちづくり活動の新展開～提案から実践へ 宇都宮まちづくりお助け隊の誕生～. 宇都宮共和大学 都市経済研究年報, No.16, 147-152.

学生による地域連携活動

2024年度におけるシティライフ学部学生による地域連携活動を紹介します。

(1) 宮桜祭 2024

日時：2024年4月6日（土）

場所：田川遊歩道（宮の橋の下）

主催：学生団体「宮桜祭実行委員会」委員長：藤田虎流（4年）



(2) みんな田川でBBQ

日時：2024年6月9日（日）

場所：若者まちなか活動・交流センター（二荒テラス）および田川河川敷

共催：学生団体「みやガク」若者まちなか活動・交流センター



(3) 宇都宮空襲記録紙芝居パネル展示・YouTube 動画作成

日時：2024 年 6 月 14 日（金）～7 月 19 日（金）

会場：宇都宮共和大学宇都宮シティキャンパス 1 階エンランスホール

主催：内藤マーケティング論ゼミ



(4) 灯籠作り体験

日時：2024 年 7 月 6 日（土）

場所：宇都宮市東地区コミュニティセンター

主催：宇都宮共和大学まちまちサークル



(5) とちぎ子どもの未来創造大学

講座名：栃木県の歴史・文化はくつそうさ隊—隊員募集中!!

日時：2024 年 8 月 8 日（木）

講師：陣内ゼミ学生 7 名



(6) 「蔵フト麦酒ウォーク」(栃木市) ボランティア

日時：2024年9月7日(土)・8日(日)

場所：栃木市嘉右衛門町伝建地区周辺

参加：シティライフ学部学生有志 11名



(7) 平和教育活動「歴史に刻まれた夜今こそ、宇都宮空襲を忘れない！」

日時：2024年10月5日(土)

場所：若者まちなか活動・交流センター(二荒テラス)

主催：宇都宮共和大学まちまちサークル



(8) まちぴあまつり 2024 まちづくり駄菓子屋「おかしのでいえ」

日時：2024年10月13日(日)

場所：宇都宮市まちづくりセンターまちぴあ

参加：陣内ゼミ2年



(9) 築瀬地区文化祭（霜月祭）駄菓子屋，スポーツコーナー

日時：2024 年 11 月 2 日（土）

場所：宇都宮市築瀬地区コミュニティセンター，築瀬小学校校庭

出展：陣内ゼミ



(10) 「大谷石を彩ろう！」ワークショップ

日時：2024 年 11 月 3 日（日）

会場：若者まちなか活動・交流センター

主催：三浦ゼミ（学生 10 名）



(11) フェスタ in 大谷 2024 ボランティア

日時：2024 年 11 月 9 - 10 日（土・日）

場所：大谷資料館

参加：学生 3 名、教員 1 名



(12) 田川シダレザクラ復活祭 2025

日時：2025 年 2 月 9 日（日）

場所：田川兩岸（宮の橋から幸橋）

参加：学生 9 名、教員 1 名

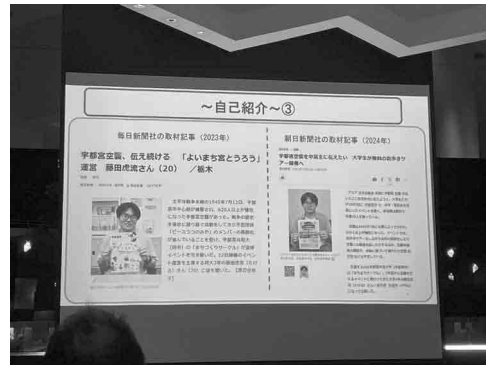


(13) 宇都宮陽北ロータリークラブ招待卓話

日時：2025 年 2 月 18 日（火）

会場：ベルヴィ宇都宮

卓話者：藤田虎流（4 年）



(14) 宇都宮まちづくりワークショップ～VR でストリートの将来を考える

日時：2025 年 2 月 26 日（水）

会場：宇都宮共和大学宇都宮シティキャンパス教育厚生棟 2 階

参加：三浦ゼミ



学生提案 成果報告

宇都宮共和大学シティライフ学部では、「都市の生活・経済・まちづくりを学ぶ」ことを教育の目標とし、まちづくりの担い手となり得る資質を備えた人材を育成するための教育研究活動を行っています。学生はゼミナールにおいて、都市におけるさまざまな課題を発見し、その解決策を考案し、また解決策を現場で実践するなどして研究活動を1年間進めてきました。その活動の集大成となるのが、学外で行われている学生の提案発表会に参加し、ゼミナールでの活動を報告することです。こうした一連の教育活動は、本学の特色ともなっています。

宇都宮市役所内のうつのみや市政研究センターが主催する「大学生によるまちづくり提案2024」には、本学から5つのゼミナール・サークルが出場しました。以下には、各提案骨子の資料を掲載します。なお、宇都宮市のウェブサイトにもそれぞれ提案の骨子資料が掲載されています。

「大学生によるまちづくり提案2024」

(主催：うつのみや市政研究センター，2024年12月23日開催，於：宇都宮市役所)

- (1) 【第2位】 田川を起点としたにぎわい復興～FROM TAGAWA TO THE FUTURE～

提案団体名：宇都宮共和大学 シティライフ学部 まちまちサークル

- (2) 【奨励賞】 「宮 Chil (ミヤチル)」育成プロジェクト

提案団体名：宇都宮共和大学 三浦ゼミ 2年

- (3) 【奨励賞】 宮オリンピックによる共創の輪の創造～コミュニティ立脚型スポレクの展開～

提案団体名：宇都宮共和大学 陣内ゼミ 2年

- (4) 【奨励賞】 まちづくりゲーム TENMIYA の提案～新たな宇都宮の価値の創造を！～

提案団体名：宇都宮共和大学 陣内ゼミ 3年

- (5) 【奨励賞】 私たちのまち宇都宮の新たな商店街の創造を目指して

～戦略的商店街への挑戦～

提案団体名：宇都宮共和大学 内藤マーケティング論ゼミ

田川を起点としたにぎわい復興 ～FROM TAGAWA TO THE FUTURE～

宇都宮共和大学 まちまちサークル

メンバー

山本 悠太 植木 翔瑛 河俣 大輝

提案の背景

JR宇都宮駅東口



ライトキューブ宇都宮

JR宇都宮駅西口



交流の拠点となる
広場がない

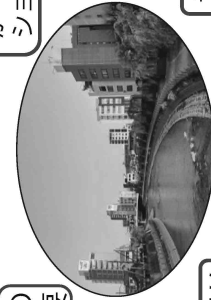
提案の背景



- JR 宇都宮駅西口につながる大通りの歩行者通行量が減少傾向
- 歩行者通行量減少によるにぎわいの低下
- 交流の拠点となるような広場が存在しない

なぜ交流の拠点が必要なのか

地域コミュニティの
創出の場として重要



治安の悪化対策

青少年の健全な育成

交流拠点・広場の質的拡充は、
街としての価値向上に寄与

田川に着目した理由

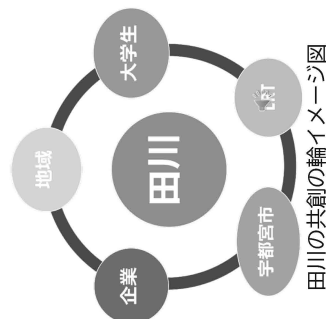
駅前に大きな河川が流れているのは珍しく、希少性が高い
かつては人々が集いにぎわいにあふれていたが、現状はにぎわいが失われ、田川という希少な資源を生かされていない
河川はにぎわい創造、交流の場として活用されている事例が数多くあり、田川は本提案の目標達成に十分適している

課題との関連

まちに広がる「共創」の輪
～「新たな価値」の創造を目指して～

大学生や宇都宮市に住む地域の方々や西口延伸予定のLRTなども巻き込み、田川を中心に共創の輪を形成

共創の輪によって田川は、JR宇都駅西口の交流拠点として生まれ変わり「にぎわい」を創造する



宮桜祭の開催

【開催日時】
2024年4月6日（土）

【主催】
宮桜祭実行委員会

【内容】
ライブステージ
飲食出店
会場装飾、ワークショップ

【予算】
約15万円
資金は企業から「協賛金」として収集



飲食出店



ライブステージ

宮桜祭準備

宮桜祭準備期間スケジュール

2023年 12月	宮桜祭実行委員会発足
2024年 1月	ライブステージ出演者の決定 飲食出店者の選定、行政申請準備
2月	飲食出店者の確定、予算確定 チラシの作成、会場図、行政申請確定
3月	消防、保健所への書類申請完了 企業への協賛依頼完了
4月	装飾物の準備完了、当日の役割分担の 確認、最終調整
4月6日	宮桜祭開催



作成した宮桜祭のチラシ

宮桜祭の結果

- 総来場者数 | 600名以上
- アンケートによる満足度7割以上
- 当日の天候が雨だったのにもかかわらず、多くの人が来場し、にぎわいを創造できた
- イベントを今後も継続的に行うことの価値は大いにありと改めて実感

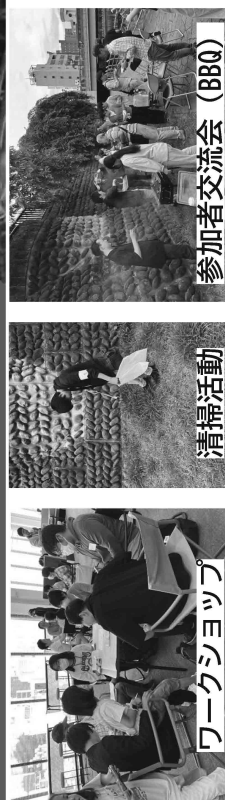
にぎわい創出の課題

田川遊歩道の利用申請が難解

準備期間が長く、大学生のみでは持続困難

ポイ捨てされたゴミが多い

みんな田川でバーベQ！



参加者交流会 (BBQ)

【内容】

第一部
若者まちなか活動・交流センターで、若者と地域の交流について考えるワークショップを開催。

第二部
幸橋から押切橋の田川河川敷および川沿いの歩道の清掃活動
参加者交流会 (BBQ)

フィールドワーク「田川まち歩き」の実施

【実施日時】
2024年10月28日

【まち歩き実施範囲】
幸橋から押切橋の間（右の図の赤線）

【調査内容】
・自分の足で歩き、課題の模索
・ゴミ拾い
・階段の段差、奥行き測定



田川まち歩き調査結果

まち歩き

ゴミ拾い

階段測定

各階段の
写真
↑



	幸橋付近	トナリエ宇都宮前	押切橋付近
段差	23cm	17cm	22cm
奥行き	44cm	47.5cm	44.5cm



階段測定の様子

田川まち歩きの課題



田川遊歩道に下りる階段が3か所しかなく、一番人通りの多い『宮の橋』から距離がある



階段の段差が急であり、高齢者や障がい者の方々にとって非常に不便である



宮の橋の下が暗く、ゴミも多く散乱していたため、治安が心配である

施策事業の提案

『田川 future design』プロジェクト



『田川 future design』プロジェクト

田川を起点とした
交流拠点・にぎわいの創出

3つの施策からなる総合的なプロジェクト



①
田川にぎわい協議会
発足

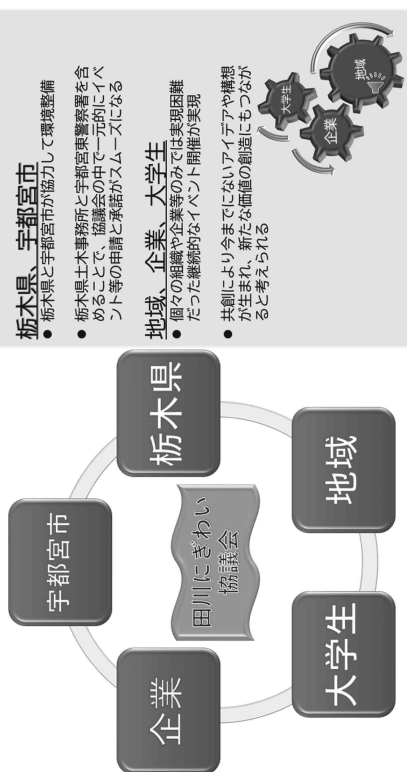


②
誰もが利用しやすい
環境整備



③
独自の水害対策

田川にぎわい協議会の発足



田川にぎわい協議会の発足

《年間イベントスケジュール》

1月	田川初市	7月	田川流しそうめん
2月	田川ぬくぬくフェス	8月	宮灯ろう祭
3月	田川グルメフェス	9月	宮秋祭
4月	宮桜祭	10月	田川ハロウィン
5月	田川黄ぶなのぼり	11月	田川芸術祭
6月	田川IBBQ	12月	クリスマスin田川・ライトアップ

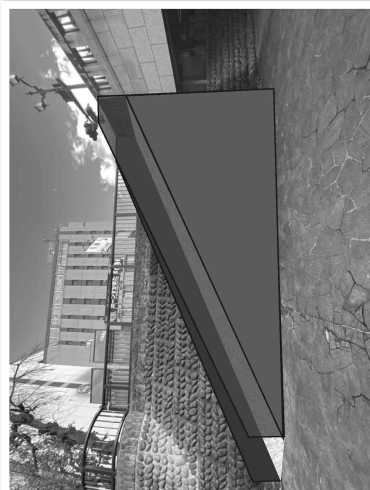
※毎月、第3日曜日に開催！

【協議会発足後のイベントスケジュールのイメージ】

継続的なにぎわい創造が可能になる

誰もが利用しやすい環境整備

スロープの設置



階段の段差が急

スロープの設置

高齢者、障がい者の
方々が利用しやすく



イベントの際、備品の
搬入がスムーズに

誰もが利用しやすい環境整備

田川遊歩道の拡張



イベントの開催中
通行人に迷惑が掛かる

遊歩道の拡張により改善

さらに...
キッチンカーなども入れる
イベントの質が向上
リピーターの増加

継続的なイベント開催に貢献

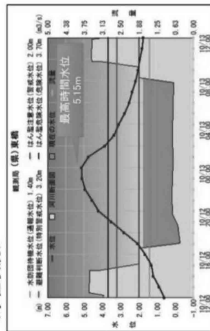
独自の水害対策



宮の橋周辺における氾濫の様子

宮の橋周辺における氾濫の様子
(栃木県県土整備部河川課から引用)

<水位状況>



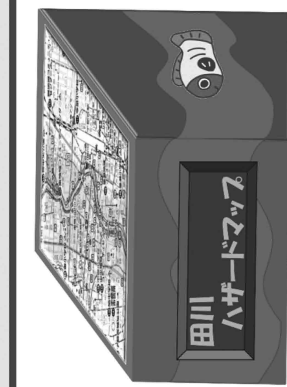
東橋水位観測所における水位
ハイドログラフ
(栃木県県土整備部河川課から引用)

何らかの水害対策が必要

ハザードマップの可視化

私たちの身近な川とうまく付き合うために

田川周辺の水害ハザードマップを
石碑型オブジェとして設置



【田川ハザードマップのイメージ図】

田川周辺の水害ハザードマップを田川を利用する人々に受動的に見せることが可能



景観に配慮しつつ、田川を利用する人々に田川の水害対策を伝えられる

ご清聴ありがとうございました



宮Chil(ミヤチル)育成プロジェクト

宇都宮共和大学 三浦ゼミ2年

○ 本橋 裕佳 小野 美空 菊地 悠統 佐藤 琉乃葉
早乙女 裕紀 手塚 千裕 宮澤 愛子

発表の流れ

3/21

1章 提案の背景・目的
2章 提案の目標・課題との関連

3章 現状分析
3-1. 本提案に関連する既存研究の整理
3-2. 宇都宮市における既存施策事業の整理
3-3. 子どもを対象とした事業の試験的实施・効果把握

4章 施策事業の提案
4-1. 「宮Chil (ミヤチル)」 育成プロジェクトの提案
4-2. プロジェクトにおける関係主体の役割・効果
4-3. プロジェクトにおける今後の課題・展望

私たちの提案

2/21

宮Chilとは…

地域の歴史・伝統文化・産業に関する活動への参加を経て
郷土への深い理解と豊かな愛着が醸成された子ども

宮Chil = 宇都宮 + Children



提案の背景・目的

4/21

☆ 地方圏が抱える課題とその対応策

全国的な低出生率

都市圏への若年人口の流出

地方圏が抱える課題
「どうしたら若年層に選ばれるまちになるのか？」

文化庁 (2002) の報告をふまえ…

「子どもに対する郷土への深い理解と豊かな愛着の醸成」の
ためのまちづくりが活発化

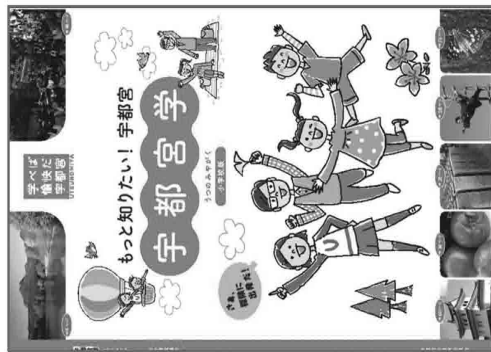
現状分析3-2. 事業整理

9/21

☆ 宇都宮市による「宇都宮学」

- ☆ 2021年度より実施
- ☆ 市内の小中学生が対象
- ☆ 宇都宮市の歴史・伝統文化・産業などについて体系的な学習を通じて、郷土への深い理解と豊かな愛着の醸成および主体性の育成が目的

「宇都宮学」の理念をふまえ、地域の歴史・伝統文化・産業を「子ども主体」で学び・体験できる活動機会が重要



図「宇都宮学」の表紙

現状分析3-3. イベント実施

10/21

☆ 大谷石を利用したワークショップを実施

▶ 大谷石が宇都宮市の歴史・伝統文化・産業と密接に関係しているため

- ☆ 日時 | 11/03 (日) 13:00~15:00
- ☆ 会場 | 若者まちなか活動・交流センター 2Fホール・研究室
- ☆ 内容 | ① 大谷石の説明・〇×クイズ
② 大谷石を利用したクラフト
③ 子ども・保護者に対するアンケート調査

◇ 当日は17名が参加!
(子ども11名・保護者6名)



図 作成したイベントのチラシ

現状分析3-3. イベント実施

11/21

☆ 大谷石の説明・大谷石に関する〇×クイズ
「大谷石の機能」「旧帝国ホテルの建築者」「餃子像」に関する全5問



図「大谷石クイズ」で使用したスライド



図「大谷石クイズ」で使用したスライド



写真「大谷石クイズ」の様子



写真「大谷石クイズ」の様子

現状分析3-3. イベント実施

12/21

☆ 大谷石を利用したクラフト
コースター / 小物入れ / ろうそく立てなど子どもたちが自由に工作



写真「大谷石クラフト」の様子



写真「大谷石クラフト」の様子



写真「大谷石クラフト」の作品



写真「大谷石クラフト」の作品

現状分析3-3. イベント実施

13/21

☆ 子ども・保護者に対するアンケート調査

▷ 調査の概要

- ☆ イベント後に紙媒体の調査票を直接配布し会場で回収
- ☆ 子ども11名・保護者6名を対象 (回収率100.0%)

子どもに対しての質問項目

- 大谷石クイズ・クラフトの満足度
- 本イベントの感想
- 大谷石の特徴・歴史の理解度
- 本市への関心度
- 次回イベントへの参加意向
- 次回イベントで体験したい内容

保護者に対しての質問項目

- 本イベントの満足度とその理由
- 本イベントへの感想
- 次回イベントへの参加意向
- 次回イベントへの協力意向

詳細は報告書をご覧ください

現状分析3-3. イベント実施		14/21
☆ 子ども・保護者に対するアンケート調査		
表 参加児童による「イベントの満足度」		
質問項目	大谷石クイズ	大谷石クラフト
とても楽しかった	6	11
まあまあ楽しかった	3	0
ふつうだった	0	0
あまり楽しくなかった	0	0
全然楽しくなかった	0	0
無回答	2※	0
※ 途中参加により大谷石クイズ不参加の児童によるもの		
どちらも満足度が高い！		
また参加したいです。 大谷石の歴史をもっと知りたいです。 小学3年生の感想より 家では活用できない材料を使うことができて子供の意欲が感じられる取組であり、地元の石であることを子供の意識へと繋げることができた。 小学5年生の保護者の感想より		

現状分析3-3. イベント実施		15/21
☆ 子ども・保護者に対するアンケート調査		
表 参加児童・保護者による「次回イベントへの参加意向」		
表 参加児童による「次回イベントで体験したい内容」		
質問項目	参加児童	保護者
とても行きたい	10	2
まあまあ行きたい	1	4
どちらでもない	0	0
あまり行きたくない	0	0
全然行きたくない	0	0
※ 複数回答		3
リピーターの増加が期待できる！		どの内容も人気！

施策事業の提案

16/21

☆ 「宮Chil（ミヤチル）」 育成プロジェクトの提案

提案の 目的

地方圏における若年人口の流出抑制に向けた
市内の子どもへの郷土愛の醸成

提案の 内容

「子どもへ深い理解・豊かな愛着を醸成させるような
学びや体験の機会を創出する場づくり」を実施

まちに広がる共創の輪 ①

「大学 / 宇都宮市 / 事業者 / 小中学校」などによるサポート

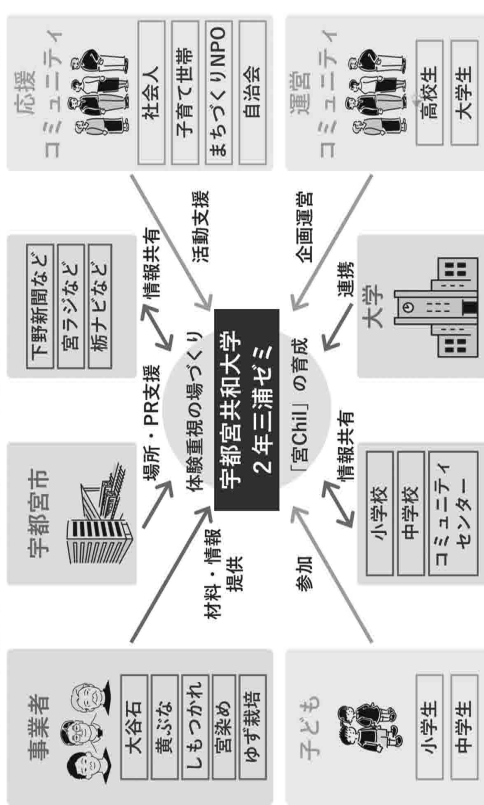
まちに広がる共創の輪 ②

「高校生 / 大学生 / 子育て世帯」などによるコミュニティ

施策事業の提案4-1

17/21

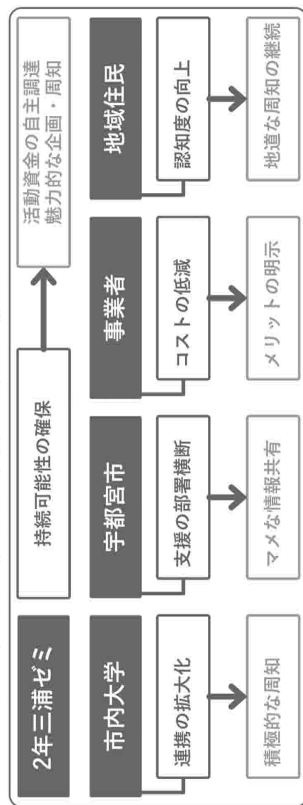
☆「大学／宇都宮市／事業者／小中学校」等によるサポートの「輸」



施策事業の提案4-3

19/21

☆プロジェクトにおける今後の課題・展望



これらの課題を解決し
「共創の輪」が広がると…

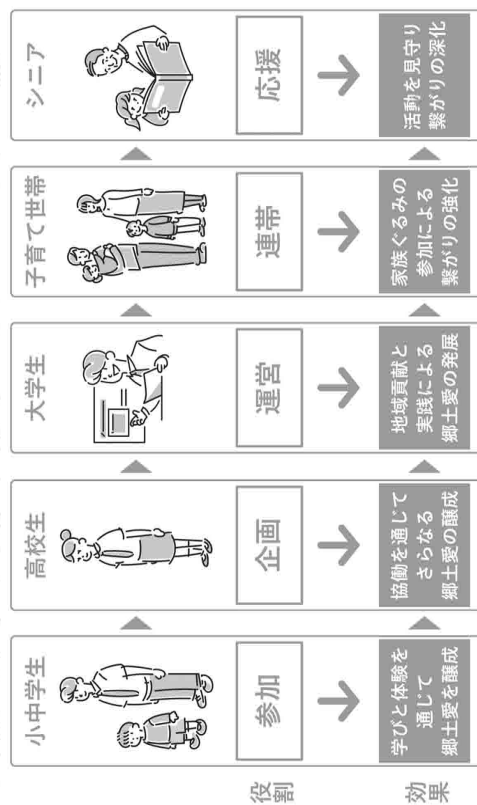
☆地域一体となり次世代へとつながらる郷土愛を広げていける！

☆宇都宮が「若者に選ばれるまち」になる！

施策事業の提案4-2

18/21

☆「高校生／大学生／子育て世帯」などによるコミュニティの「輪」



役所

效果

宮リンピックによる共創の輪 —コミュニティ立脚型スポーツレクの展開—

宇都宮共和大学シティライフ学部 2年陣内ゼミ

- ・安藤啓太
- ・須藤大輝
- ・長谷川憂
- ・田中愛奈
- ・前沢花音
- ・稲川陽菜



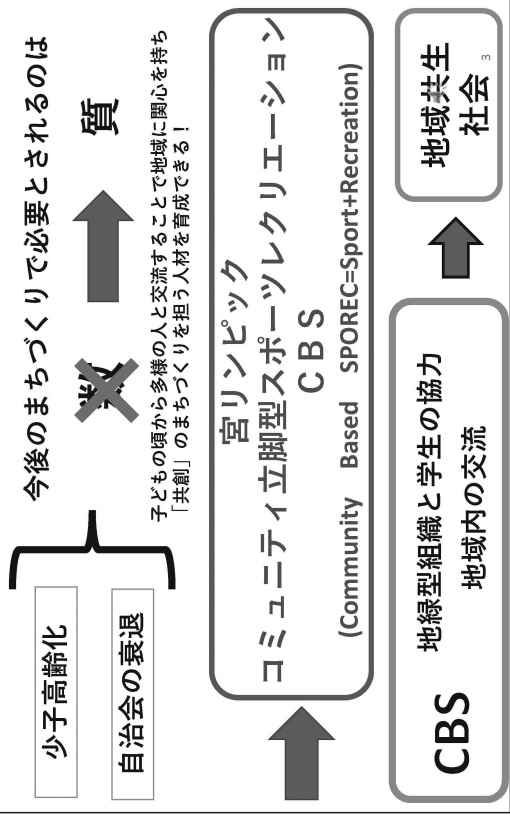
1

目次＜主な構成＞

- 1.提案の背景・目的
- 2.提案の目標・課題
- 3.現状分析
- 4.施策事業の提案

2

1.提案の背景・目的



2.提案の目標・課題＜テーマとの関連＞

共創の輪との繋がり

中村・舞「Well-being時代におけるスポーツの価値と活用に関する考察-地域スポーツ・コミュニティ連携事業の社会的意義と課題-」『桃山学院教育大学紀要』第6号、2024年3月、pp.108-118

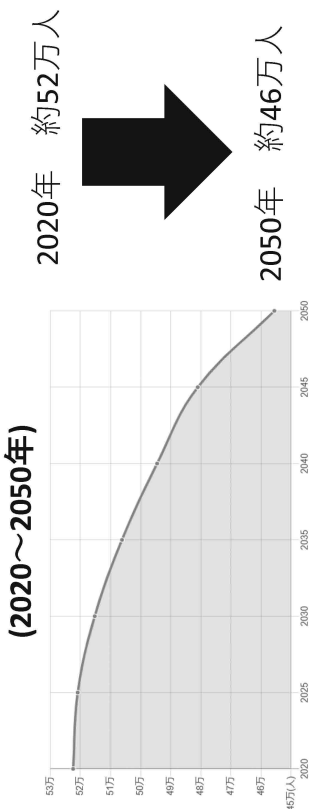
『スポーツを通じて「身体を動かす」という生来の楽しさや喜びを実感するきっかけを創出することは、単に運動機会の提供にとどまらず、個人の尊厳や社会の寛容性を促進させるとともに、深く傷ついた地域コミュニティの再生に寄与する』

- 宇都宮市の各地で「共創の輪」の土壌を
耕し、種をまくことができる

4

3.現状分析 3-1 (1) 宇都宮市の人口動態と地域コミュニティ

宇都宮市将来推計人口 (2020～2050年)



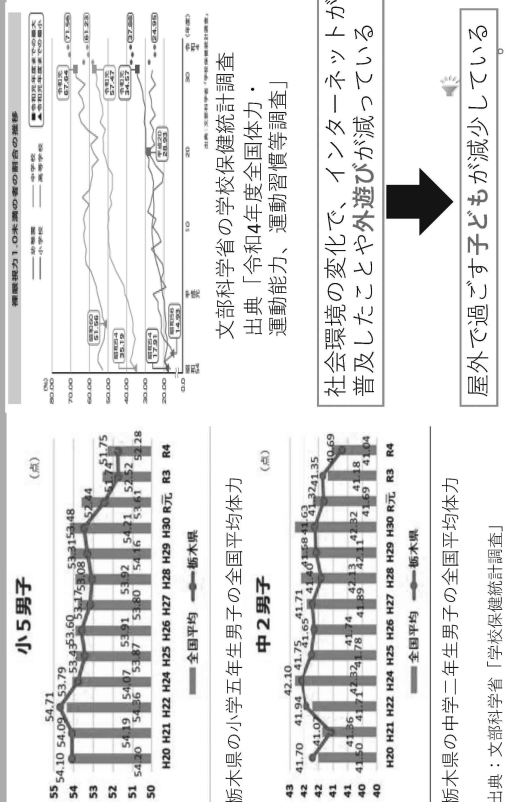
出典 総務省による統計ダッシュボード

自治会への加入率は約61% (2024)

→今後、加入率の低下が懸念される

5

3-1 (2) 子どもの体力向上とスポレク



3-2 宇都宮市における新たなスポレクの可能性の模索「宮リンピック」(CBS)

(スポーツが苦手な人や子どもでも楽しく運動してもらうにはどうするべきか?)



スポーツ + レクリエーション = スポレク
Sporec + Recreation (CBS)

(「第78回全国レクリエーション大会2024とちぎ」でヒントを得た)

- コミュニティ立脚型に込めた思い
- ①地域コミュニティによる主体的な実践
 - ②地域コミュニティの地域性に応じたスポレクの発案
 - ③地域コミュニティによる実践と発案を通じた「共創の輪」の土壌の耕しと種まき

今回、宮リンピックの競技の一つとして「わなげレース」を実践・発案

3-2 (1) 「宮リンピック」(CBS) わなげレース 発案・実施のプロセス

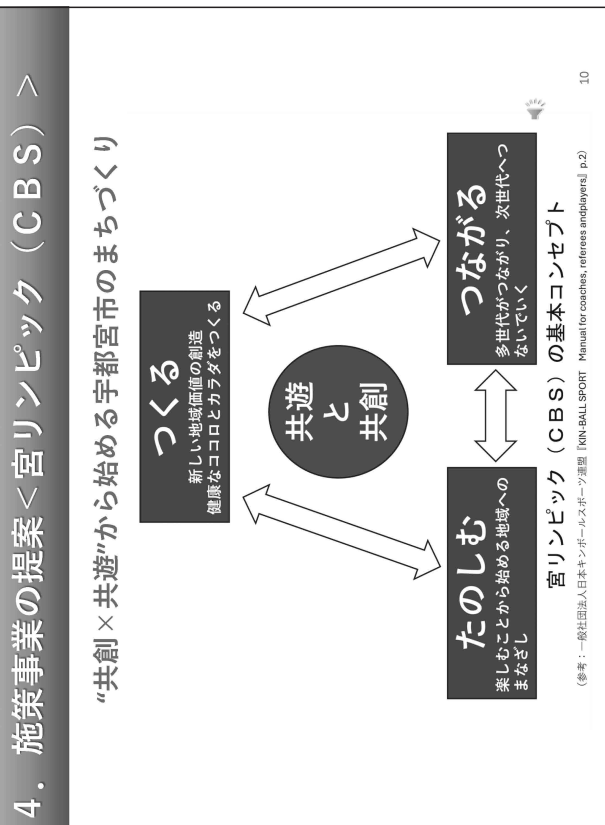
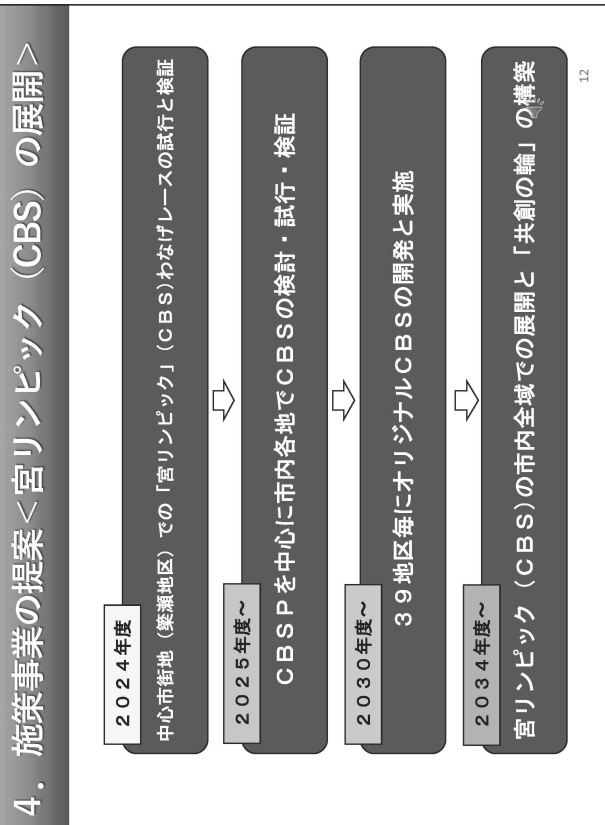
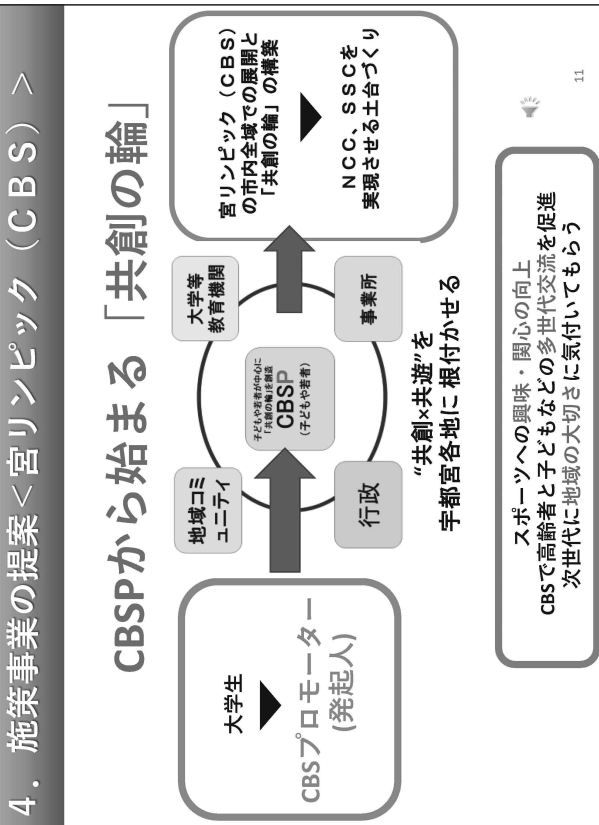
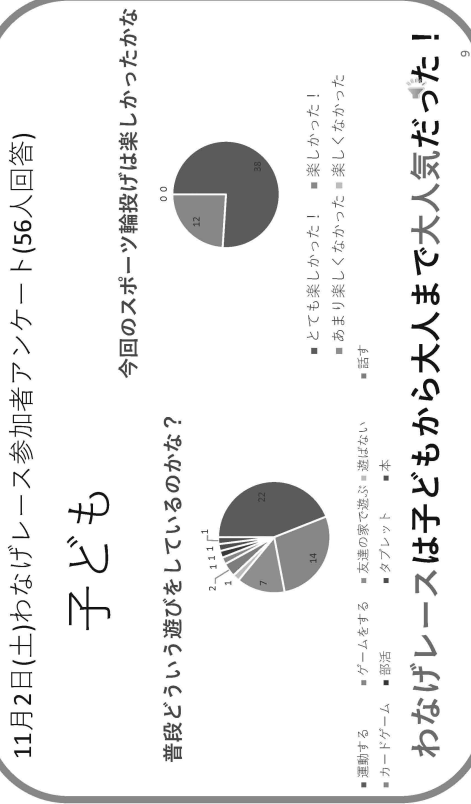
2024.5	広場と子どもの遊び環境に関する中心市街地のフィールド調査
2024.9	「第78回全国レクリエーション大会2024とちぎ」視察調査及び体験調査
2024.10	「まちびあ祭り」にて子どもの遊び等に関するアンケート調査
2024.10	築瀬地区文化祭等に関する自治会等と大学生の検討会議
2024.11	「築瀬地区文化祭」にてわなげレースの実施とアンケート調査
2024.12	屋外でのわなげレースの試行



わなげレースの検討・試行・実施



3-2 (2) 「宮リンピック」わなげレースの実施とアンケートの調査の結果



4. 施策事業の提案＜わなげレースのルール＞



2024.11.2. ゼミ生撮影

- ①一番手前のペットボトルめがけて投げる
- ②一番目が入ったら二番目を狙う
- ③繰り返して一番最後のペットボトルを目指して競争する
- ④早く一番最後にたどり着いた順で順位を決める

13

4. 施策事業の提案＜CBSわなげレースの効果＞

子どもと高齢者などの多世代交流やボランティアで集まった市内の学生達と保護者などの地域の方、自治会や市役所の方との交流

↑
多様な交流が多
く起きた



子どもからは「楽しかった」「もう一回やりたい」
大人からは「とてもよい屈伸運動になる」
「早くゴールしようと走るため良い運動になる」

↑
体力向上にも繋がる多世代交流の場

15

4. 施策事業の提案＜CBSわなげレースの効果＞

11月2日「梁瀬地区文化祭」

- ・ 梁瀬地域コミュニティセンターの二階約7.2m×5.4mの部屋で実施
- ・ 使用した道具はブルーシート・ガムテープ
空のペットボトル・ヒモ・ホースの5つ



- ・ 屋内屋外どちらでも実施が可能
- ・ 低コストで作成
- ・ 持ち運びが容易
- ・ 簡単にセッティング可能



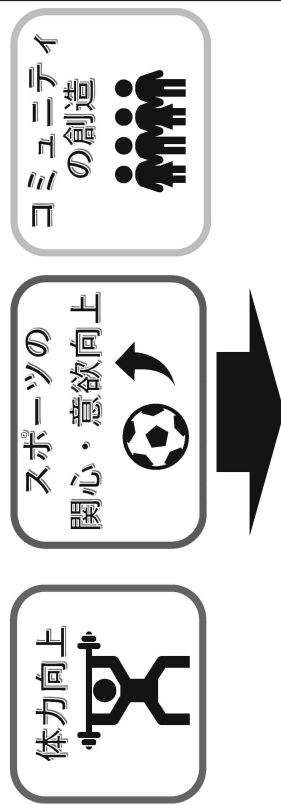
4. 施策事業の提案＜わなげレース＞

■ 搬入・設営・競技・片付け試行＜屋外バージョン＞



16

4. 施策事業の提案＜宮リンピック（CBS）の効果＞

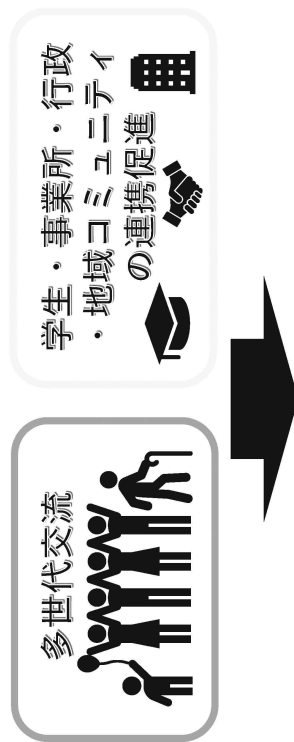


フィジカルリテラシー

フィジカルリテラシーとは「運動にどのような意味や価値があるかという知識、運動に対する前向きな気持ちなど、さまざまな要素を含んだ身体活動に関する素養」であり、フィジカルリテラシーが高い保護者ほど、子どもが体を活発に動かす遊びをよくする」傾向があることが研究で明らかになっている。子どもの遊びを活性化するには、保護者のフィジカルリテラシーが重要。
（保護者のフィジカルリテラシーが子どもの運動機会を左右する。
<https://goodhealth.luntendo.ac.jp/social/000317.html>、閲覧日：2024/11/17）

17

4. 施策事業の提案＜宮リンピック（CBS）の効果＞

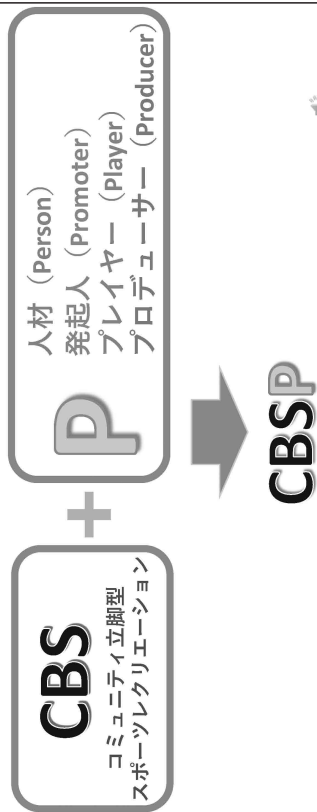


スーパースマートシティ の土台繋がる地域共生社会

18

4. 施策事業の提案＜宮リンピック（CBS）の継続＞

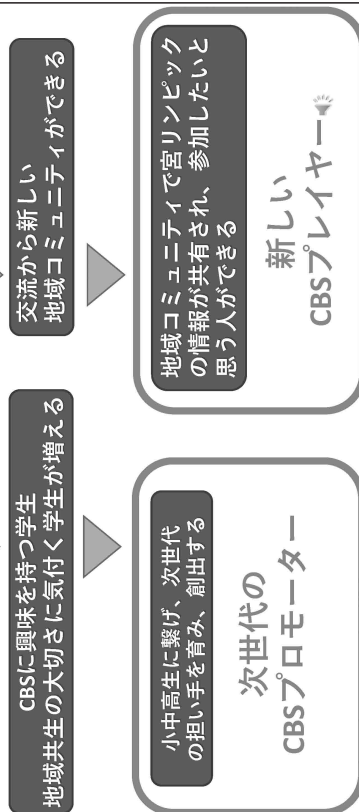
宮リンピックを展開するには
事を始める人、継続させる人・遊ぶ人が必要不可欠



19

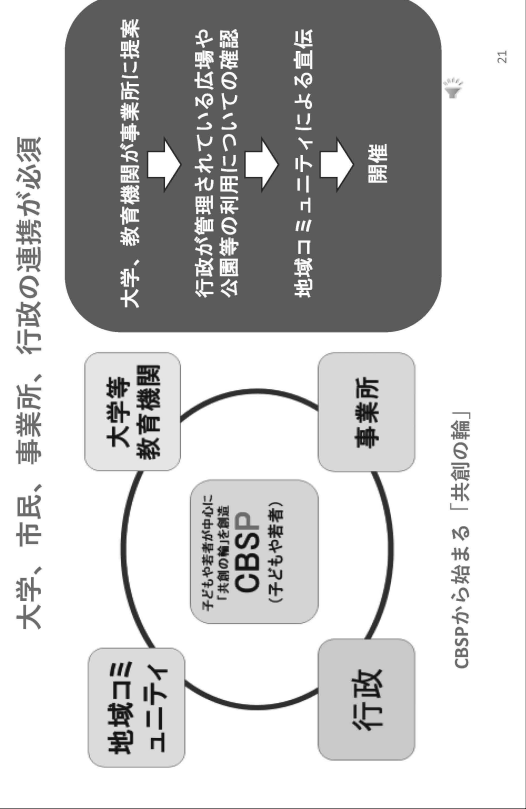
4. 施策事業の提案＜宮リンピック（CBS）の継続＞

宮リンピック開催



20

4. 施策事業の提案＜宮リンピック（CBS）の実現＞



【参考文献】

1) 中村浩也・舞寿之、「Well-being時代におけるスポーツの価値と活用に関する考察 - 地域スポーツ・コミュニティ連携事業の社会的意義と課題 -」『桃山学院教育大学紀要』第6号、2024年3月、pp.108-118

2) グラフで見る宇都宮市の将来推計人口、
<https://graphchart.com/japan/utsunomiya-shi-population-projection-total.php>
(閲覧日：24/11/15)

3) 目を守るために-文部科学省-
https://www.mext.go.jp/content/20240828-mxt_kenshoku-000037357_02.pdf
(閲覧日：24/11/15)

4) 「令和4年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査」の結果について、
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/m01/documents/2301h7.pdf> (閲覧日：24/11/8)

5) 幼児期の「運動遊び」の経験が、未来につづく元気な体を育む！、
<https://goodhealth.iuntendo.ac.jp/sports/000305.html> (閲覧日：24/11/8)

6) 居心地の良い街なかづくりに向けたプロジェクト「プレイスメイキングうつのみや」
<https://www.city.utsunomiya.lg.jp/shisei/machizukuri/1028800/1027134.html> (閲覧日：24/11/18)

7) 三友奈々、「プレイスメイキングの定義・原則と場の評価項目に関する考察」『プロジェクト・フォー・パブリックスペースによる原則と指針を通して』『日本デザイン学会 デザイン学研究』2015年（掲載ページ不詳）

おわりに

宮リンピック（CBS）

- ①地域共生社会の促進
- ②フィジカルリテラシーの向上

ご清聴ありがとうございました。

＜まちづくりゲームTENMIYAの提案＞

～新たな宇都宮の価値の創造を！～

3年陣内ゼミ（宇都宮共和大学シテライフ学部）

3年陣内ゼミメンバー

- ・皆川雅斗・三宅涼・関戸魁皇
- ・田山健太郎・平野心暉・森下智博

◎目次＜主な構成＞

1. 提案の背景・目的
2. 提案の目標・課題
3. 現状分析
4. 施策提案事業

1. 提案の背景・目的

- ・多世代交流
- ・学びと楽しさ！
- ・未来を創造する場

まちづくりゲーム
TENMIYAの誕生

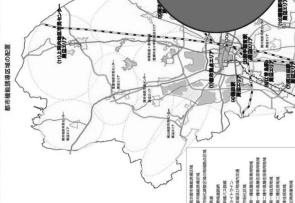
SSC構想推進！：LRTの開通に象徴される
ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）

現在の宇都宮市は…

TENMIYAを通じて、市民が宇都宮市の未来ビジョンを楽しみながら共有・参加できる「場づくり」を提供し「共創の輪」を広げてSSC・NCCの実現を目指す。

- ・脱炭素社会
- ・地域共生社会
- ・地域経済循環社会

都市機能誘導区域の配置図



NCCを実現していくための重要な計画
「宇都宮市立地適正化計画」

“Nothing About Us, Without Us”
（私たちの未来を、私たち抜きに決めないで）

まちづくりゲーム
TENMIYAの誕生

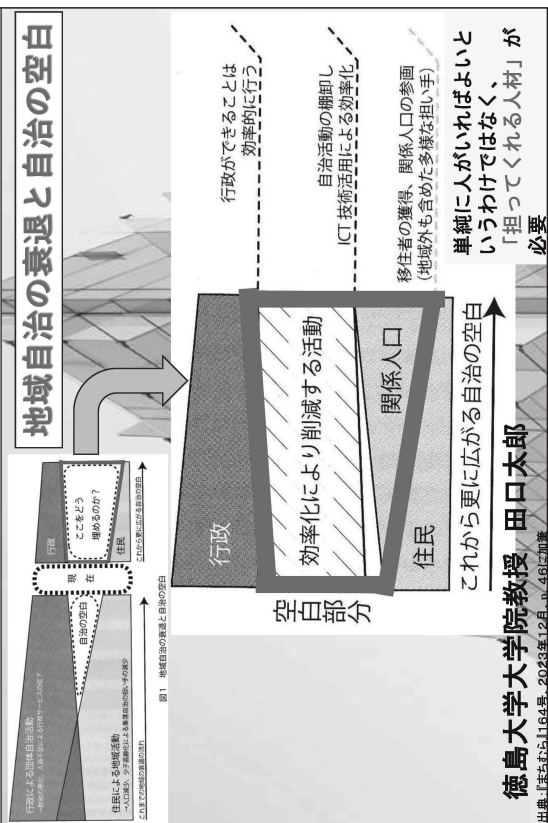
都市機能誘導区域のまちづくりビジョンを“みんな”で“考える！”

TENMIYA = TEN + MIYA
10年後（未来）の宇都宮のための
新たなまちづくり戦略

TENMIYAを通じて、市民が宇都宮市の未来ビジョンを楽しみながら共有・参加できる「場づくり」を提供し「共創の輪」を広げてSSC・NCCの実現を目指す。

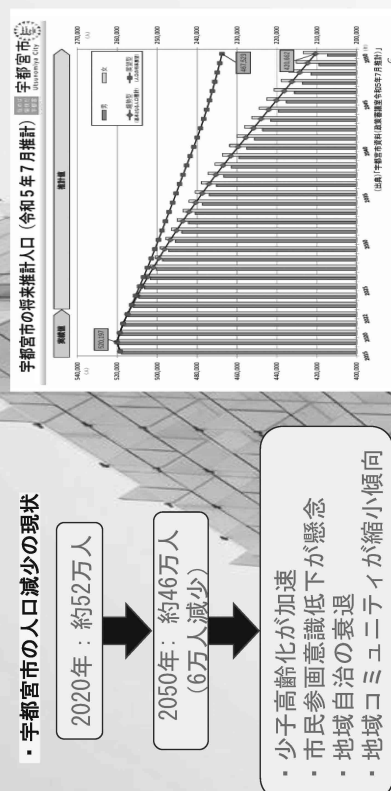
- ・脱炭素社会
- ・地域共生社会
- ・地域経済循環社会

3-2. 現状分析＜宇都宮市の現状と課題＞



3-1. 現状分析

宇都宮市の人口減少と地域自治の課題

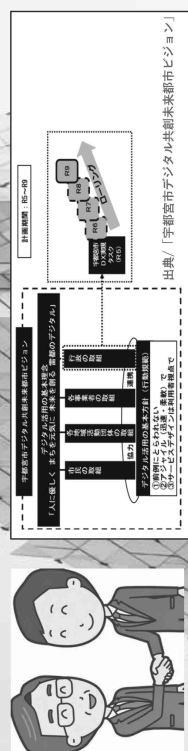


3-3. 現状分析

デジタル施策と地域活性化の可能性

主要な施策

- ・スーパースマートシティ（SSC）：IoTやAI技術を活用
 - ・デジタルスクエア：教育現場でのデジタル技術強化
 - ・デジタル共創未来都市ビジョン：市民と行政の協働
 - ・学校との連携・PBL（問題解決型学習）の導入
- 地域課題解決に向けた
学びの場の提供
- ・学生と市民が協働
 - ・宇都宮市デジタル共創未来都市ビジョン



3-4. 現状分析 <TENMIYAの可能性と新しい市民参画>

TENMIYA→ゲームで学ぶまちづくりの新しい形

○TENMIYAの利点・期待される効果

- ・地域の課題や名所について学び、魅力の再発見につながる。
- ・プレイヤー同士が協力しアイデアを出し合うことで、新たな視点が生まれる。
- ・地域コミュニティの活性化や、プレイヤー自身の発信力向上を目指す。

①出展/新都市部まちづくりビジョン

②「TENMIYAゲーム」の写真
(ゼミで撮影) 9
(ほしこく4214271-044)

4. 施策事業提案

「フィールド調査 & アンケート調査」

「TENMIYA検討と制作のプロセス」

「TENMIYAの展開のスキーム」

4-1. 施策事業提案①「フィールド調査」

フィールド調査の実施

TENMIYAの対象エリアにある施設のフィールド調査を行った

実施日
内容

7月8日 (土)
東西駅の現存施設及び新施設の写真撮影

7月9日 (日)
東西駅及びLRT+他施設の周辺調査

大学生

二荒山神社

4-1. 施策事業提案①「アンケート調査①」

アンケート調査の実施

実施日
内容

2024年9月～11月
大学生3名+まちづくりに関心のある社会人21名=24名に宇都宮市のまちづくりに対する認識や期待を把握するためのアンケート調査を行った。

図-1 SSCの認知度

スーパースマースシティ（以下、SSC）について知っていますか。

いいえ 4%

はい 96%

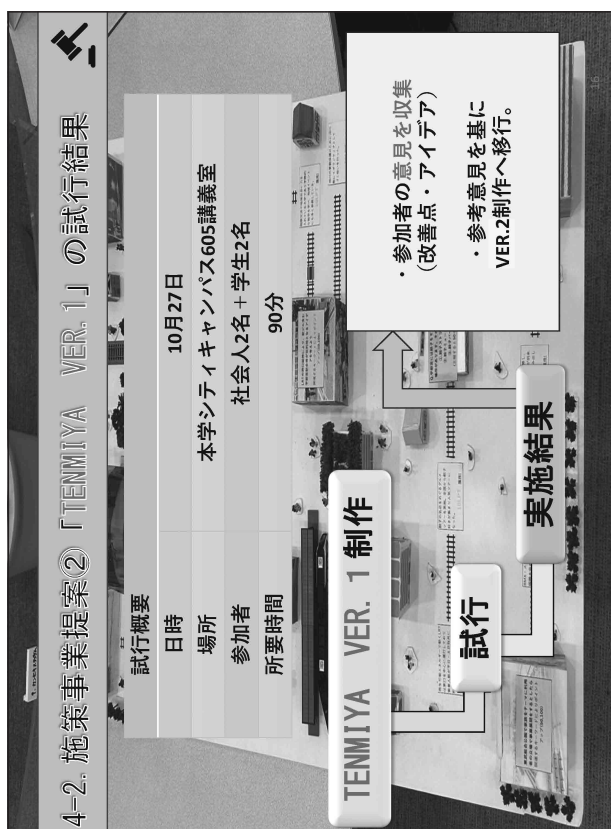
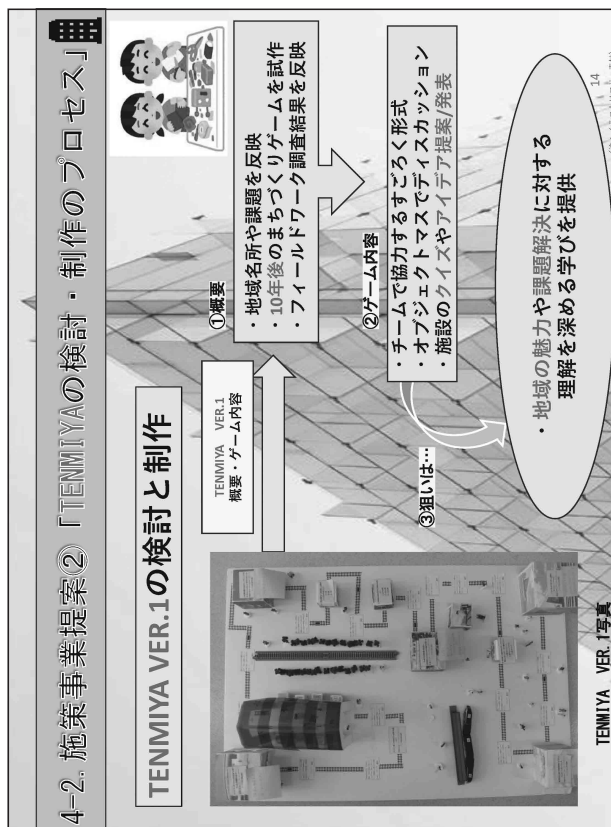
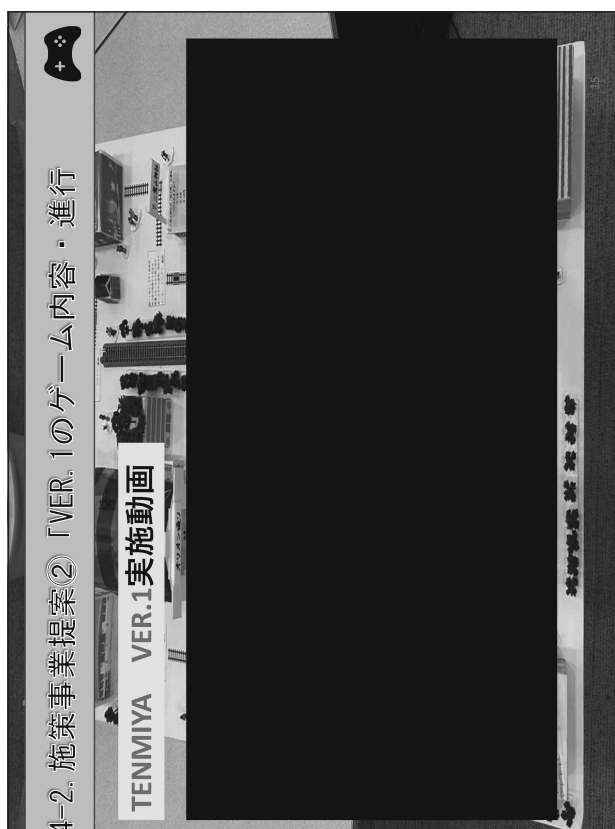
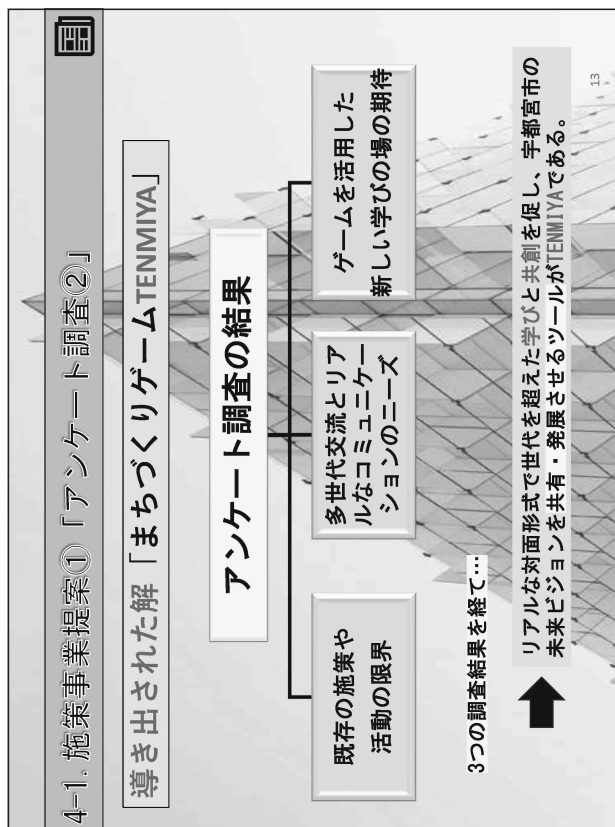
図-2 コミュニティや活動場所の期待

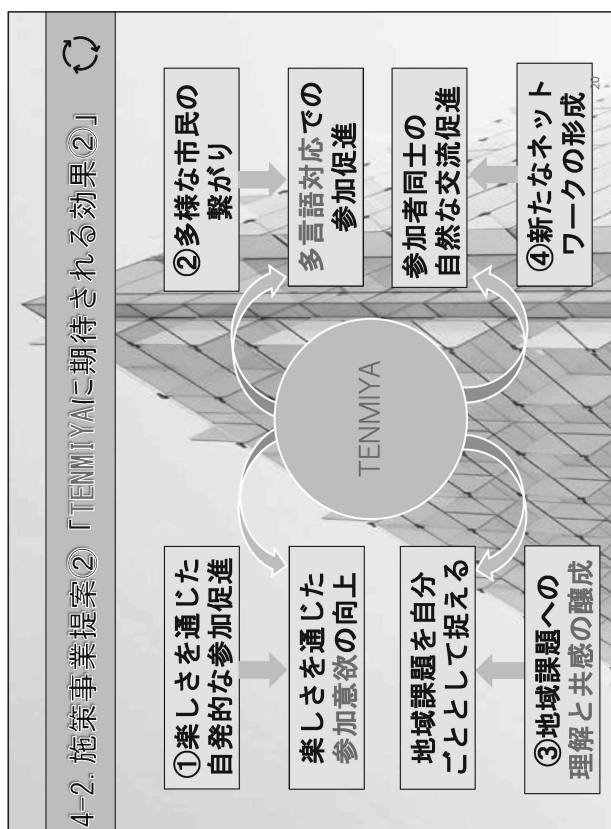
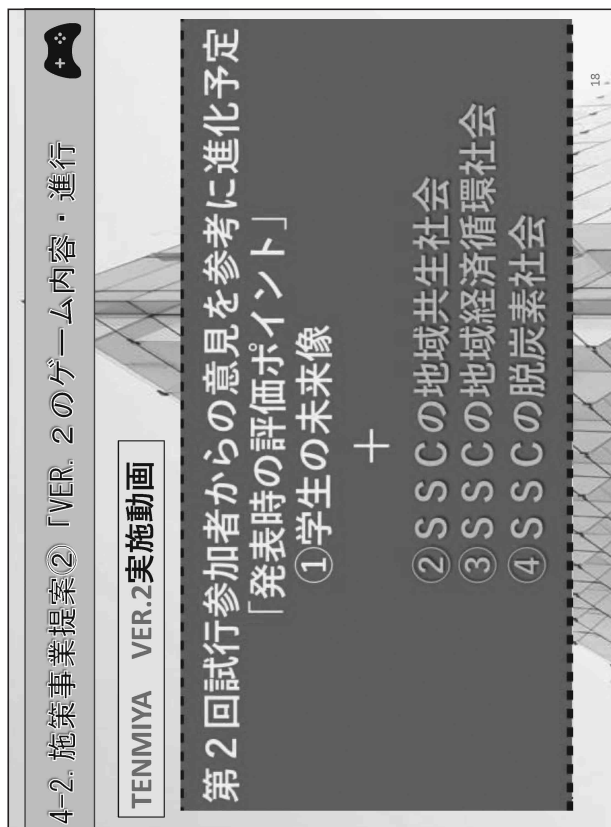
まちづくりを楽しくする「すごろくゲーム」があったらいいと思いますか。

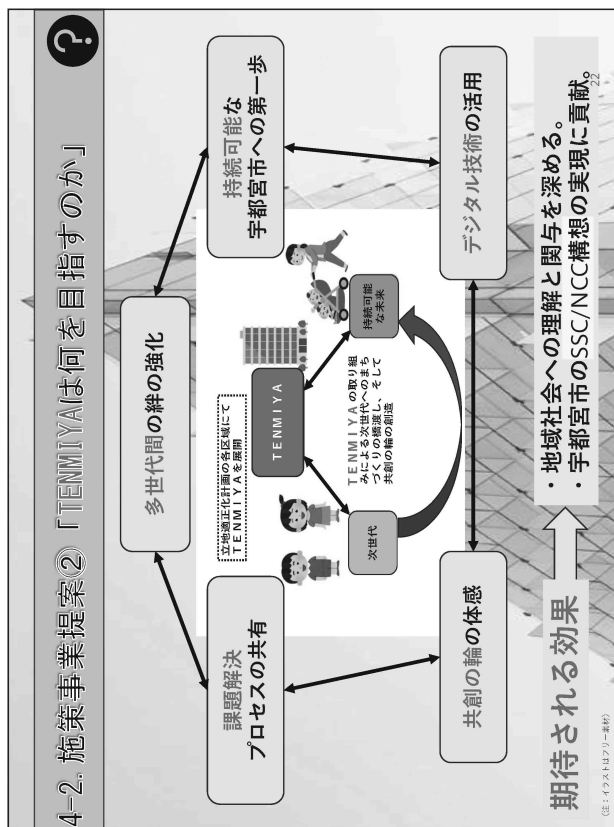
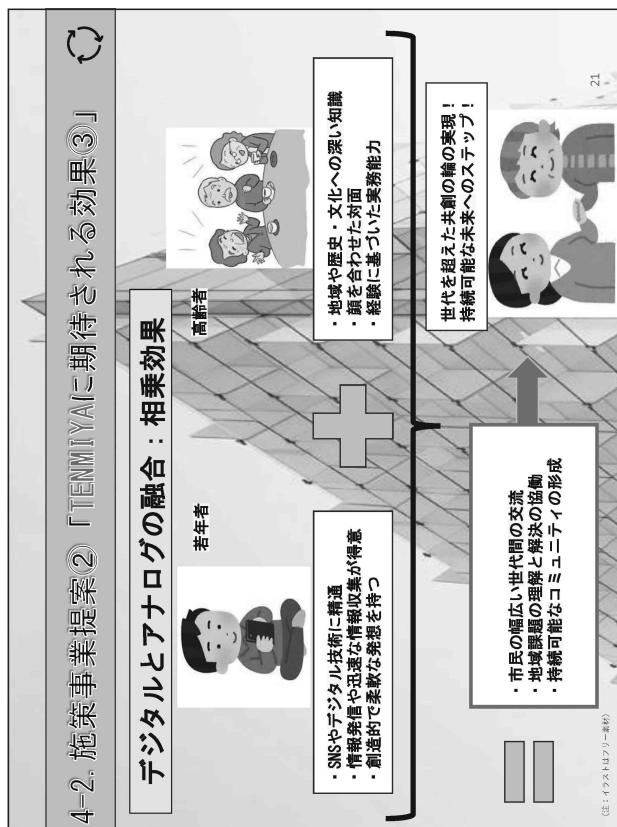
いいえ 8%

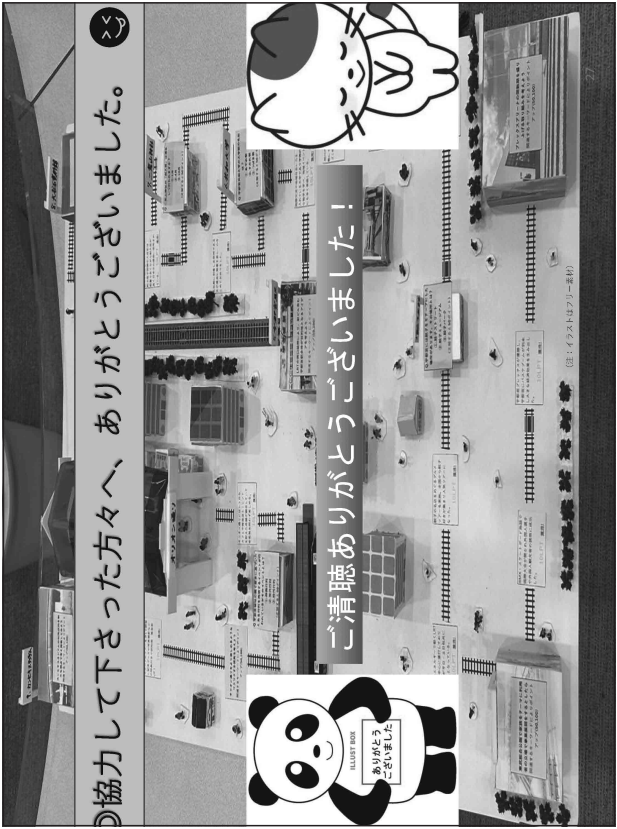
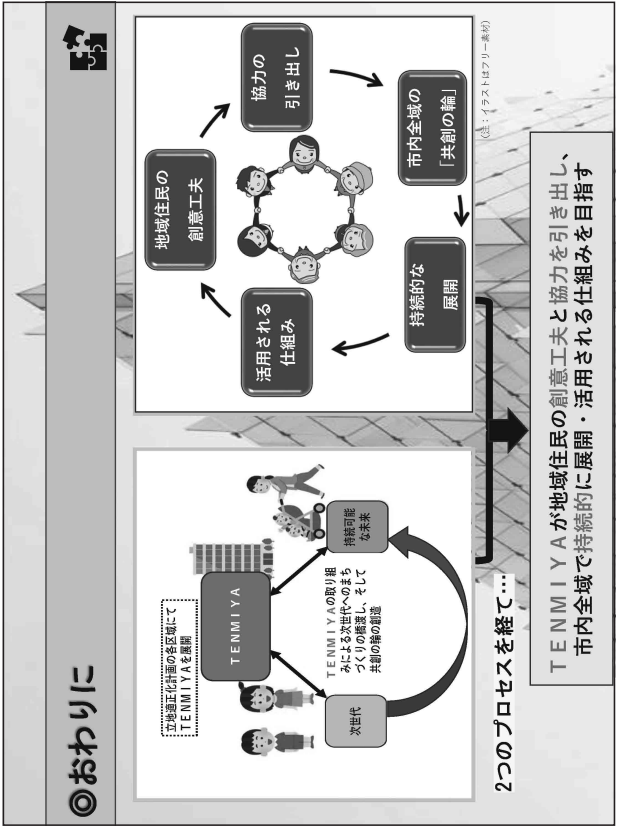
はい 92%

141









◎参考資料

宇都宮市の将来推計人口（令和5年7月推計）
 宇都宮市公式Webサイト <https://www.city.utsunomiya.lg.jp/~res/~page>

宇都宮市デジタル共創未来都市ビジョン
 宇都宮市公式Webサイト
<https://www.city.utsunomiya.lg.jp/shisei/machi>

「都心部まちづくりビジョン」の策定について・宇都宮市
 宇都宮市公式Webサイト
<https://www.city.utsunomiya.lg.jp/~res/~page>

スーパースマートシティうつのみや、<https://ssc.city.utsunomiya.lg.jp/>

『まちむら』164号、2023年12月号、p.45

宇都宮市立地適正化計画
<https://www.city.utsunomiya.lg.jp/shisei/machizukuri/1014948/1009282.html>

グラフで見る宇都宮市の将来推計人口、<https://graphchart.com/japan/utsunomiya-shi-population-projection-total.php>

宇都宮市スーパースマートシティの推進<https://www.city.utsunomiya.lg.jp/shisei/machi/1034074.html>

宇都宮市、地域社会のデジタル化に向け「宇都宮市デジタルスクエア」
<https://www.city.utsunomiya.lg.jp/shisei/machi/>

宇都宮市デジタル共創未来都市ビジョン
<https://www.city.utsunomiya.lg.jp/shisei/machi/1034530/1031070.html>

古田真子・長藤子、「まちづくり教育における学習支援ツールの開発―地域指向型ボードゲームの作成―」『日本建築学会九州支部研究報告』第58号、2019年3月、pp.289・292

私たちのまち宇都宮の新たな商店街 の創造を目指して

～戦略的商店街への挑戦～

宇都宮共和大学シティライフ学部内藤マーケティング論ゼミ3年
佐藤・柿沼・チャン・大野



調査研究の流れ

ゼミ研究のテーマ

宇都宮シティキャンパスの施設を活用し周辺地域のまちづくりについて考え実行する

提案のテーマ

デコレーションを周辺地域に波及させる・市内商店街の戦略的運営の可能性を検討する

1.現状分析	2.改善策考案・提案	3.計画・実施
デコレーションを実施する商店街を選定 ・商店街の現状を調査・課題や住民のニーズを分析 オンラインでのアンケート調査を実施	対応策を考案 商店街へ本ゼミとの連携を提案 説明会を実施 ・事業内容を詳細に説明	デコレーションの形式・設置箇所を協議 デコレーション実施（予定） アンケート調査で事業効果を測定（予定）



提案の背景・目的

デコレーションを周辺地域へ：オリオン通りを選定

昨年度のデコレーション事業
実施場所：宇都宮共和大学キャンパス内
実施期間：1週間程度
実施対象：大学前を通る・本学生
実施方法：ゼミ内での計画・実施



今年度のデコレーション事業
実施場所：商店街
実施期間：1ヶ月～2ヶ月程度
実施対象：通りを訪れた人
実施方法：運営組合と連携

通りや街を統一的に彩ることへの関心を高める

デコレーションをすることで通りを歩く人々が楽しめる

「住む人にも訪れる人にも楽しく 愉快的な宇都宮」を実現＞宇都宮市の活性化に寄与したい



提案の目標・課題

目標:デコレーションを行う

<商店街でデコレーションを実施>

それと同時に戦略的商店街の運営について考える

- ・オリオン通りの現状について分析・調査を行う
- ・店舗の営業時間・展開している店業種の分析・訪れる人の意見など....

様々な課題を発見

治安：夜の治安が悪い

業種の偏り：居酒屋が多く幅広い世代が楽しめるお店が少ない

過疎化：シャッターが多い



聞き取り調査 回答数:35件

調査方法：グーグルフォームによるアンケート調査

調査対象：オリオン通りに訪れたことがある人

回答者：20歳以上30歳未満の回答数が全体の60%

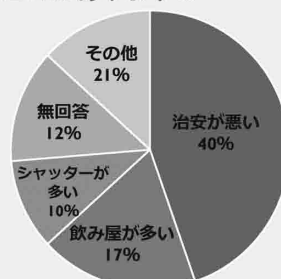
15歳未満	15歳以上 20歳未満	20歳以上 30歳未満	30歳以上 40歳未満	40歳以上 50歳未満	50歳以上 60歳未満	60歳以上 70歳未満	70歳以上
0	8名	21名	0	2名	2名	2名	0

質問項目

- ・現在のオリオン通りについて思うことはありますか
- ・オリオン通りを訪れた際には何をしますか
- ・オリオン通りがこれからどうなったら良いと思いますか



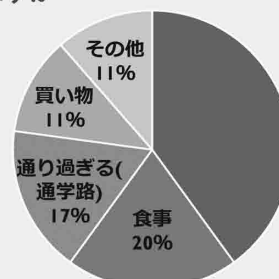
○現在のオリオン通りについて思うことはありますか



その他のご意見

- ・ポイ捨てが多い
- ・遊べるところがない
- ・土曜日の夜は混雑して歩きづらい

○オリオン通りを訪れた際には何をしますか



その他のご意見

- ・ウィンドショッピング
- ・イベントを見る
- ・ミヤラジに出演する



○オリオン通りがこれからどうなったら良いと思いますか

治安の改善（夜でも安心して通れるように）	5件
幅広い年代でにぎわってほしい	6件
↑若年層や高齢者でも楽しめるように	
もっといろんなお店が増えてほしい（カフェ・居酒屋・レストラン・雑貨屋・洋服屋など）	5件
昼間も活気がある場所	3件
・オリオン通りだけでなく二荒山神社や城址公園、日の町通りも含めて高齢者にも優しい商店街づくりを望む	
・地域住民だけでなく、それ以外の地域から訪れる人を迎える体制を整えてほしい	
・学生も通やすく、かわかれる場所にしてほしい（通学路として利用する人が多いから）	

オリオン通り内で営業している店舗 59件うち飲食店40件

9：00～14：00	23：00～2：00	両方営業している
3件	21件	16件

- ・物販店：13件 平均営業時間 10:00～18:00
- ・サービス店：6件 平均営業時間 10:00～21:00

施策事業の提案

～商店街の安心安全な空間づくり～

治安の改善・幅広い世代の人々が1日中楽しめる商店街を実現させる

デコレーション事業	押しチャリ推進事業	安全対策強化事業	子連れサポート事業
運営組合と協議 具体的なデザイン案を作成・実施 ・季節を彩るデザイン ・地元やイベントの広報デザイン 滞在時間の延長 非日常感を楽しめる	押しチャリ啓発デザインのポスター・フライヤーを製作 押しチャリ誘導員配置 押しチャリ意識を浸透させる 自転車事故の抑制	通り内で店頭や事故発生者の恐れがある個所を調査 ・セーフティガードや印を付ける 子供や高齢者が躓いて転倒する危険性を抑制できる	通り内の数か所にキッズスペースを設置 ・補助員を配置 ・遊具を設置 *一時的に預かるのみで長時間の託児は禁止 保護者が快適に買い物や食事ができる 子連れでも楽しめる空間づくり

各事業費用

費用:デコレーション事業	単価	口数	金額	備考
ロゴフラック製作費	3,520	9	31,680	
広告資材印刷費	30.8	100	3,080	
装飾作業アルバイト人件費	3,000	5	15,000	1人につき日給3,000円
小計A			48,352	

費用:押しチャリ推進事業	単価	口数	金額	備考
協力依頼ポスター制作費	33	20	660	
協力依頼フライヤー印刷費	30.8	100	780	
安全推進アルバイト人件費	1,100	4	4,400	1人につき時給1,100円
小計B			5,840	

各事業費用

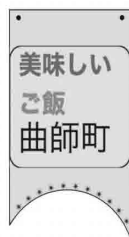
費用:安全対策強化事業	単価	口数	金額	備考
セイフティガード購入品	1,000	15	15,000	
セイフティガード設置費	0		0	内藤ゼミで実施
小計C			15,000	

費用:子連れサポート事業	単価	口数	金額	備考
遊具レンタル料	0		0	市役所こども課よりの貸与
補助員アルバイト人件費	1,100	4	4,400	1人につき時給1,100円
小計D			4,400	

$$A + B + C + D = \underline{29,592\text{円}}$$



曲師町商業協同組合との協議



曲師町商業組合に内藤マーケティング論ゼミとの連携を提案
承諾していただいた

現在
デコレーションの設置個所・デザインを協議中
通り沿いの柱の間にロゴフラックを設置予定



事業の到達目標

事業の実施後に再びアンケート調査を実施

「治安」・「交通」に関する項目を設ける

事業効果を測定

「治安の改善が見られた」:半数以上

「交通ルールに関する改善が見られた」:半数以上

キッズスペースの設置に関する項目やデコレーションに関する項目も設け、意見を募る

○治安の改善や安全対策の強化が施されることによって幅広い世代の人々が安心して買い物や食事を楽しむことができる

○かつてのオリオン通りのような活気があふれる商店街を目指すと同時にオリオン通りでしか作れない思い出が生まれる商店街の運営を目指す。



宇都宮共和大学 都市経済研究センターの主な活動報告

2024 年度における都市経済研究センターの主な活動を報告します。

1 運営体制

名誉センター長 古池 弘隆
センター長 田部井信芳
運営委員長 田部井信芳
運営委員 大石 和博・高丸 圭一・永井 紹裕・坂口 豪・三浦 魁斗

2 講演会の開催

(1) シティライフ学シンポジウム

テーマ 「『M I C E 都市』の創造に向けて－産官学民による誘致戦略を考える－」

開催日 2024 年 7 月 2 日（火）

会 場 宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス 401 大講義室

内 容

○基調講演「M I C E 誘致のための都市づくり」

横浜市にぎわいスポーツ文化局観光M I C E 振興部長 正木 章子 氏

○パネルディスカッション「各都市に学ぶM I C E 誘致戦略」

・パネリスト

宇都宮市魅力創造部長 安納 正和 氏

(株)コンベックス代表取締役専務 西川 洋子 氏

(公財)新潟観光コンベンション協会副理事長 木村 勇一 氏

(一社)宇都宮観光コンベンション協会常務理事 鈴木 孝美 氏

横浜市にぎわいスポーツ文化局観光M I C E 振興部長 正木 章子 氏

・司会 宇都宮M I C E ネットワーク会長・宇都宮共和大学学長 須賀 英之

参加者 120 名

(2) シティライフ学シンポジウム

テーマ 「『大谷石文化』の魅力発信を考える

－フランク・ロイド・ライトがとちぎに残したもの－」

開催日 2025 年 2 月 7 日（金）

会 場 宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス 401 大講義室

内 容

○基調講演「フランク・ロイド・ライトがとちぎに残したもの」

兵庫県立大学環境人間学部教授・建築史家

水上 優 氏

(株)新素材研究所所長・建築家・宇都宮市公認大谷石大使

榊田 倫之 氏

○パネルディスカッション「大谷石文化の魅力発信を考える」

・パネリスト

近代建築・デザイン史家

橋本 優子 氏

栃木県文化協会会長

中津 正修 氏

宇都宮大学名誉教授・宇都宮市市政研究センター上席アドバイザー

三橋 伸夫 氏

・司会 宇都宮共和大学学長・宇都宮まちづくり推進機構理事長

須賀 英之

参加者 120 名

3 那須塩原市民大学

(1) 2024 年度那須塩原市民大学（宇都宮共和大学連携講座）

会 場 那須塩原市図書館「みるる」

【第 1 回】

テーマ 「命を守るコミュニティづくりと共有地の悲劇」

開催日 2024 年 8 月 22 日（木）

講 師 シティライフ学部 教授 和田佐英子

参加者 12 名

【第 2 回】

テーマ 「音遊びで親子のふれ合いコミュニケーション」

開催日 2024 年 8 月 28 日（水）

講 師 子ども生活学部 准教授 新井祐子

参加者 6 組（12 名＋1 名）

(2) 那須塩原市民大学運営委員会

那須塩原市が設置した「2024 年度那須塩原市民大学運営委員会」において、シティライフ学部松田勇一教授が運営委員を務めました。

4 栃木県生涯学習課「とちぎ子どもの未来創造大学講座」

テーマ 「栃木県の歴史文化はくくつそうさ隊ー隊員募集中!!」

開催日 2024 年 8 月 8 日（木）

会 場 宇都宮共和大学宇都宮シティキャンパス 604 講義室
講 師 シティライフ学部 教授 陣内雄次
シティライフ学部陣内ゼミ
対 象 栃木県内の小学 4 ～ 6 年生
参加者 4 名

5 宇都宮共和大学公開講座（とちぎ県民カレッジ連携講座）

名 称 韓国語初級講座
期 間 2024 年 5 月 17 日（金）～ 6 月 28 日（金）
会 場 宇都宮共和大学那須キャンパス
講 師 シティライフ学部 教授 松田勇一
参加者 7 名

6 講師派遣制度

主 催 宇都宮市創造都市研究センター
期 日 2024 年 9 月 25 日（水）
テーマ 「地理学視点に基づく観光資源のストーリー化」
講 師 シティライフ学部 専任講師 坂口 豪
会 場 宇都宮市まちづくり交流センター イエローフィッシュ
参加者 10 名程度

7 宇都宮市創造都市研究センター

宇都宮市創造都市研究センターは、宇都宮市内の私立 4 大学（宇都宮共和大学・作新学院大学・帝京大学宇都宮キャンパス・文星芸術大学）と自治体・産業界等が連携し、宇都宮都市圏の創造都市による発展を目指し、2017 年 10 月に設立されたプラットフォームです（センター長：宇都宮共和大学長 須賀英之）。

運営委員 シティライフ学部 教授 田部井信芳

8 地域産学官連携活動

以下の委員会等において地域産学官連携事業の対外窓口業務を展開しました。

- ・大学コンソーシアムとちぎ 学生 & 企業研究発表会実行委員会 委員
- ・公益財団法人栃木県産業振興センター とちぎ産業振興ネットワーク推進会議 委員
- ・宇都宮市経済部産業政策課 宇都宮イノベーションコンソーシアム 委員
- ・宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課 宇都宮市民大学運営協議会 委員
- ・宇都宮 MICE ネットワーク 委員
- ・宇都宮市創造都市研究センター 運営委員

・大谷グリーン・ツーリズム推進協議会 委員

9 刊行物

『宇都宮共和大学都市経済研究センター年報 2024 第 24 号』2024 年 5 月発行

10 学生支援

シティライフ学部 1・2 年生を対象とした合宿交流研修におけるまちあるきの実施方法（フィールドワーク等）を都市経済研究センター運営委員（高丸）が指導した。

日 時 2024 年 4 月 18 日（木）～ 19 日（金）

会 場 栃木市内各所及び日光きぬ川ホテル三日月

令和6・7年度 専任教員の社会貢献活動(シティライフ学部)

職名	氏名	委嘱の内容		
		名称	職位	設置者
学長	須賀 英之	[各種審議会・委員会委員等]		
		栃木県私立学校審議会	会長代理	栃木県
		栃木県公私立高等学校協議会	委員	栃木県
		栃木県文化振興審議会	会長	栃木県
		栃木県文化功労者選考委員会	委員長	栃木県
		とちぎの元気な森づくり県民会議	会長	栃木県
		「文化と知」の創造拠点整備構想策定検討委員会	会長	栃木県
		栃木県信用保証協会外部評価委員会	委員長	栃木信用保証協会
		うつのみや産業振興協議会	会長	宇都宮市
		那須塩原市社会教育委員	委員	那須塩原市教育委員会
		栃木県私立中学高等学校連合会	副会長	
		[団体兼職]		
		大学コンソーシアムとちぎ	副理事長	
		栃木県交響楽団	会長	
		栃木県楽友協会	会長	
		栃木県オペラ協会	理事	
		栃木県文化協会	常任理事	
		うつのみや文化創造財団	理事	
		宇都宮まちづくり推進機構	理事長	
		「よみがえれ！宇都宮城」市民の会	会長	
		宇都宮市中心市街地活性化協議会	会長	宇都宮市都市整備部
		宇都宮 MICE ネットワーク	会長	
		宇都宮大学ステーキホールダー会議	委員	
		宇都宮市創造都市研究センター	センター長	
		全国音楽療法士養成協議会	理事	
		栃木銀行	社外監査役	栃木銀行
		あしぎん国際交流財団	理事	足利銀行
		宇都宮みずほ研修会	会長	みずほ銀行

職名	氏名	委嘱の内容		
		名称	職位	設置者
教授	田上 富男	栃木県国土利用計画審議会	委員	栃木県総合政策部
		真岡女子高等学校評議委員会	委員	真岡女子高等学校
教授	寺内 孝夫	那須塩原市立小中学校等通学区域審議会	会長	那須塩原市教育委員会
教授	陣内 雄次	栃木県地球温暖化防止活動推進センター	運営委員	栃木県
		栃木県子ども・子育て審議会	会長	栃木県
		とちの環県民会議	会長	とちの環県民会議
		下野市市民活動補助事業選考委員会	会長	下野市総合政策部市民協働推進課
		武蔵野大学サステナビリティ研究所	客員研究員	武蔵野大学
		矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会	アドバイザー	矢板市総合政策部
		矢板市公共施設マネジメント	アドバイザー	矢板市総務課
		宇都宮市中心市街地活性化協議会	幹事	宇都宮市総合政策部
		鹿沼市地域のチカラ協働事業審査会	委員長	鹿沼市市民部
		鹿沼市市民協働モデル事業審査会	委員長	鹿沼市市民部
		那須塩原市都市計画審議会	会長	那須塩原市都市計画課
		野木町協働のまちづくり支援事業補助金審査委員会	委員長	野木町
		栃木市文化財振興計画推進懇談会	アドバイザー	栃木市教育委員会
		栃木市文化財保存活用地域計画協議会	会長	栃木市教育委員会

職名	氏名	委嘱の内容		
		名称	職位	設置者
教授	和田 佐英子	公益財団法人下野奨学会	評議員	下野新聞社
		栃木県コミュニティ協会研究推進委員会	委員	栃木県コミュニティ協会
		国土審議会専門委員（水源開発）	専門委員	国土交通省
		利根川水系鬼怒川・小貝川河川整備計画フォローアップ委員会	委員	国土交通省関東整備局
		那珂川水系河川整備計画フォローアップ委員会	委員	国土交通省関東整備局
		久慈川水系河川整備計画フォローアップ委員会	委員	国土交通省関東整備局
		栃木地方最低賃金審議会	委員	厚生労働省栃木労働局
		官民競争入札等管理委員会	専門委員	総務省
		栃木行政監視行政相談センター行政懇談会	委員	総務省関東管区行政評価局
		栃木県文化功労者選考委員会	委員	栃木県県民生活部
教授	田部井 信芳	宇都宮市市政研究センター企画運営アドバイザー	アドバイザー	宇都宮市総合政策部
		宇都宮市創造都市研究センター運営委員会	委員	宇都宮市創造都市研究センター
教授	大石 和博	栃木県行政改革推進委員会	委員	栃木県
		那須塩原市環境審議会	会長	那須塩原市環境課
		那須塩原市環境影響評価審議会	委員	那須塩原市環境課
		宇都宮イノベーションコンソーシアム	委員	宇都宮市経済部産業政策課
教授	松田 勇一	宇都宮市民大学運営協議会	委員	宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課
		栃木県地域留学生交流推進協議会運営委員会	委員	栃木県国際交流協会
教授	高丸 圭一	那須塩原市民大学運営委員会	委員	那須塩原市教育委員会
		「学生&企業研究発表会」実行委員会	委員	大学コンソーシアムとちぎ
		言語処理学会大会実行委員会	委員	言語処理学会
		日本音声学会	評議員	日本音声学会
准教授	薄井 浩信	社会言語科学会学会誌編集委員会	委員	社会言語科学会
		とちぎ産業振興ネットワーク推進会議	委員	栃木県産業振興センター
准教授	北浦 さおり	宇都宮市もったいない運動市民会議	委員	宇都宮市環境部環境創造課
		宇都宮市環境審議会	委員	宇都宮市環境部環境創造課
		栃木県文化功労者選考委員会	委員	栃木県
准教授	漆戸 宏宣	北上市史編さん近現代部会（現代班）	会員	岩手県北上市企画部総務課市史編さん室
専任講師	坂口 豪	宇都宮 MICE ネットワーク	会員	宇都宮観光コンベンション協会
		日本地理学会集會委員会	委員(幹事)	日本地理学会
		なすからジオの会 プチエーロ	会員	那須烏山ジオパーク構想推進協議会
専任講師	三浦 魁斗	大谷グリーン・ツーリズム推進協議会	構成員	大谷グリーン・ツーリズム推進協議会事務局
		「学生&企業研究発表会」実行委員会	委員	大学コンソーシアムとちぎ

都市経済研究センター年報・第25号

発行日	2025年5月31日
編集・発行	宇都宮共和大学都市経済研究センター 〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り1丁目3番18号 TEL 028-650-6611 FAX 028-650-6612 E-mail rcenter@kyowa-u.ac.jp Website https://www.kyowa-u.ac.jp/
印刷	(株)松井ピ・テ・オ・印刷 〒321-0904 栃木県宇都宮市陽東5丁目9番21号
定価	1,000円（消費税込み）